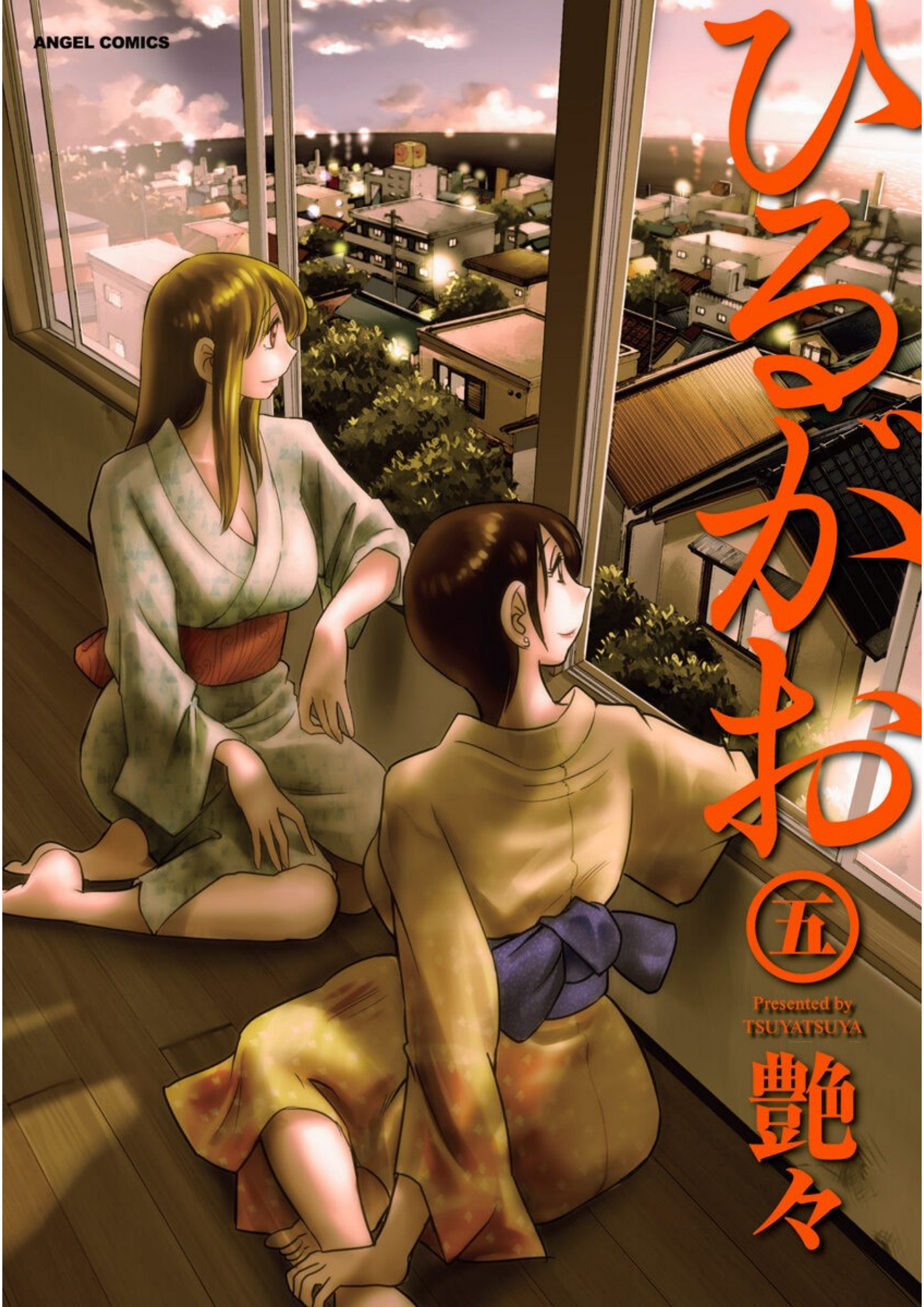


ANGEL COMICS



ひるがお

五

Presented by
TSUYATSUYA

艶々

ひるがし



Presented by
TSUYATSUYA

艶々

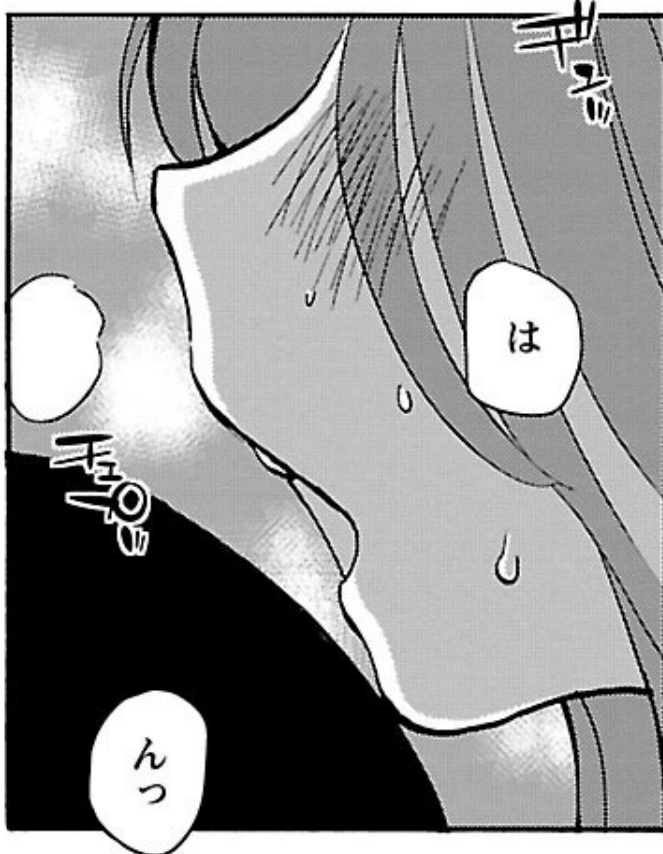


目次 CONTENTS

第33話	姦	かん	5
第34話	生	おいたち	25
第35話	血	つながり	47
第36話	胚	たまご	67
第37話	籍	せき	89
第38話	時	とき	109
第39話	娘	むすめ	131
最終話	絆	きずな	151

第33話 女女 かん







は

ん



気持ち
いいのかい
……？



んっ

うん



あ……

フツッ

んっ

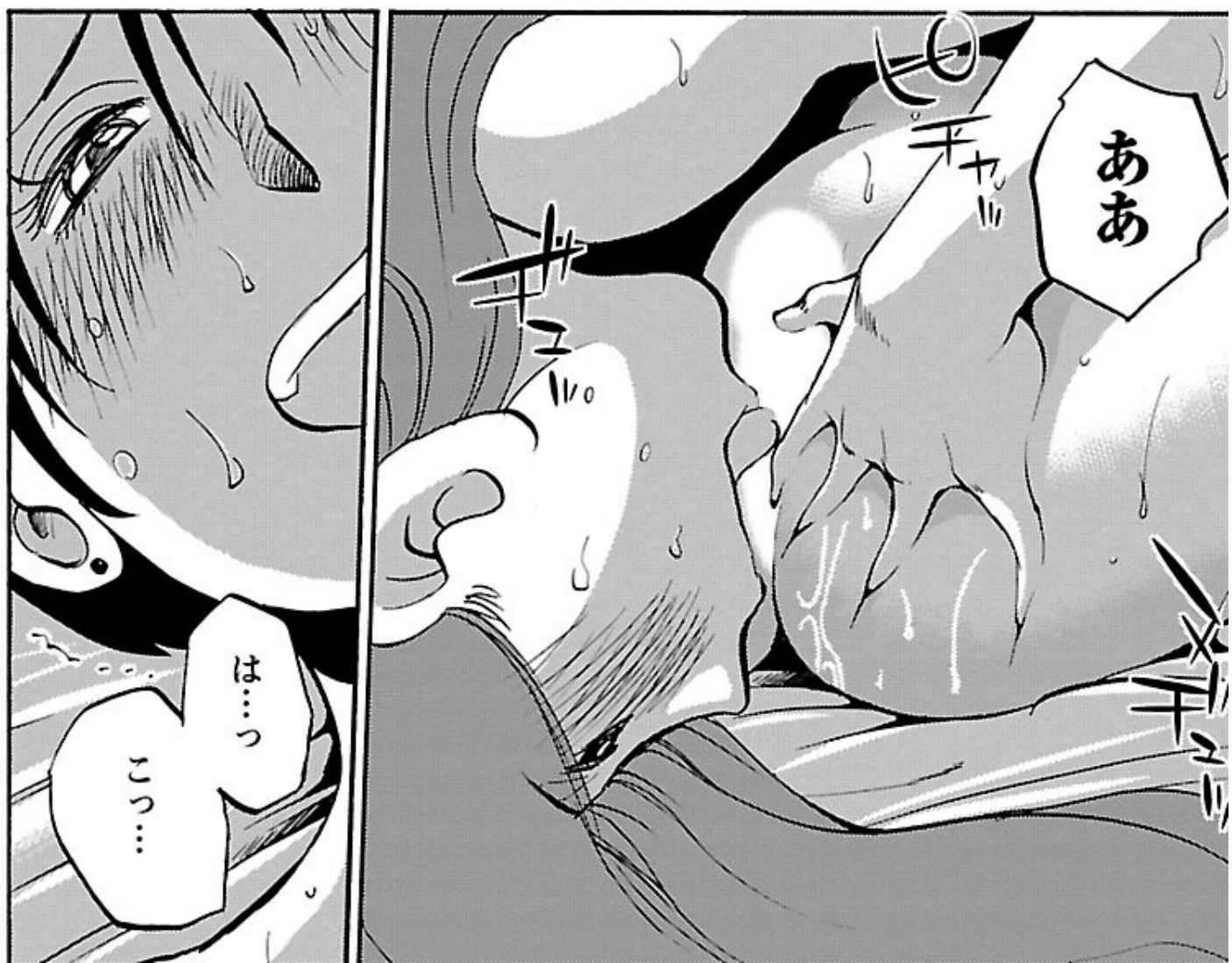
んっ

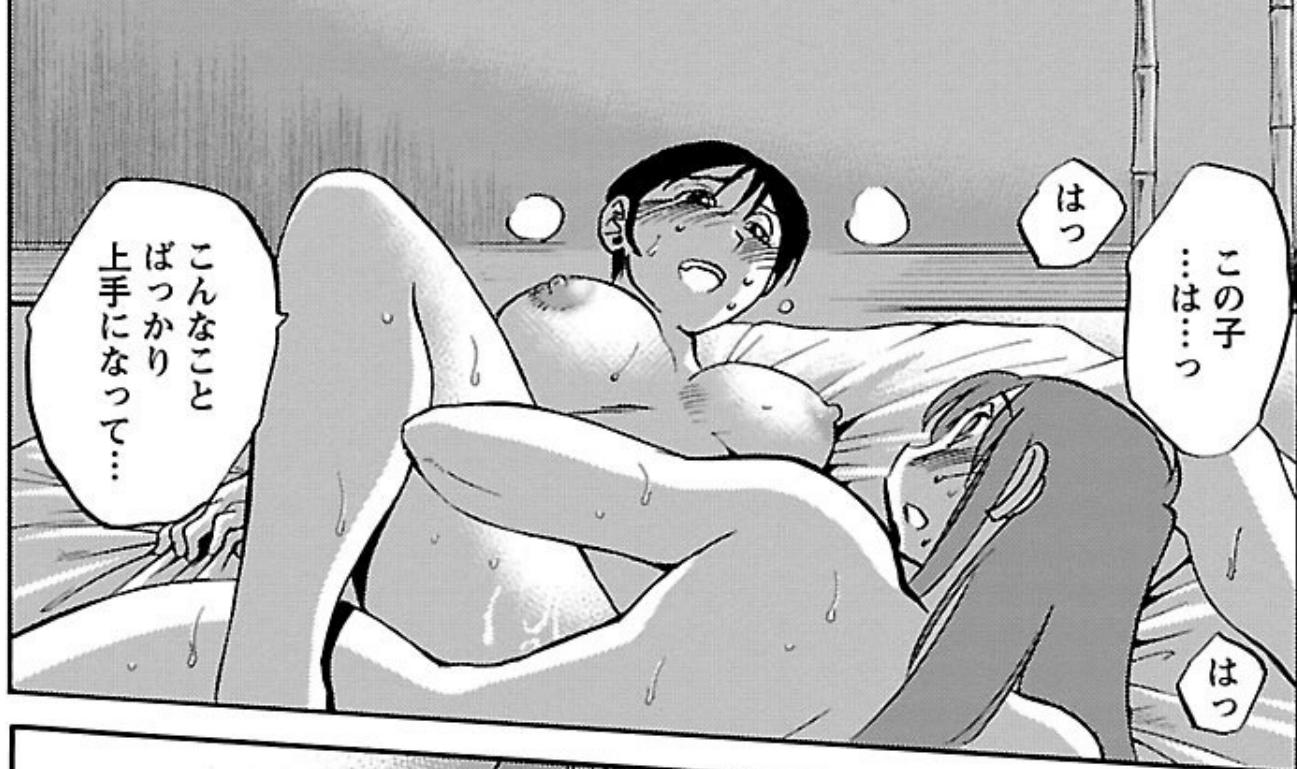












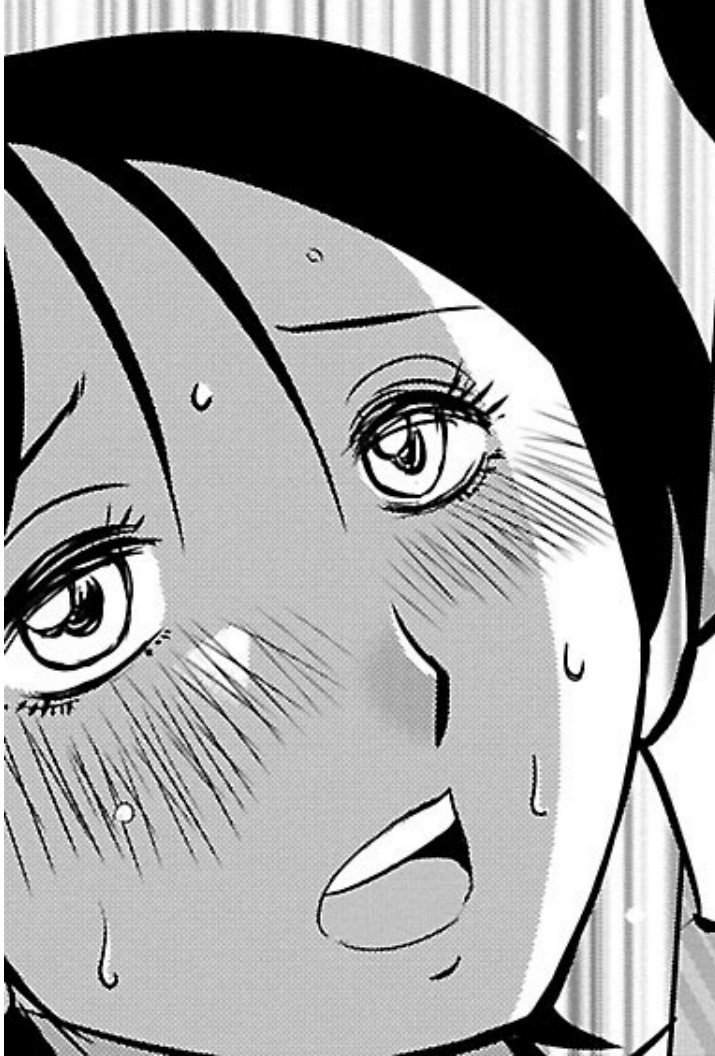


あ…ッ

んっ…

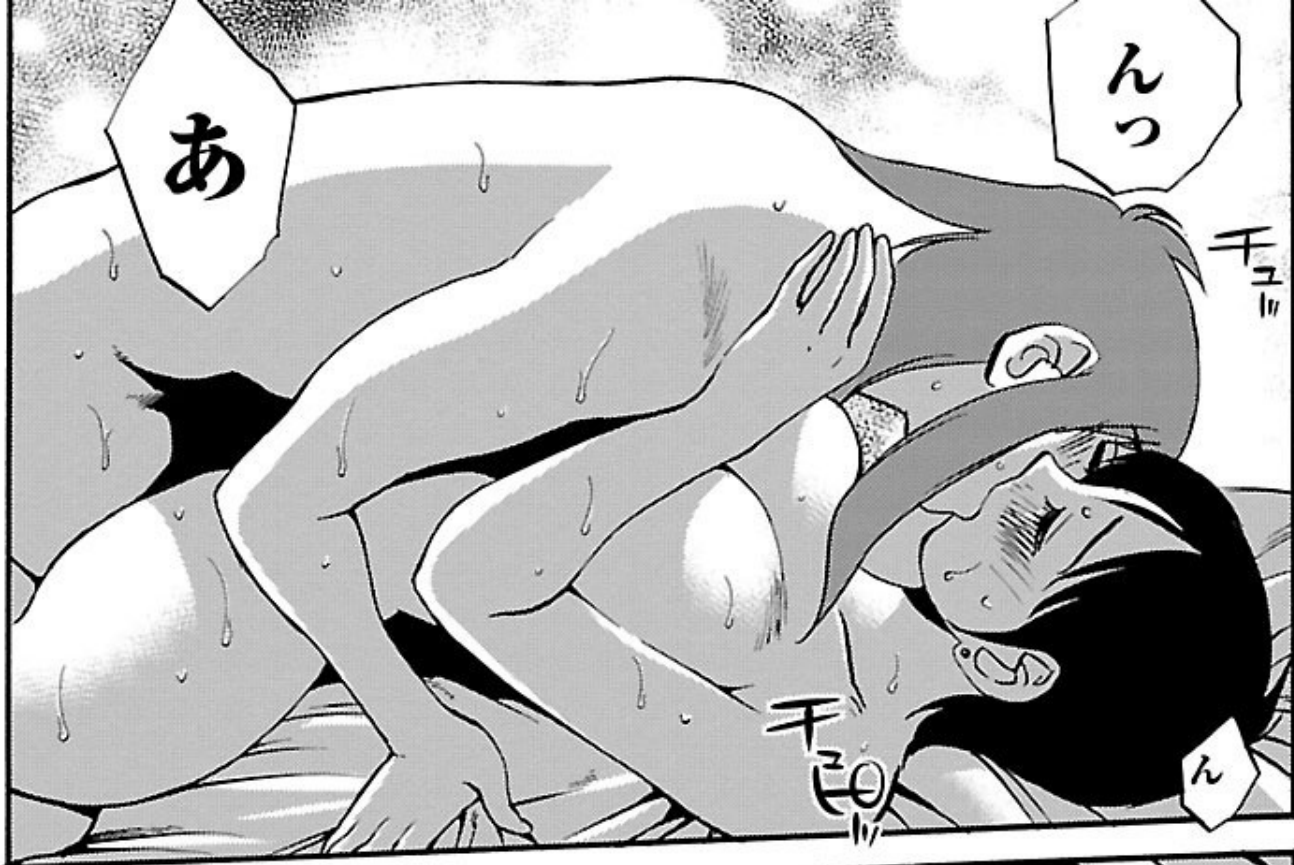


は



あ











全部おくれ…
お前の…



私に…

アッ
アッ



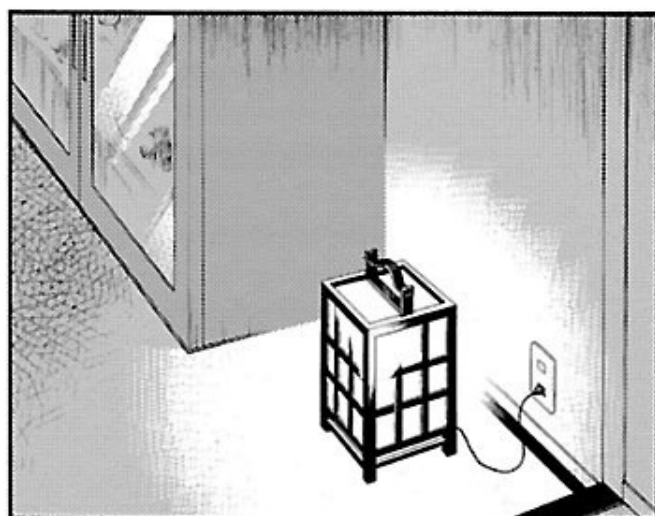
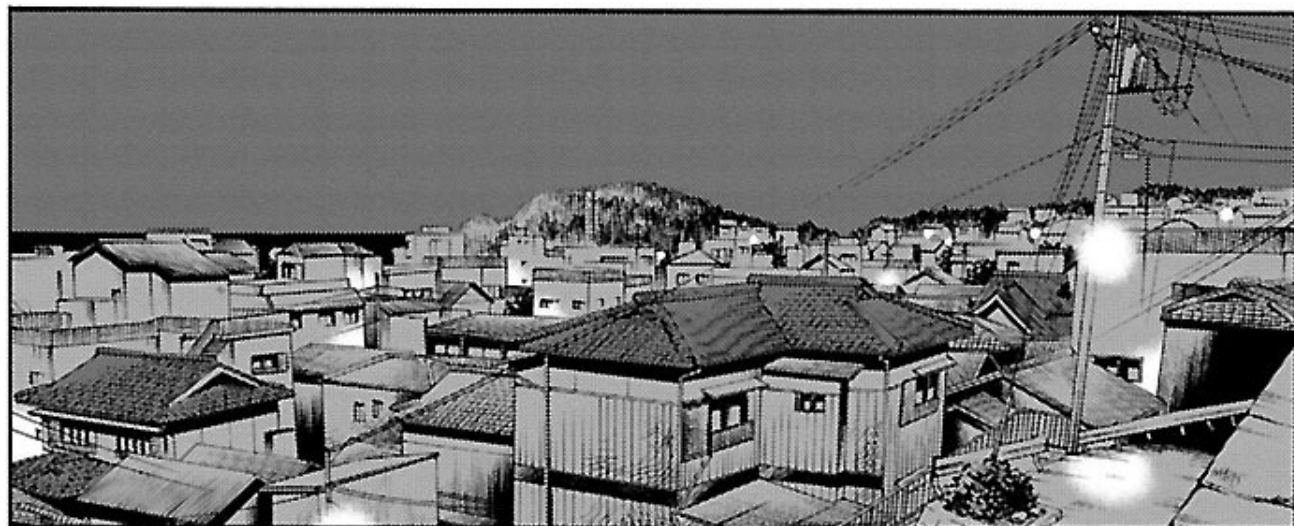
あ

私の中に
……!!

あ

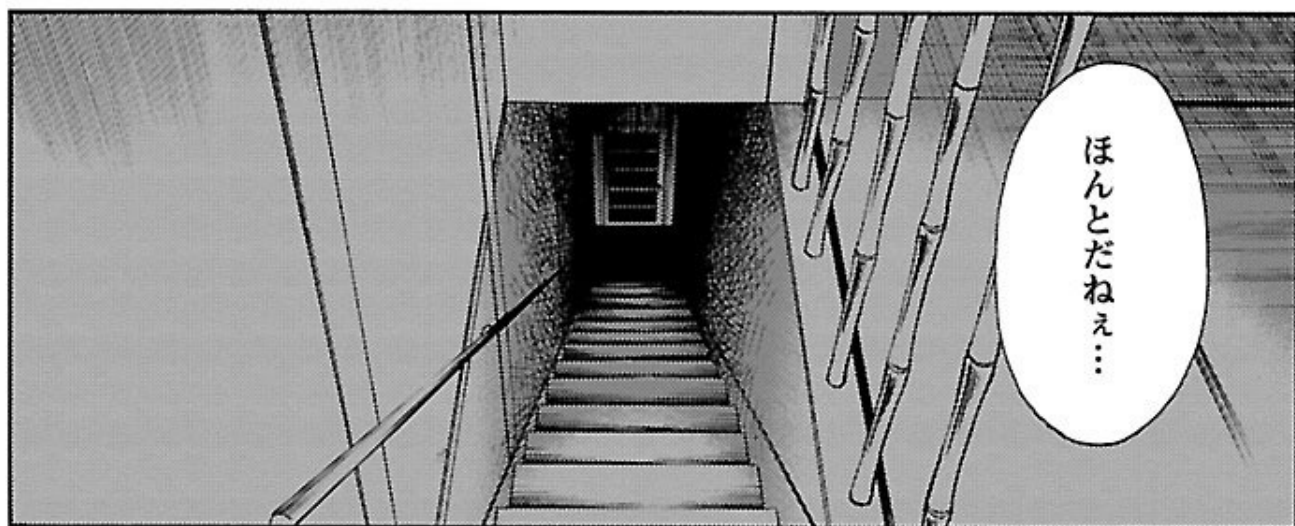
あ…ッ

は…





静かだね…

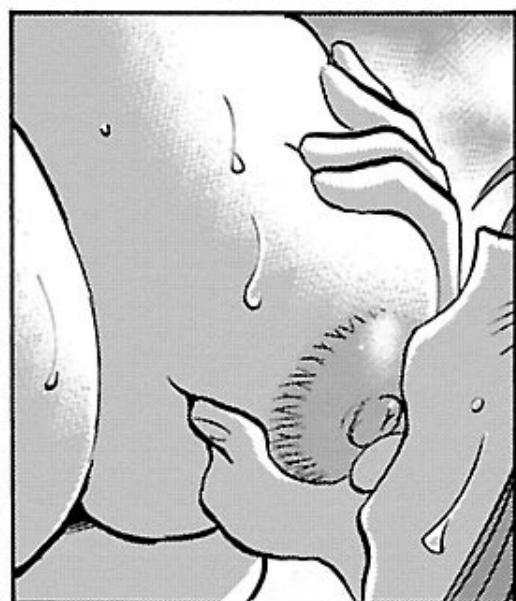


ほんとだねえ…



あ…う

今まで
この部屋で





お父さんと
あやめの

あ



は

そして
マチコちゃんの
情事を
覗いてきた

ん



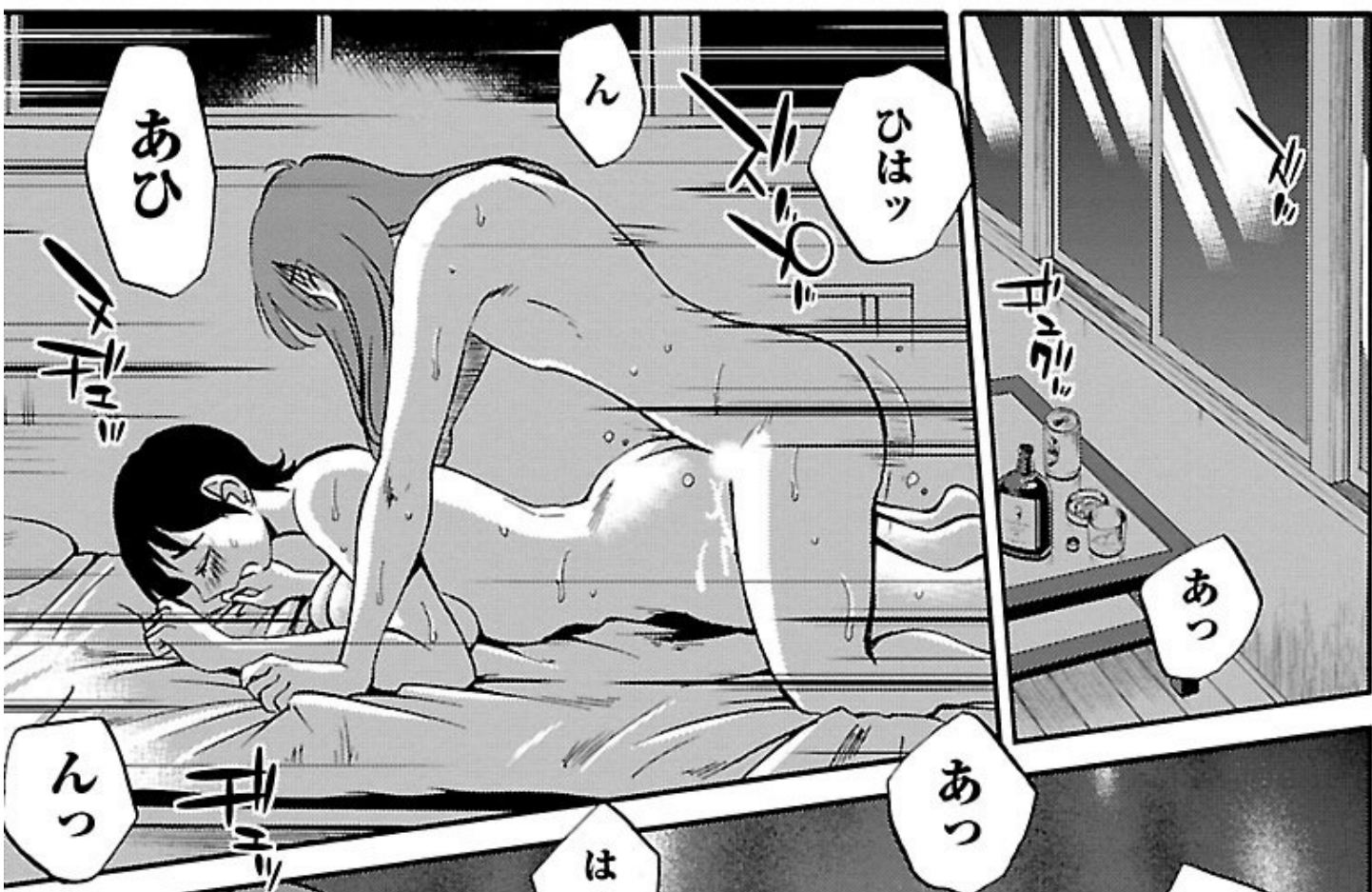
は…んっ

でも

あ

この家には
もう
誰もいない

あ





とり残された
ようにここで

慰めあっている



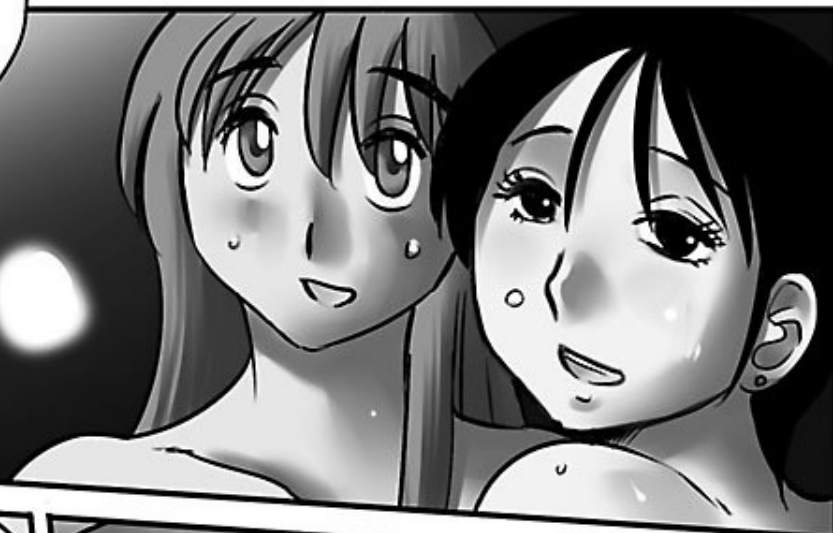
第33話 ©END



月が…

ほんとだ

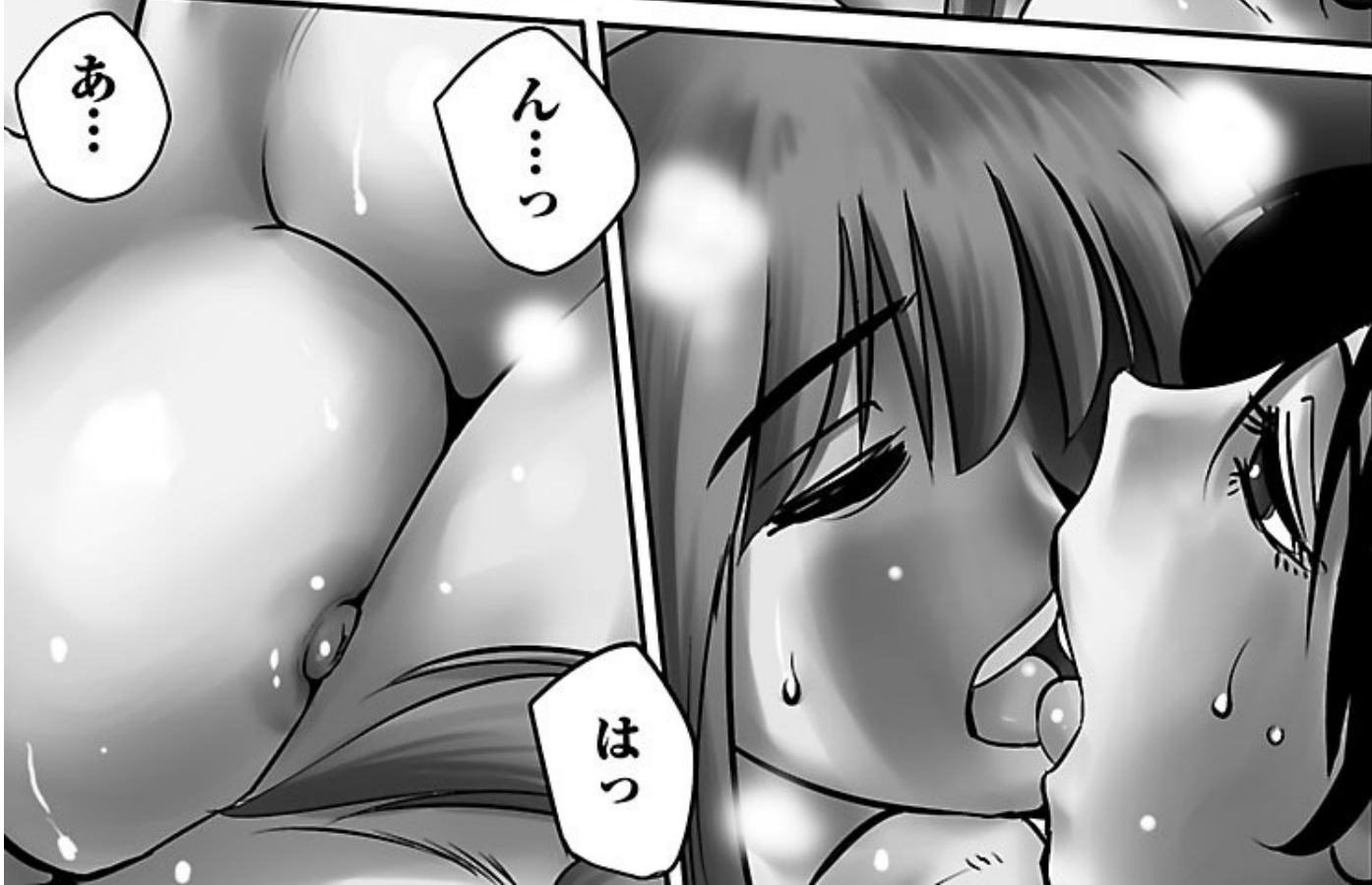
大っきい…



あ…

ん…っ

はっ



第34話 生 おいたち

はっ…

んっ

ん…





あぁっ

はぁん

はぁっ

はぁん



はは...
はる...
陽...
っ

はぁん



まだ...

こんなに...っ

あんっ

はぁん

はぁん

はぁん







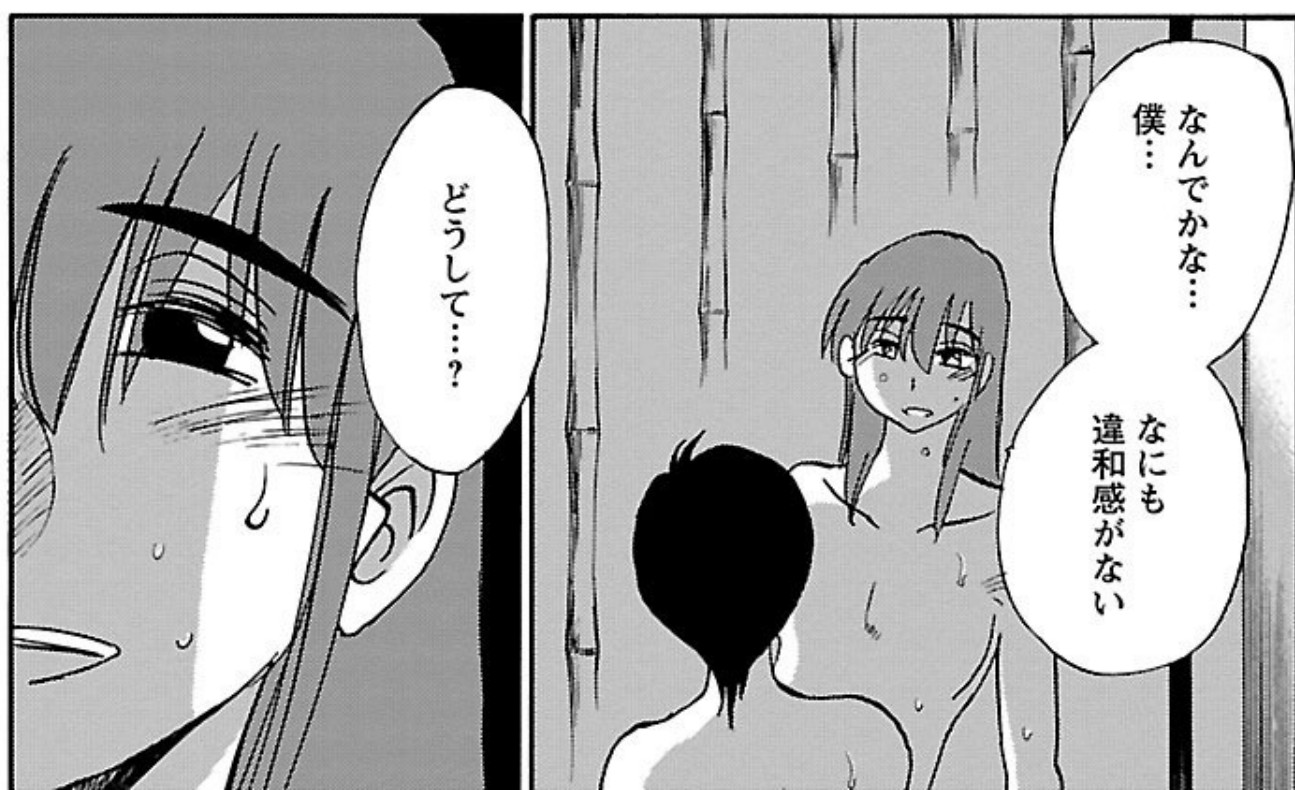


僕らは
なんなんだろう
……？



当たり前
みたい……

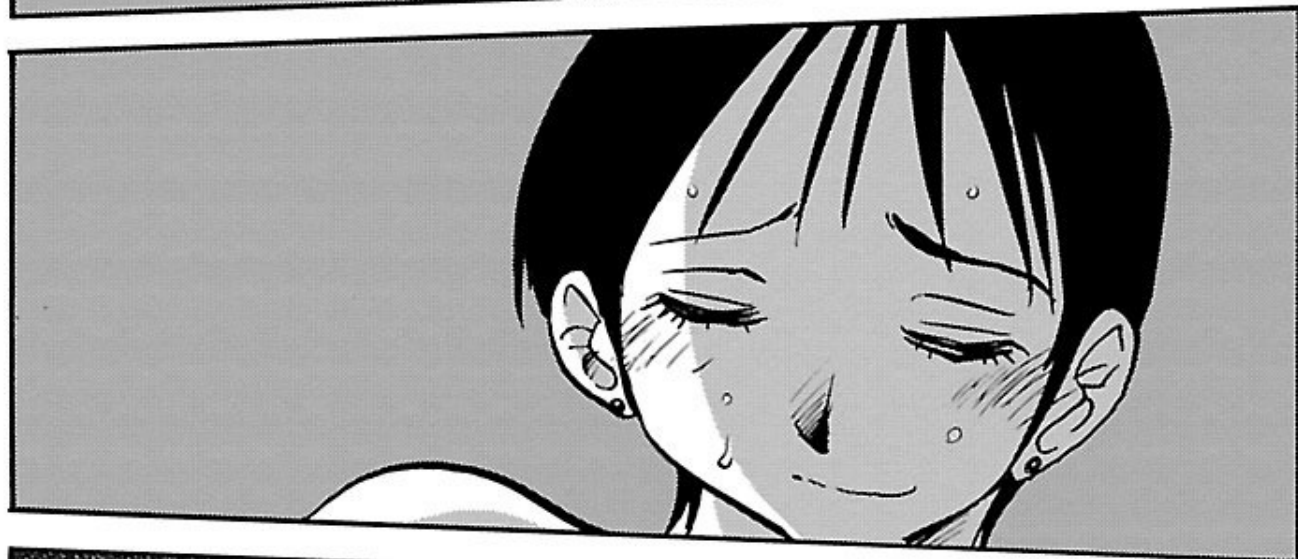
こうして
……セックス
してるけど



なんでかな……
僕……

なにも
違和感がない

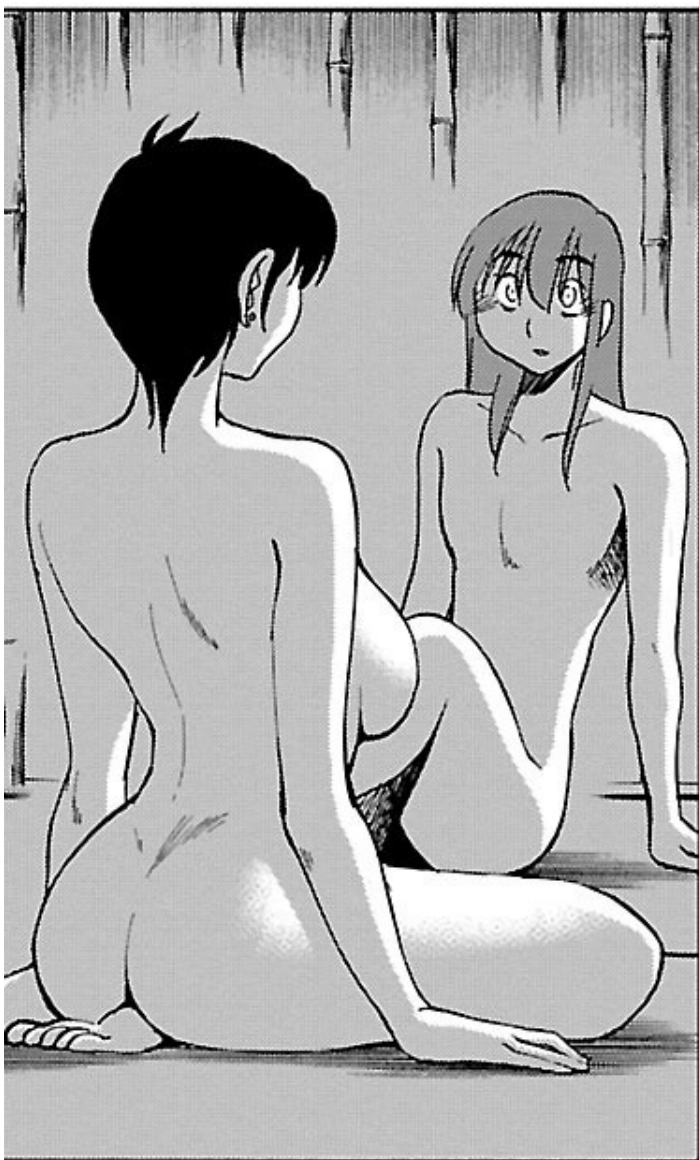
……んんん……



お前は

私の産んだ
子じゃないの







それが
わかったのは
結婚して
しばらくしてから
だったんだけど

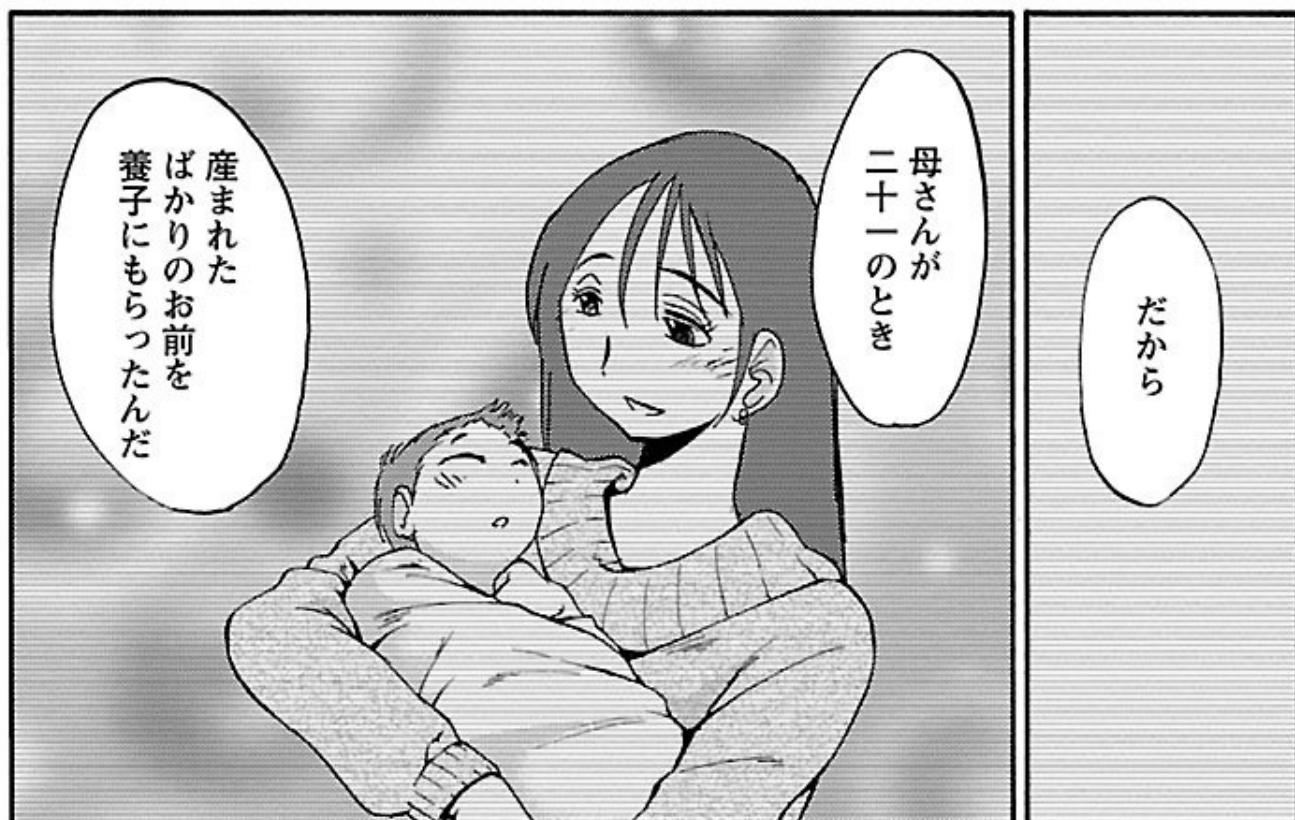
顕微授精



でも
お父さんの
ご両親が遺した

この旅館の
ためにも

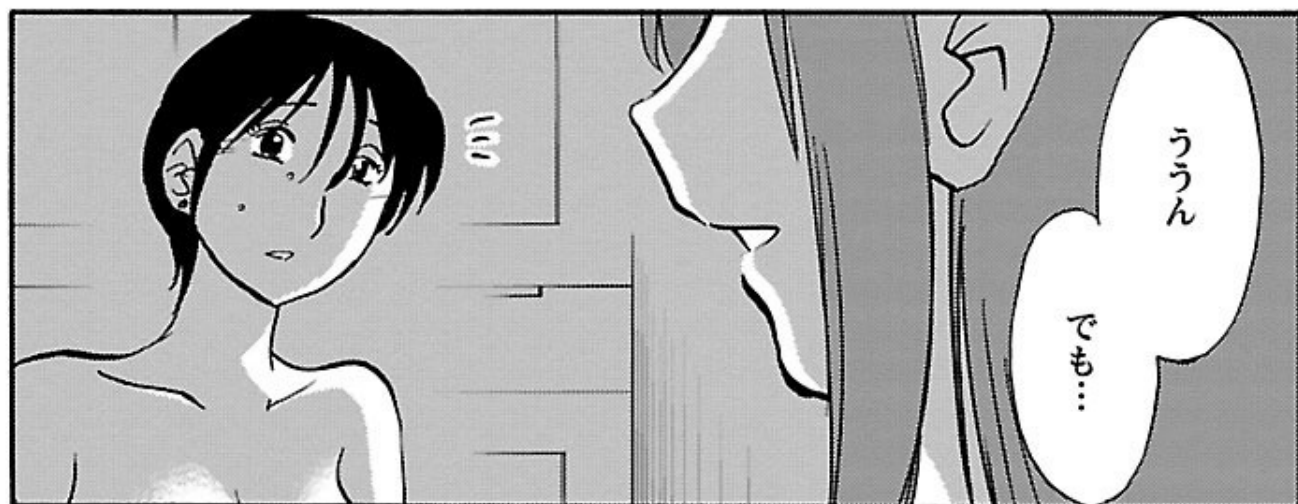
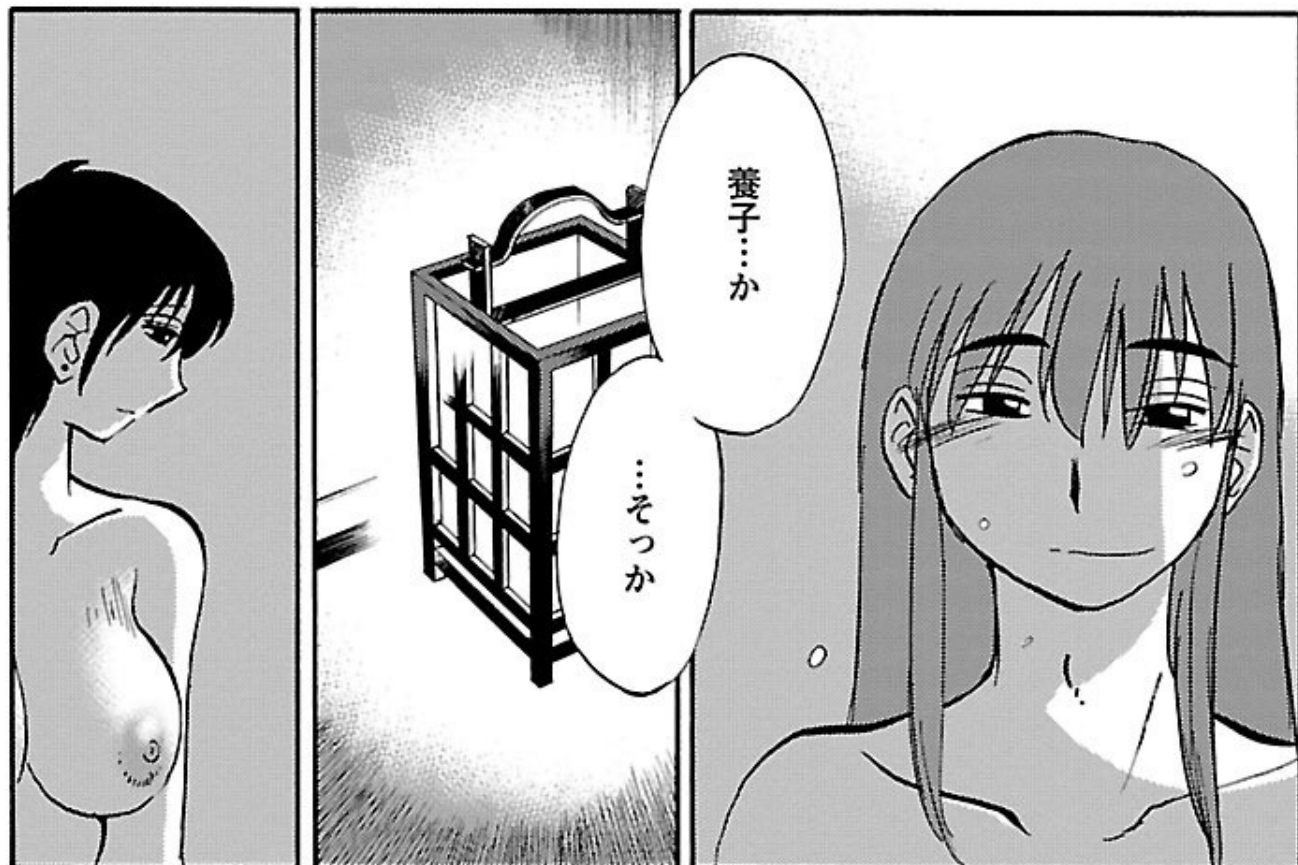
どうしても
子供が
欲しかった



母さんが
二十一のとき

だから

産まれた
ばかりのお前を
養子にもらったんだ





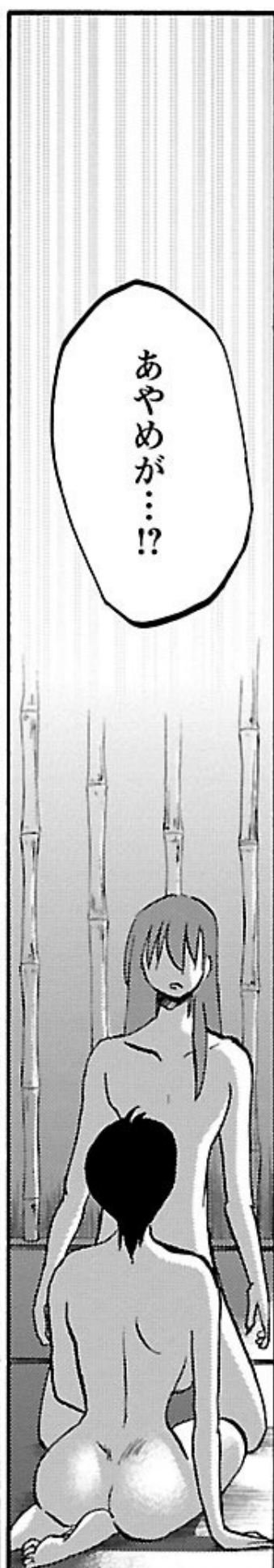


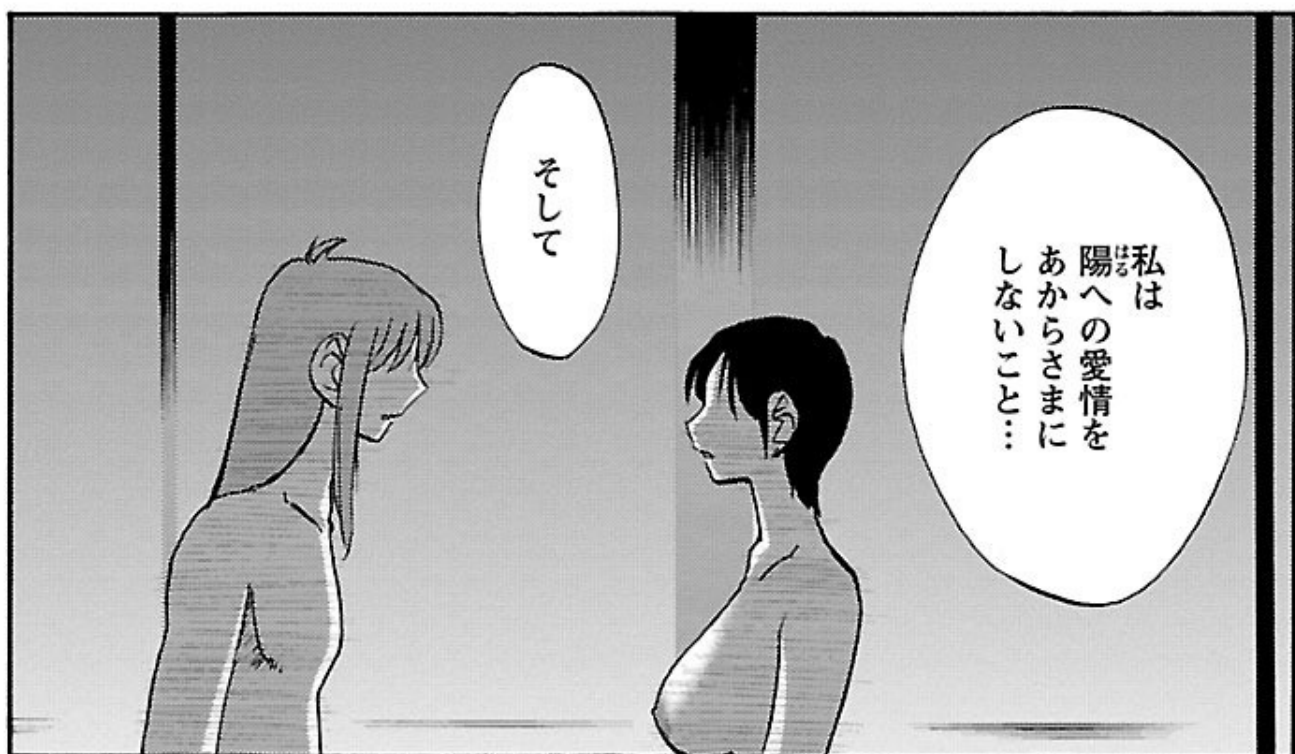
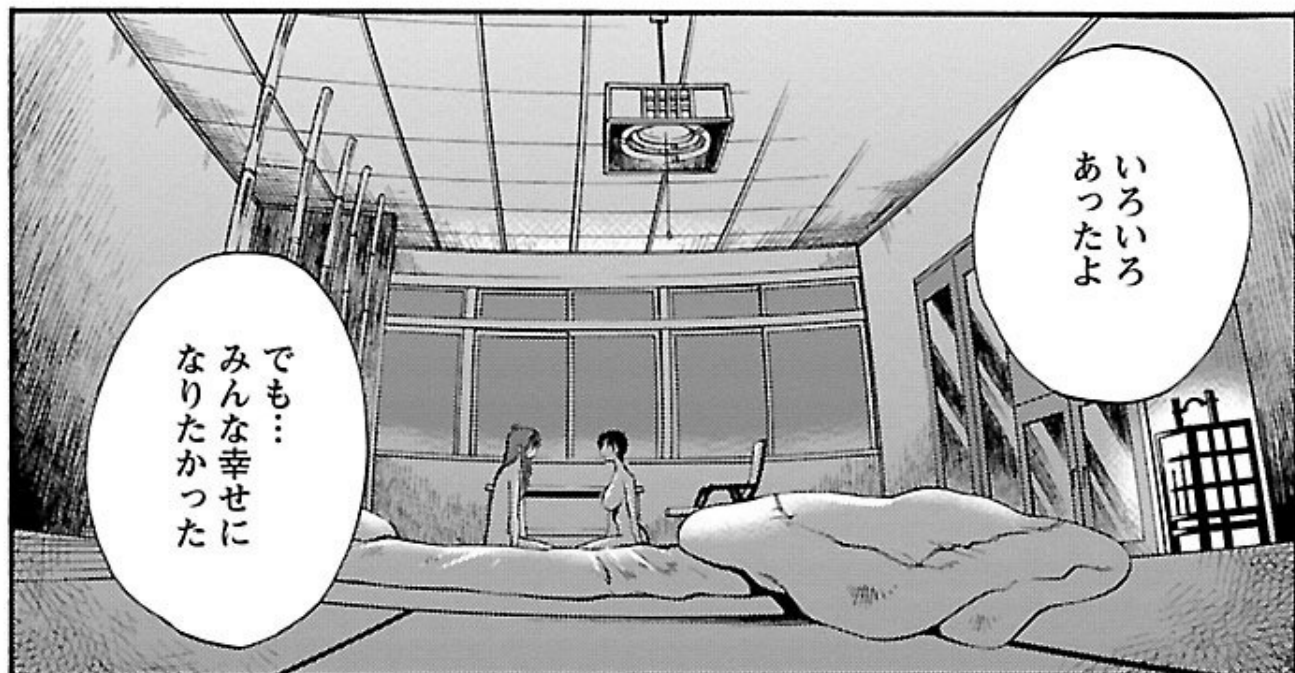


ずっと
ずっと

お前の
そばにいた







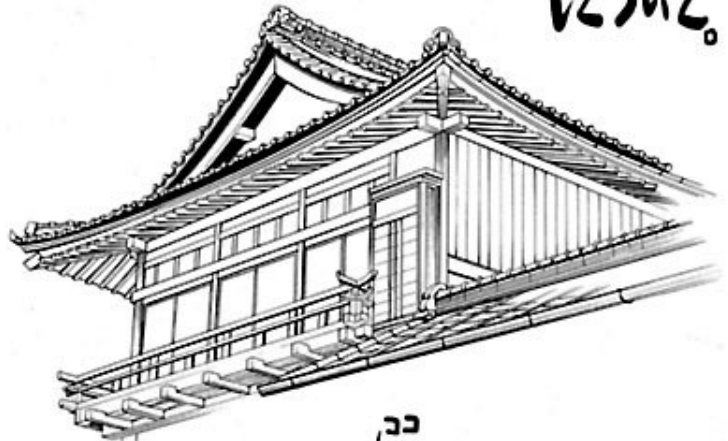
ひるがお

Presented by
TSUYATSUYA

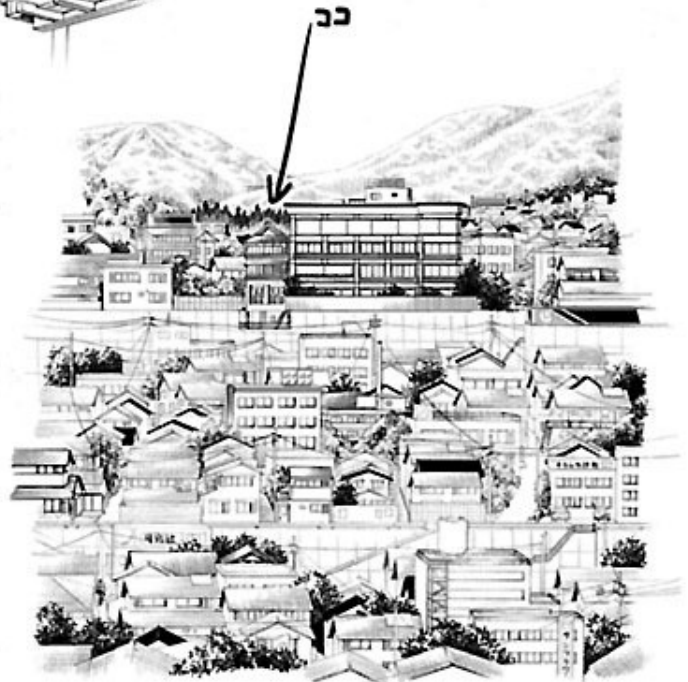
天守

てんしゅ。

本来「天守」というのは城のいちばん
てっぺんの事なんです。この旅館の端々
の家を族が住む棟のことを「天守」
といは「天守」と呼ばました。見たとおり
エラうな建つものだったの。誰からとも
なく、そう呼ぶようになった。=



「このマどうします？」
「天守のアレだ
……んんんんん？」
とかいう
使いはF=



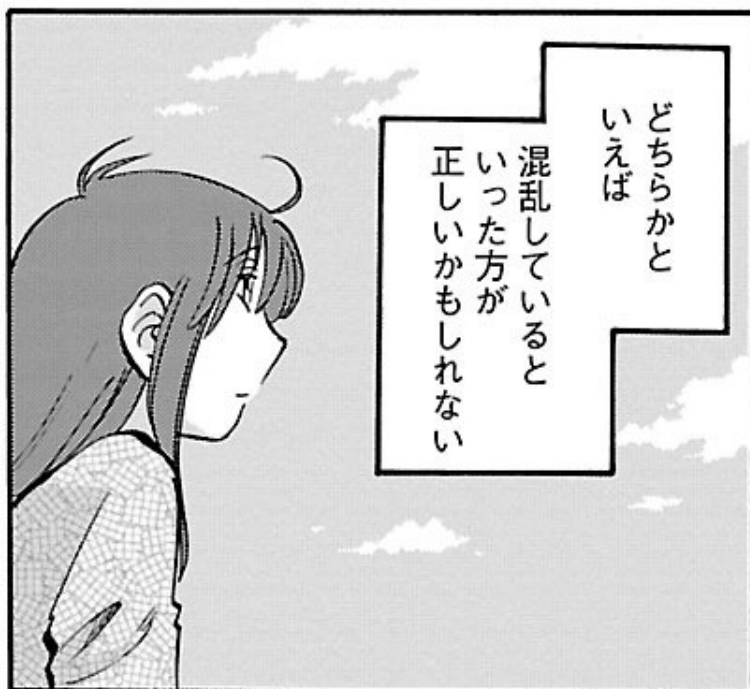
—と、よくお作業中の呼び名が「天守」の「天守」が普通に「天守部屋」と言われだした…
まあ相羽苑の中にも、とそう呼ばれている人でしょう。





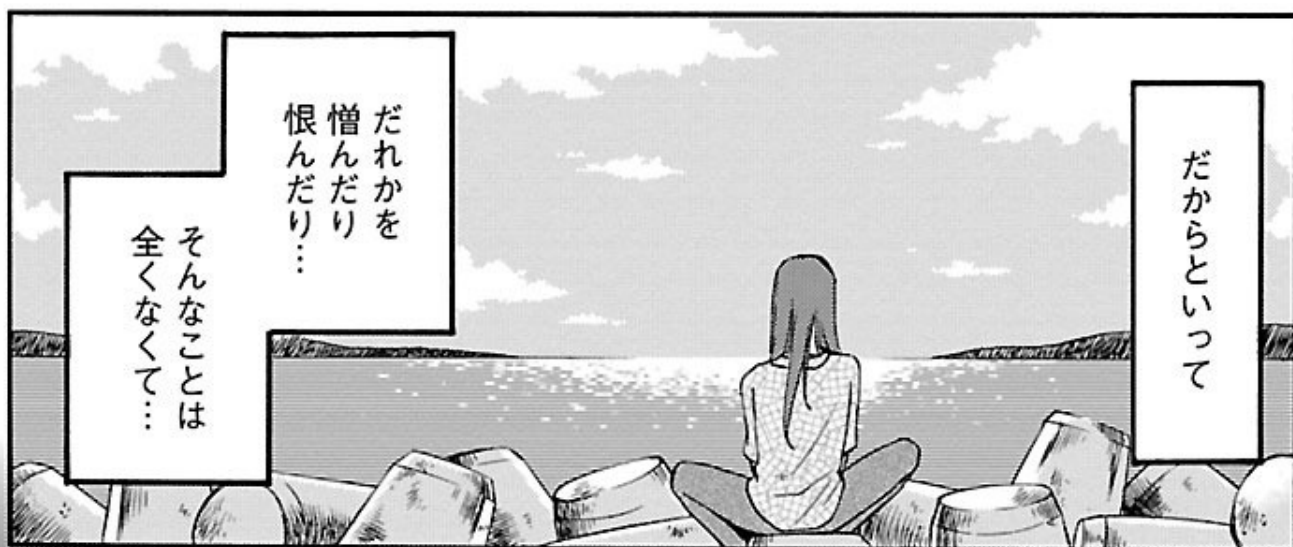


そう…



どちらかといえは

混乱しているといつた方が正しいかもしれない



だからといって

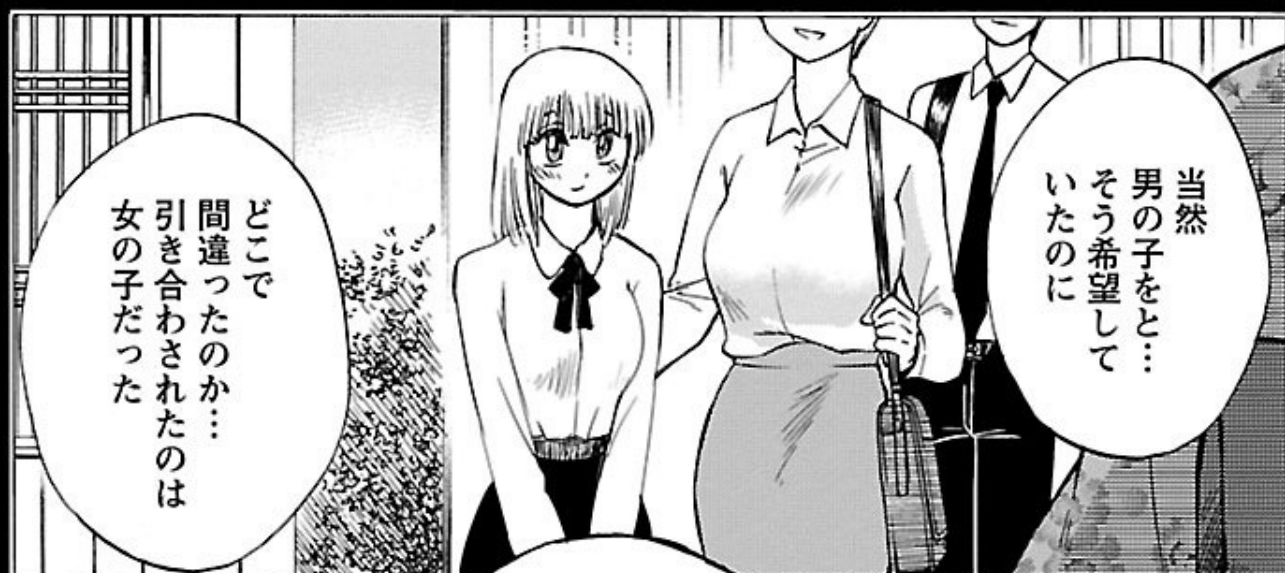
だれかを憎んだり恨んだり…

そんなことは全くなくて…



私が子供のつくれない身体だとわかったときから…

養子をとるつもりだったんだ



どこで
間違ったのか…
引き合わされたのは
女の子だった

当然
男の子をと…
そう希望して
いたのに



しばらく
一緒に生活を
することにして…

それでも
無下にも
できなくて



確かに…あの子は
年齢のわりに
発育がよくて…



あのひとが
そういう
…

だ・ら・し・な・い・ひ・と
だ・つ・て・い・う・の・は
わ・か・つ・た
つ・も・り・だ・け・ど・…



でもまさか…
まだ初潮を
迎えた
ばかりの子を
…なんて



でも
最後は…

あやめが
決めたんだ



気付くのが
遅かったとか

いろいろ理由は
あるよ

普通なら
堕ろしたろうね



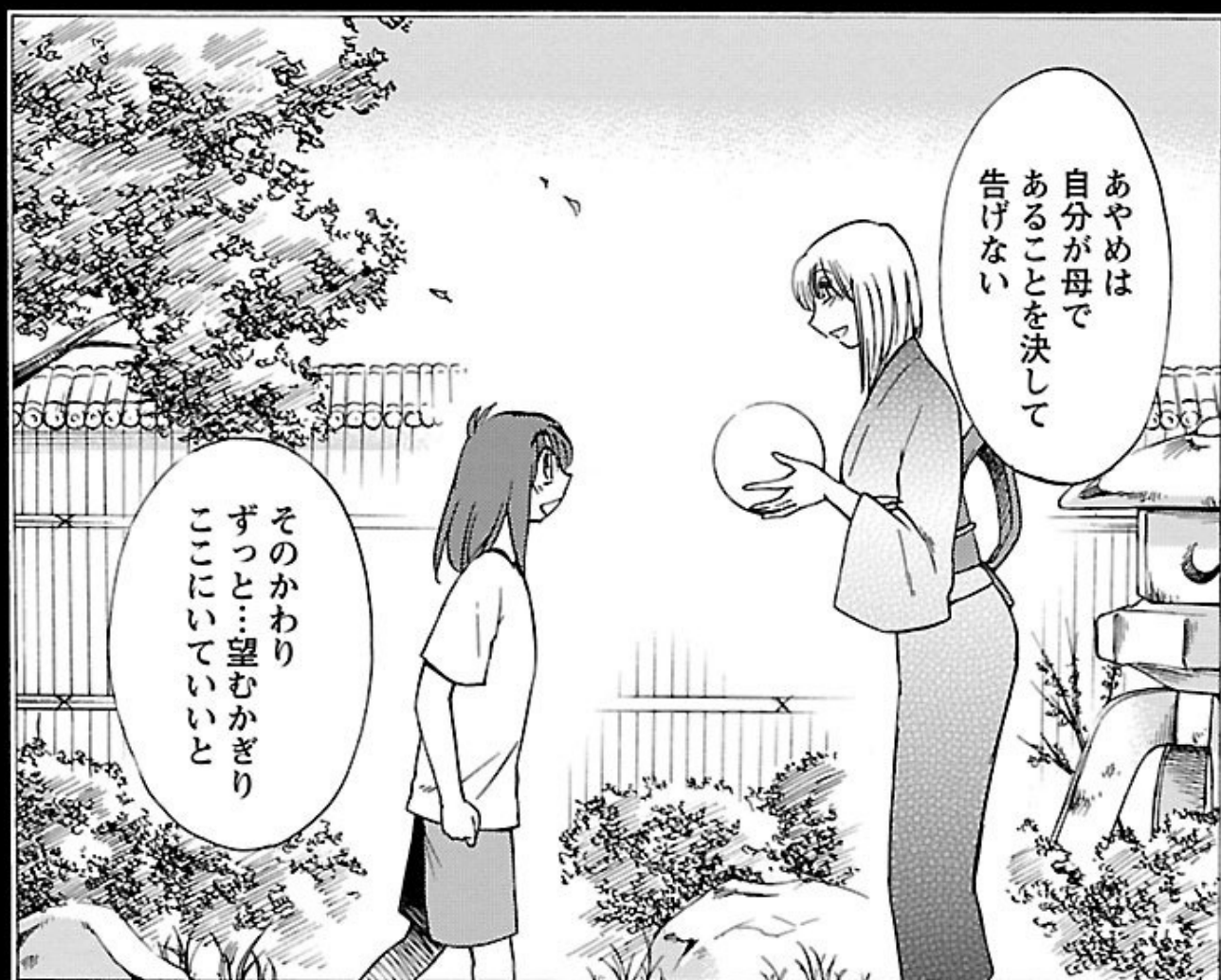


女のカオをして



お前を
産むんだ
…ってね







……ここを
出ていったのは
堪えたと思うよ

だから……
お前が
中学に上がるとき



そのまま
まさか
七年も
帰ってこないなんて
思わなかった
ろうしねえ



おかあさんが
あの頃僕に
厳しかったのは

それが
理由……？

んー



それが
一番

やっぱり陽は
跡とりとして
育てなきや
いけないと
思ったからね



あれ
陽君!

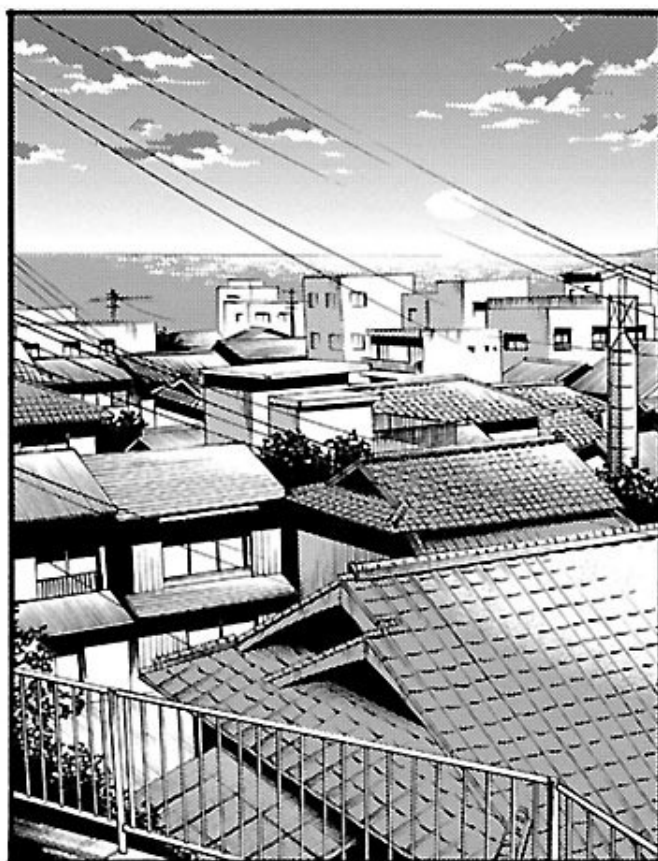
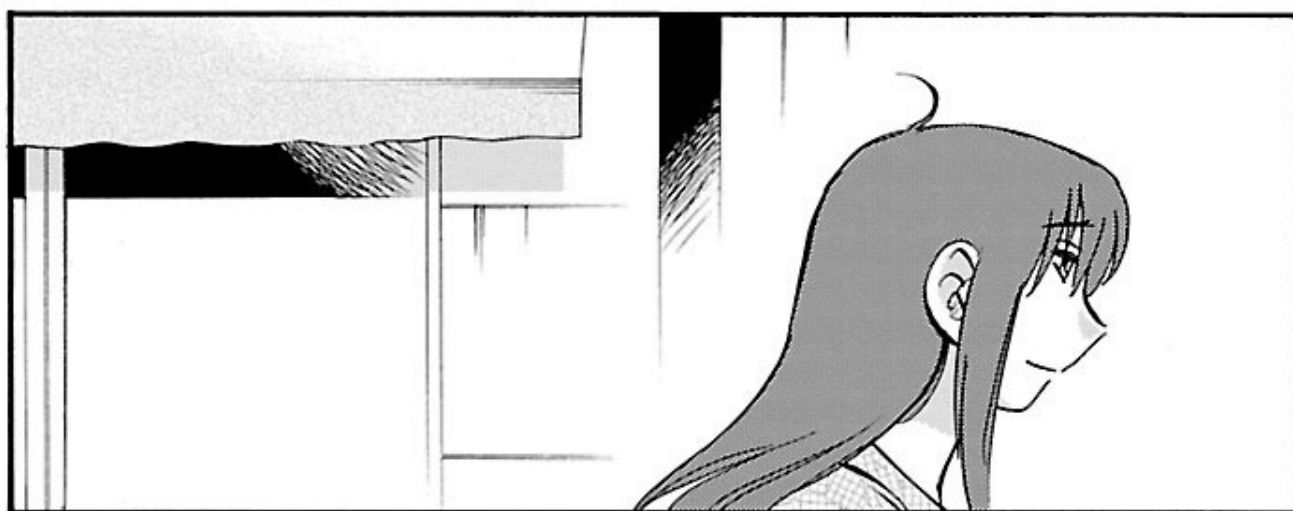
けど…
あやめの手前

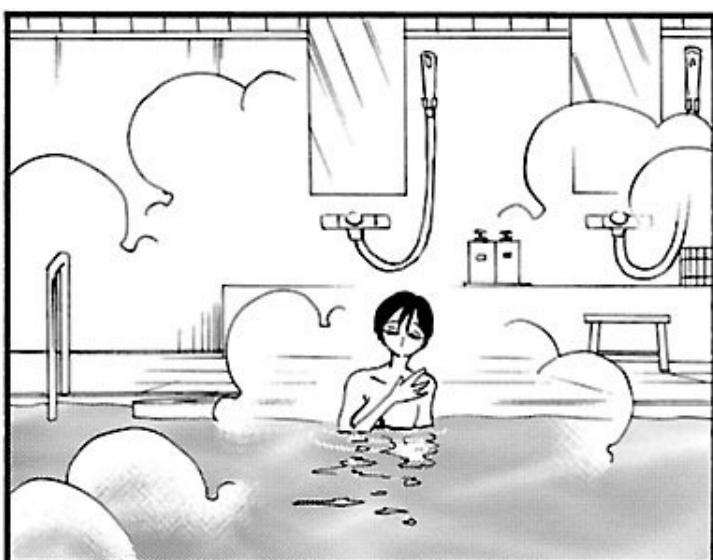
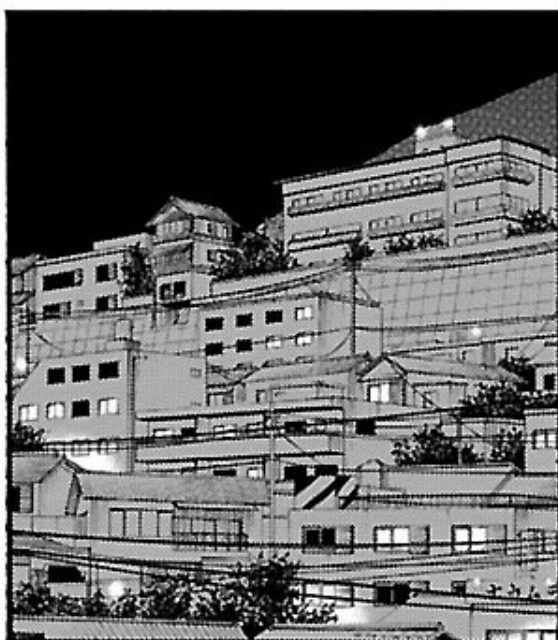
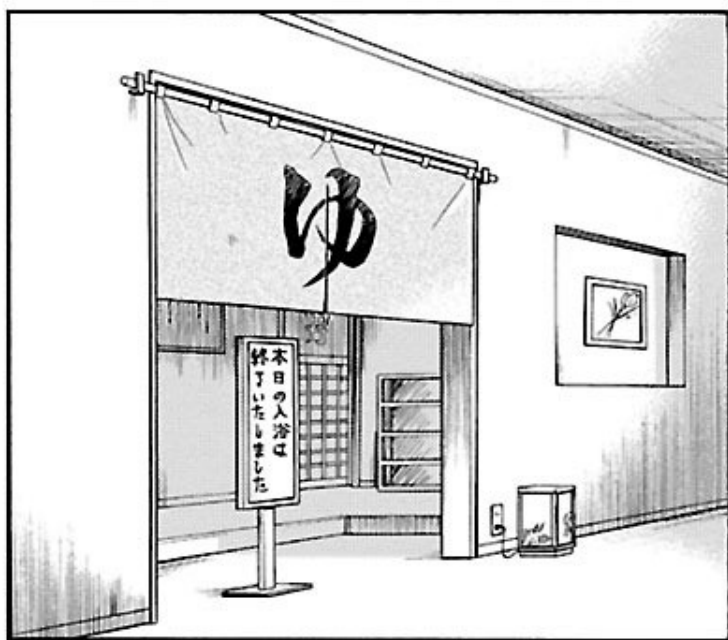
甘えさせて…
優しくする
ことは

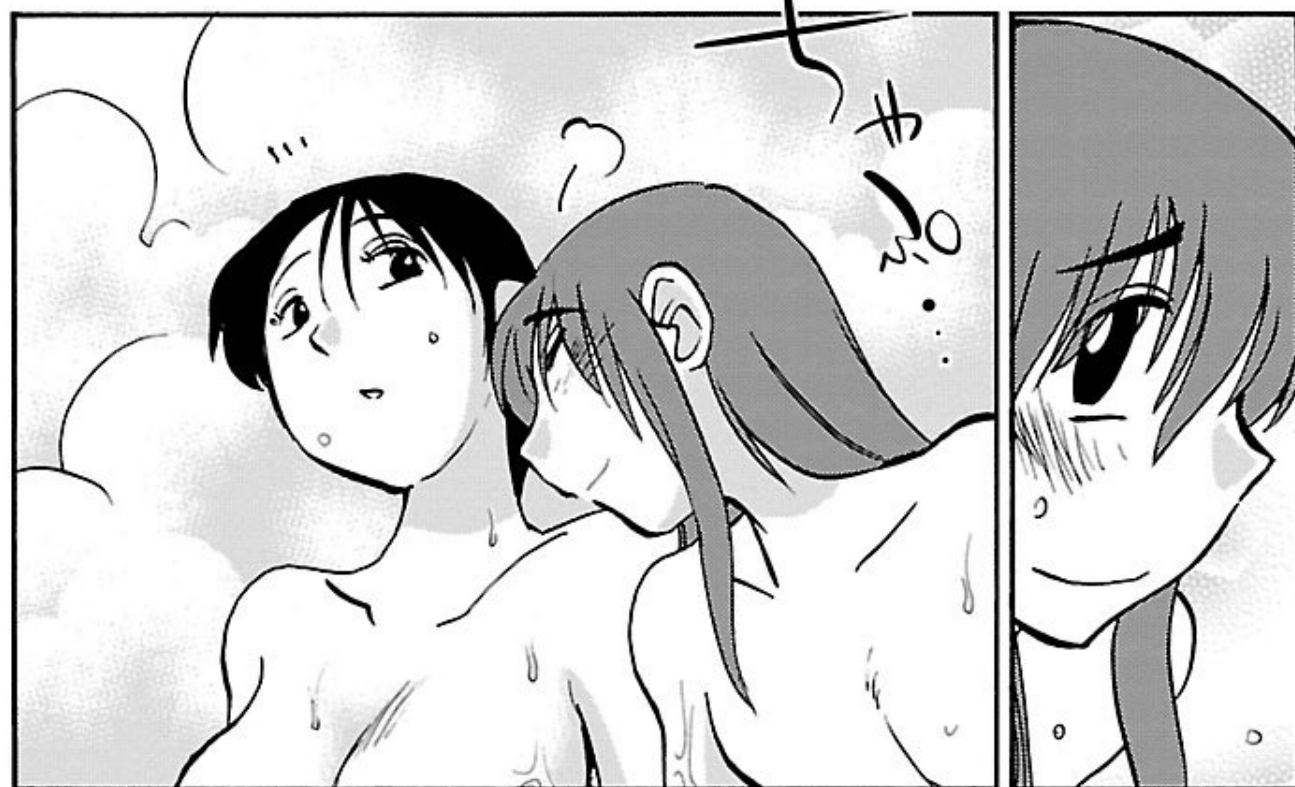
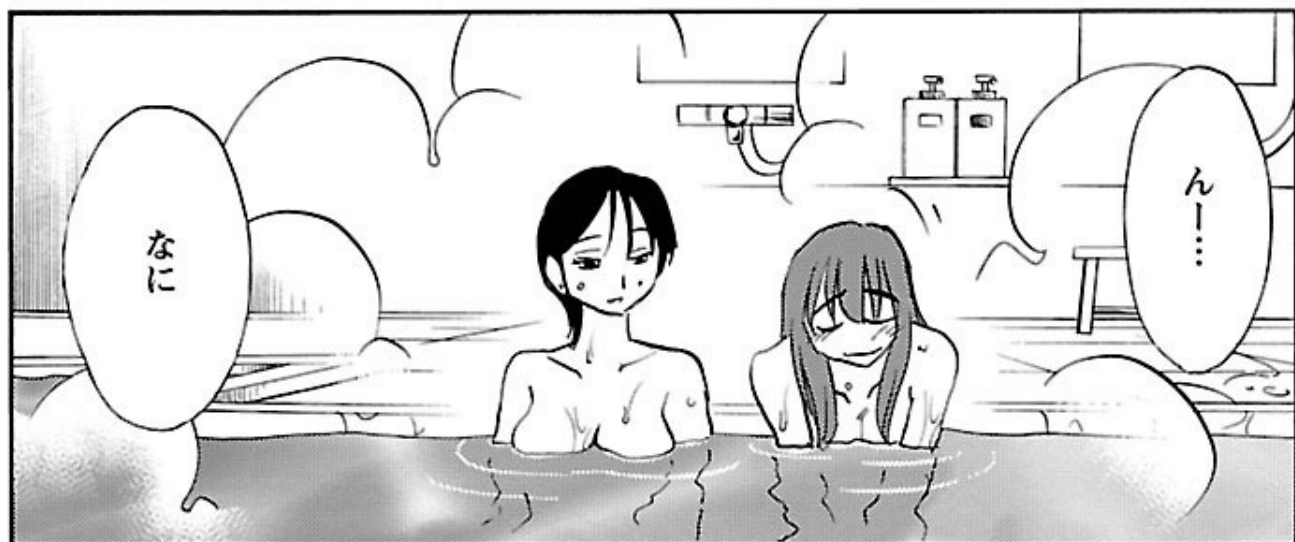
心苦しかったのも
…あったかな





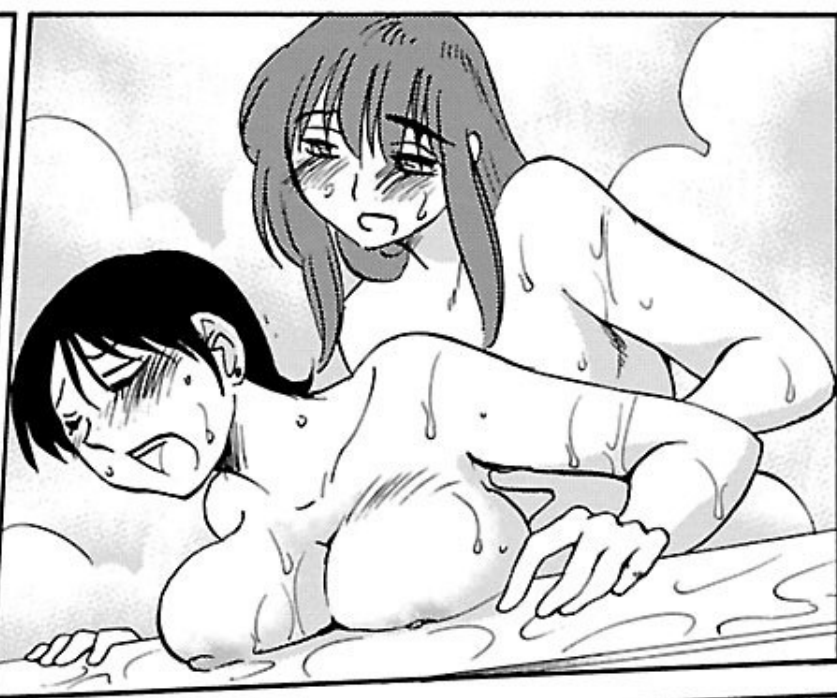


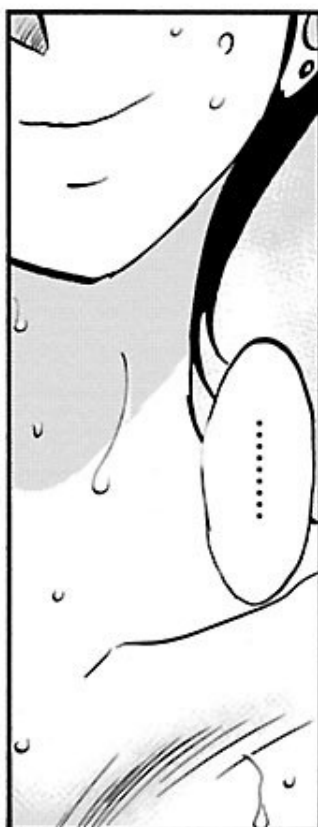
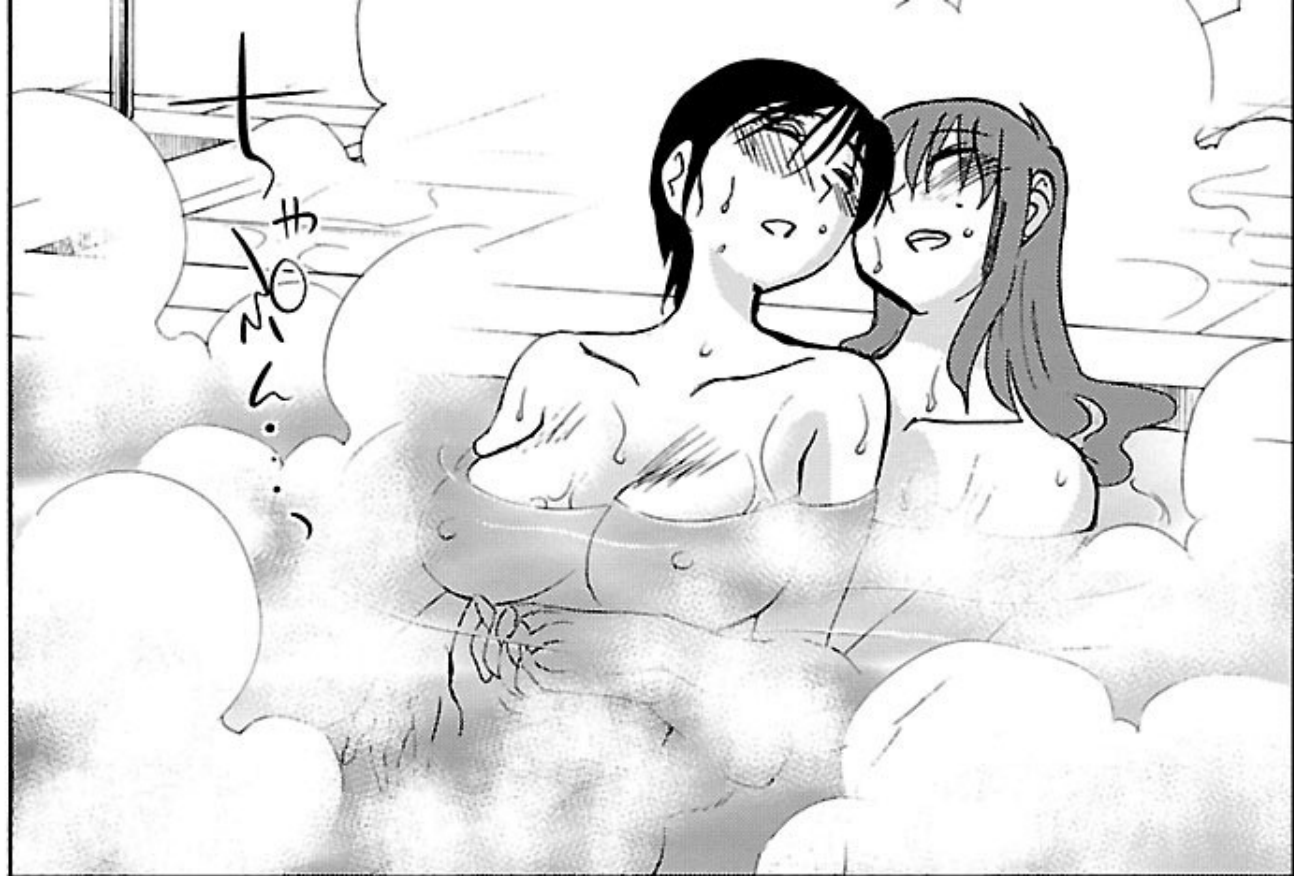












私が愛してたのと
同じくらい

お互い：
ずっとこうして
わかりあって
きたのよ

惚れたただの
寝取っただのは
女のうちさ

あやめも
お前を
愛してたろうよ



第36話 胚 たまご







あれは

あやめを
女として
感じてしまった
僕への

愛情だった

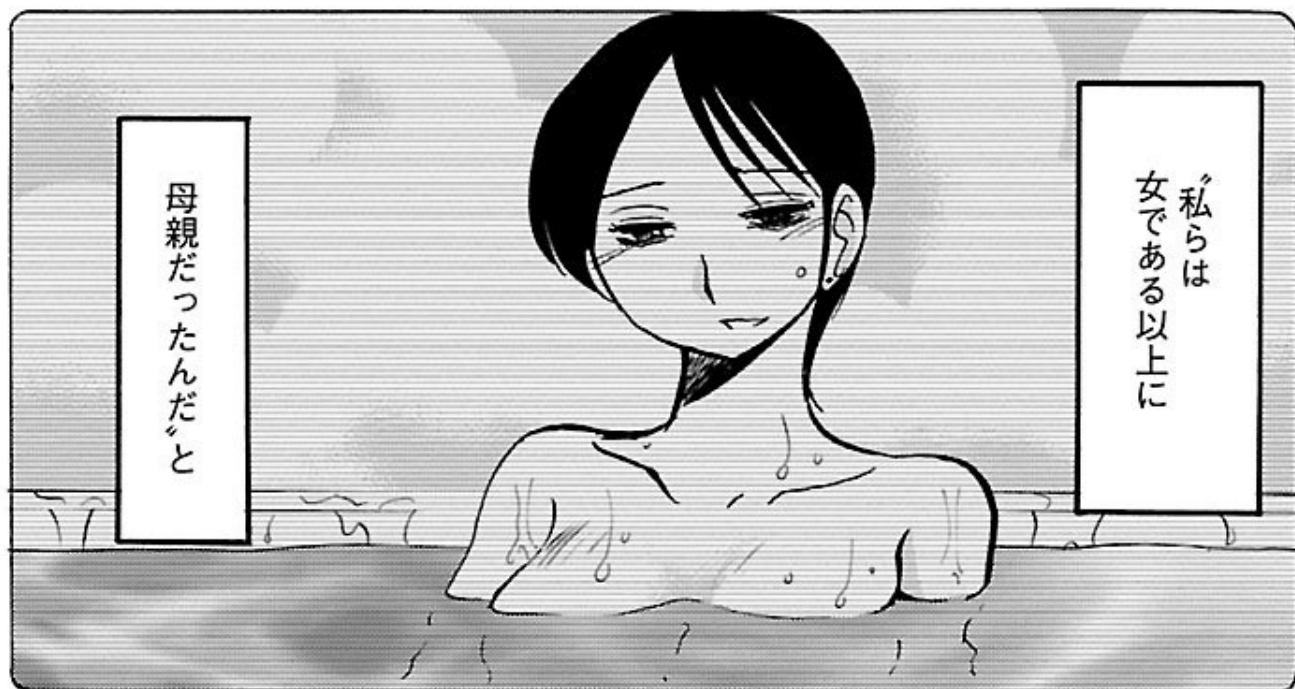


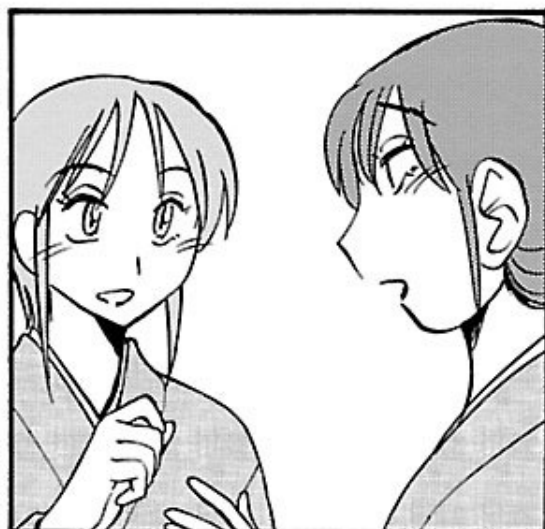
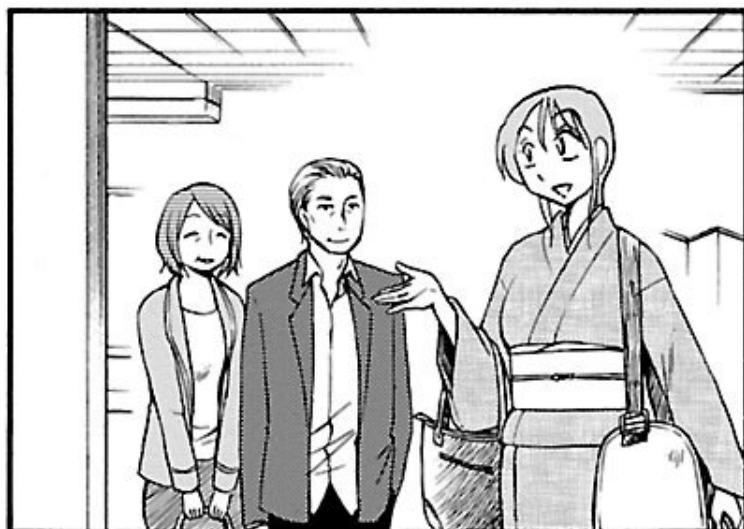
そして
母さんの
言ったこと…

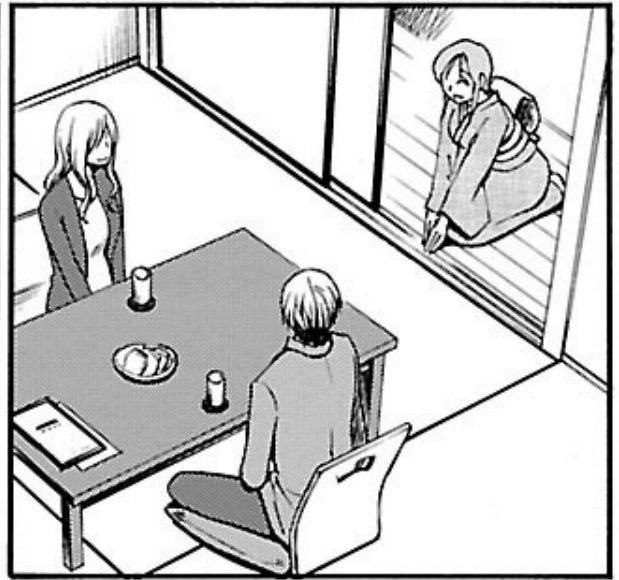
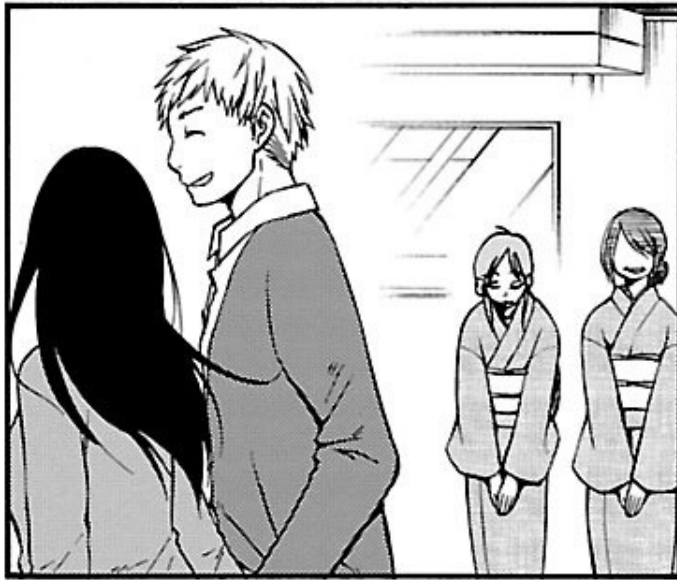


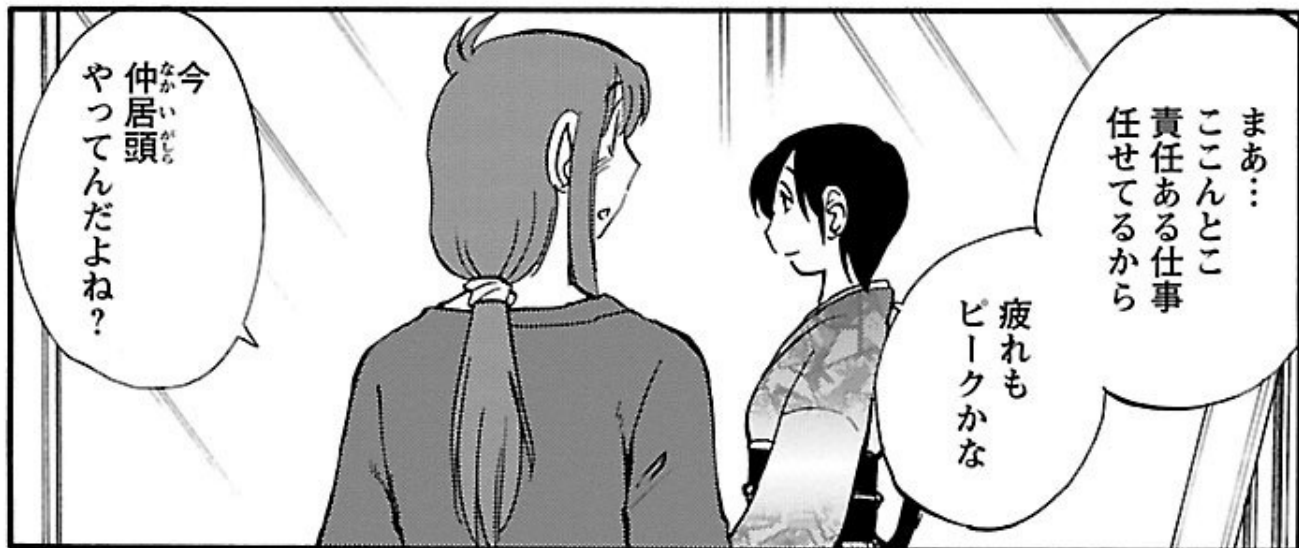
母として
過ごせなかった
あやめは…

せめて女として
自分の温もりを
伝えようと
したのかも
しれない…

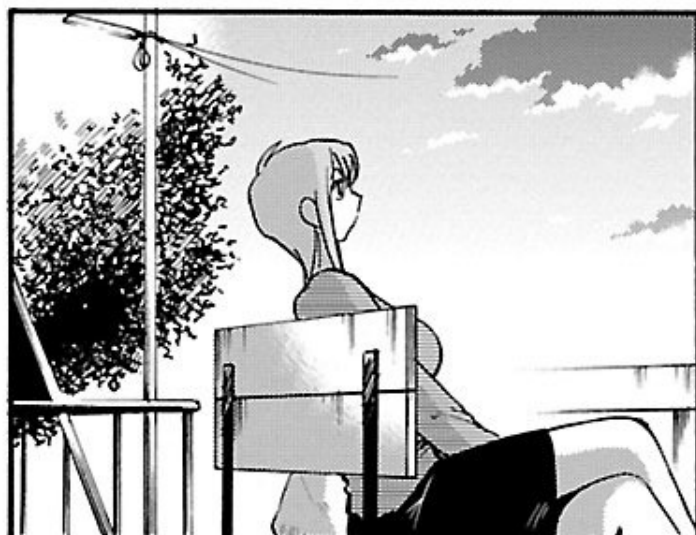


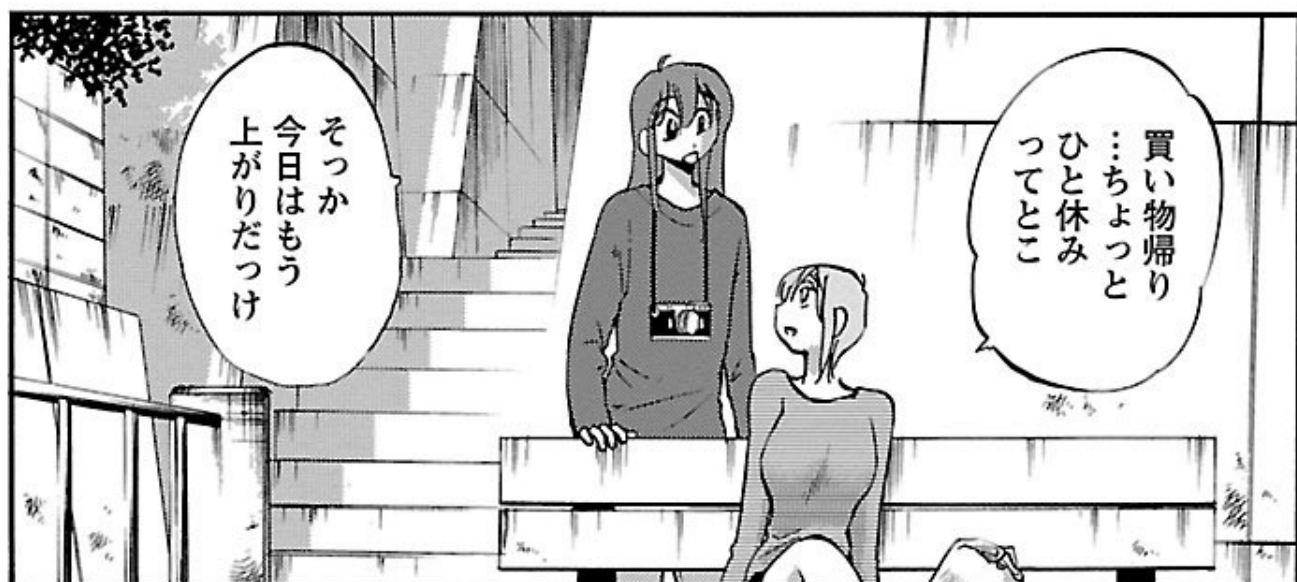








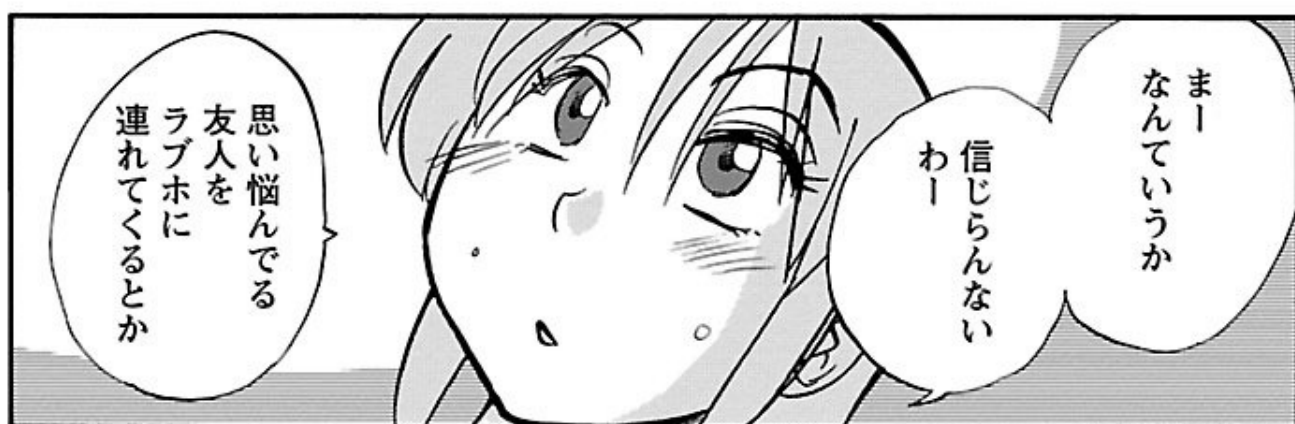


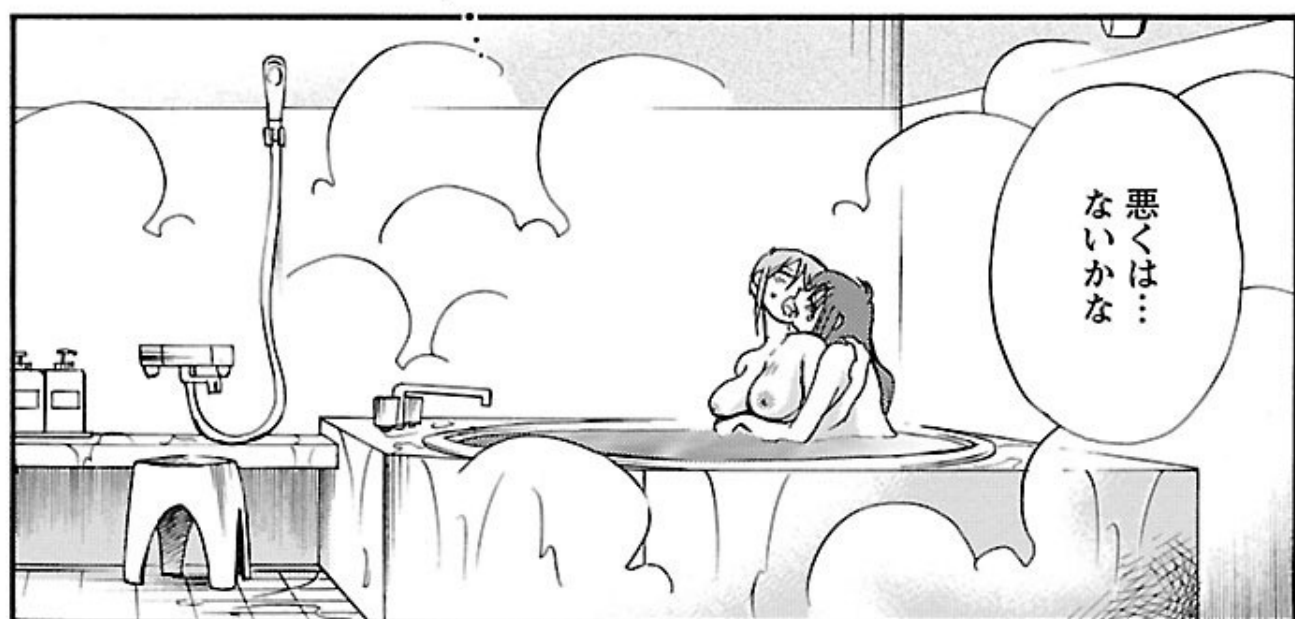




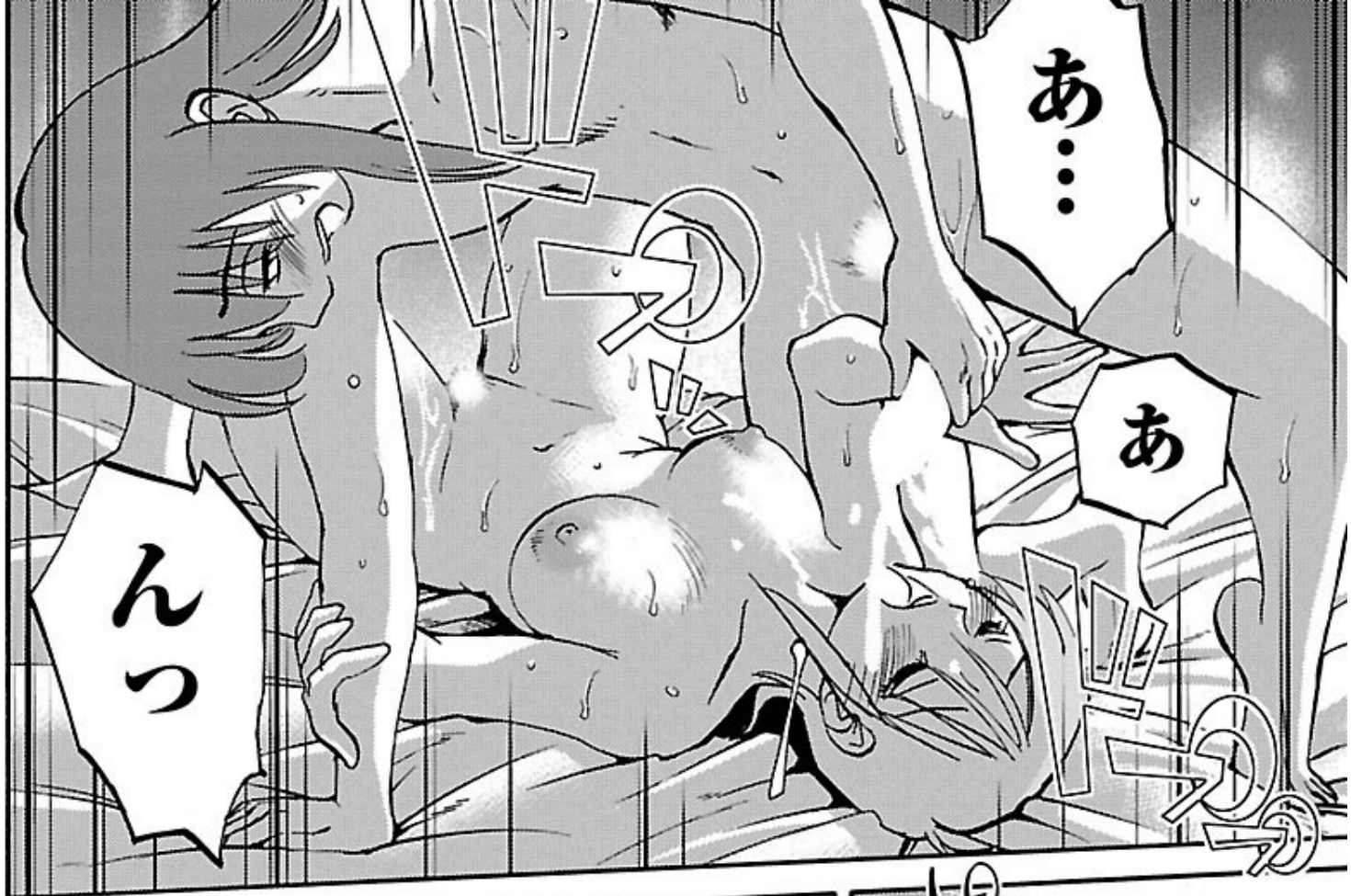
















ひるがお

Presented by
TSUYATSUYA

本編で
描かれた
中学生の頃の
陽。

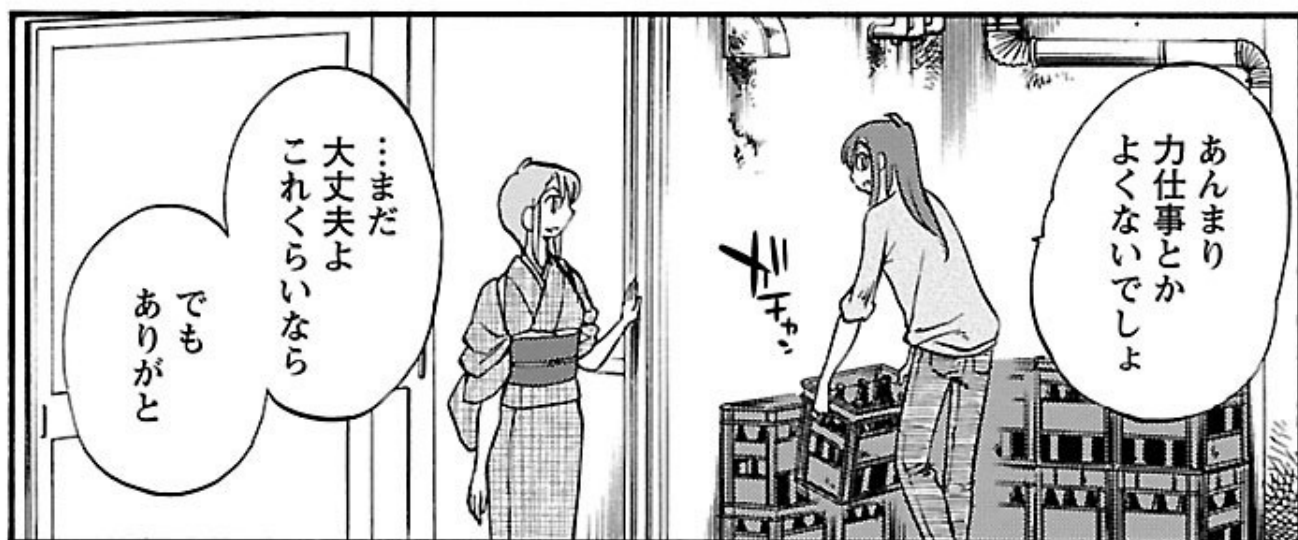
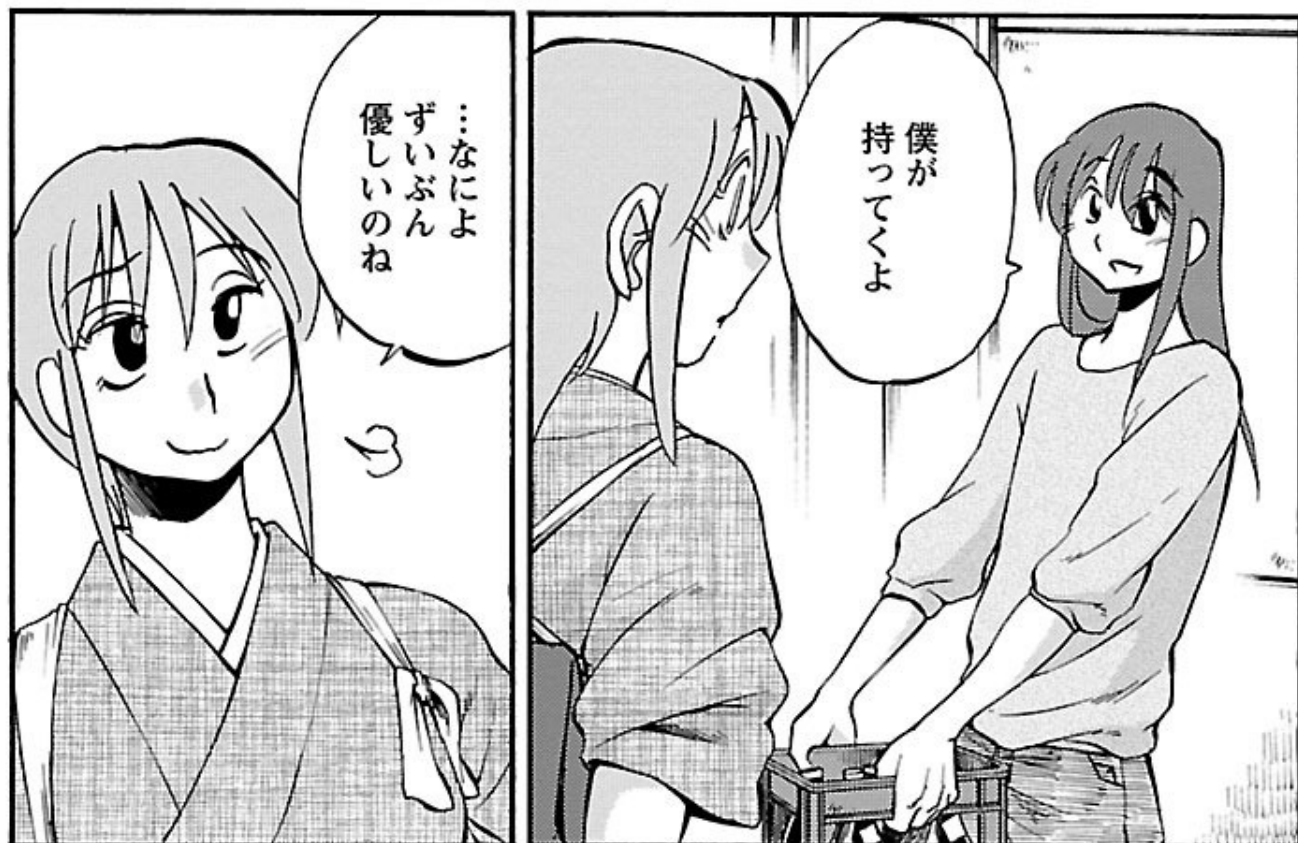


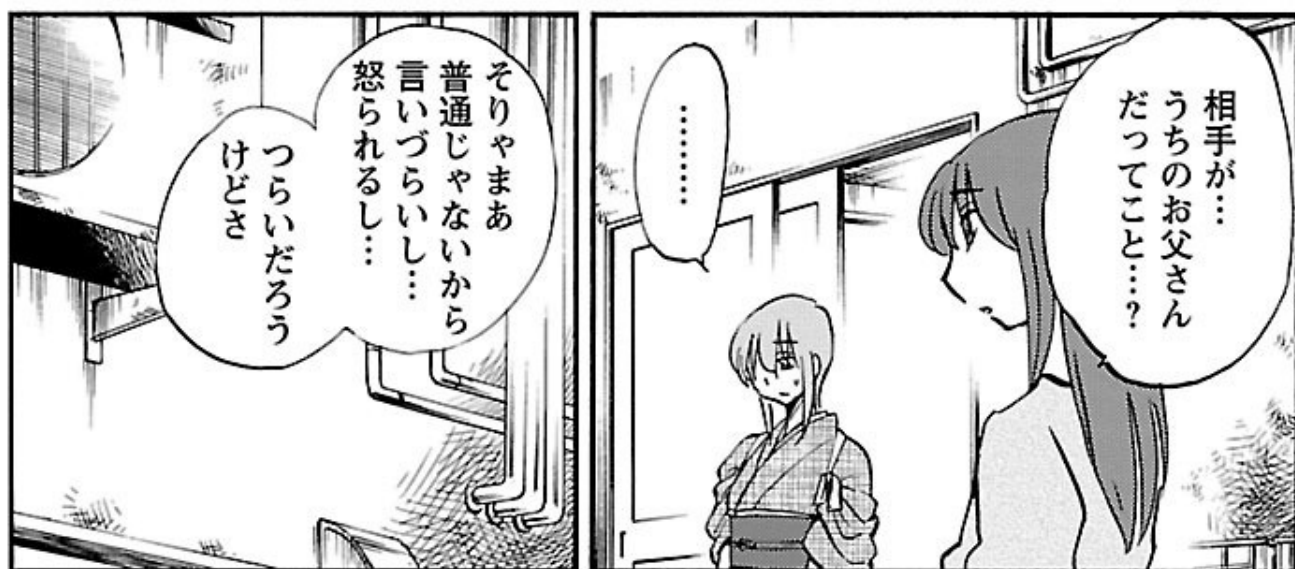
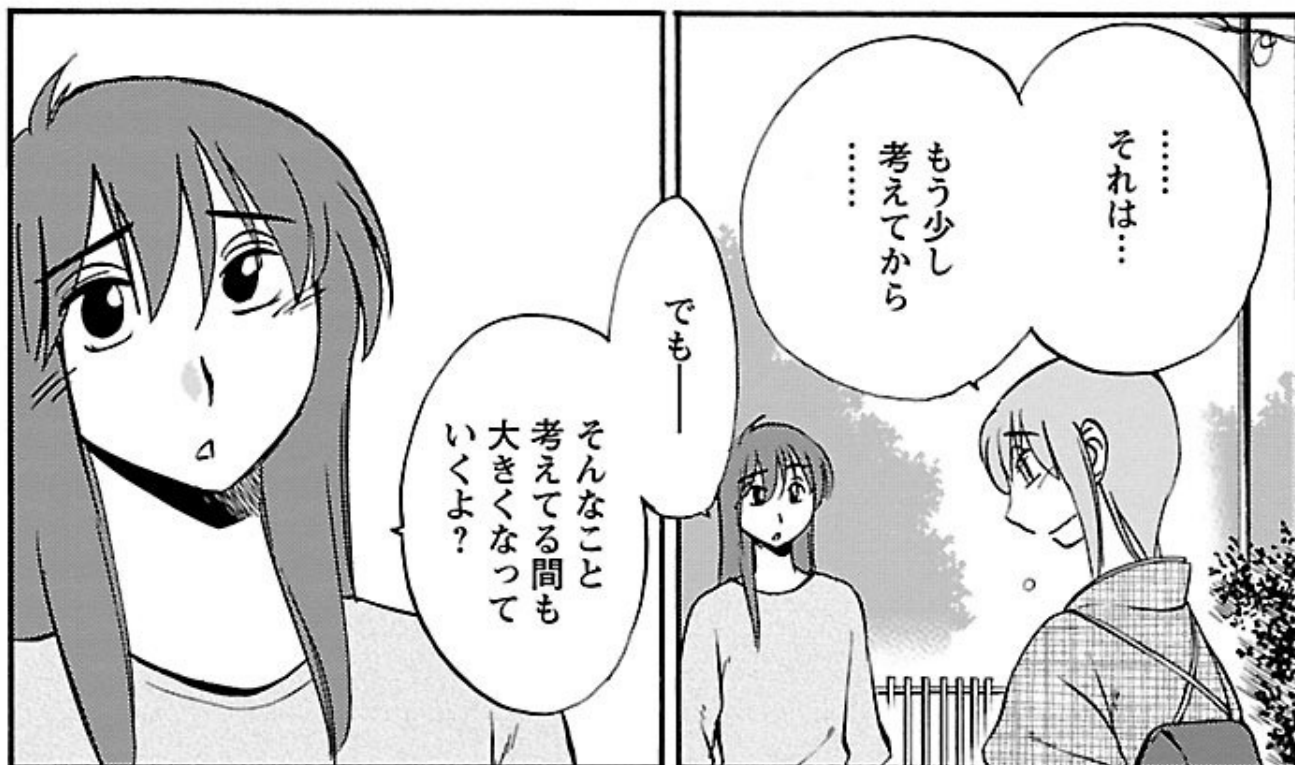
〇〇行方正で
成績は
よかったです
長髪だけは
あきらめず
そのせいで
先生方の心証は
よくなりました。

第37話 籍 せき









でも
大事なのは

そこに
新しいのちが
あるってことじゃ
ないの…？

だから…

だからじゃない！

今ありのままを
話したって…

堕ろせて
言われかねない
でしょ…？

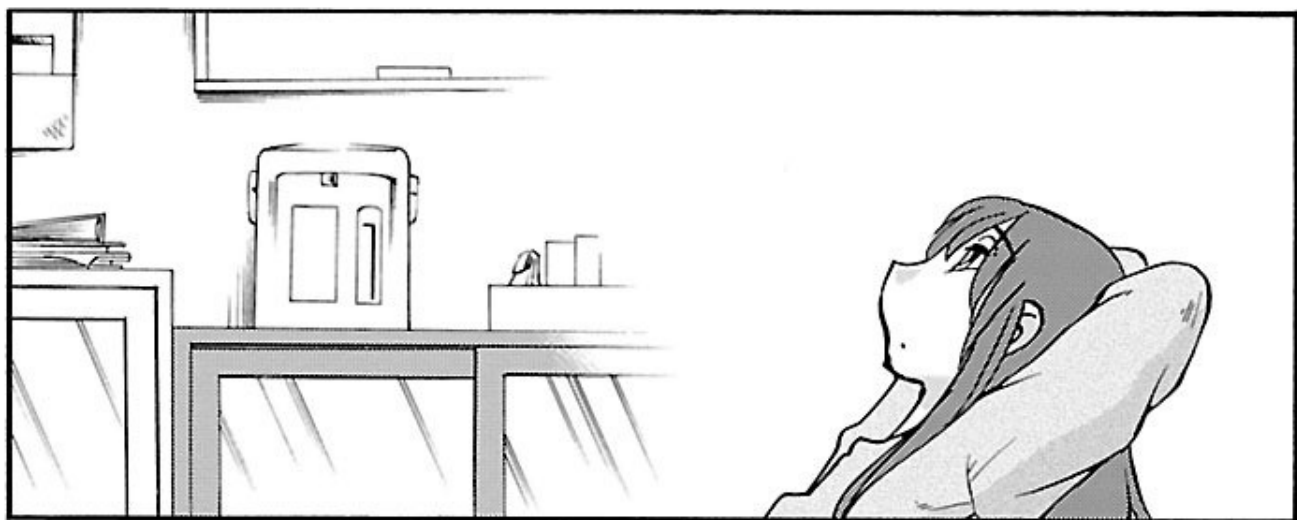
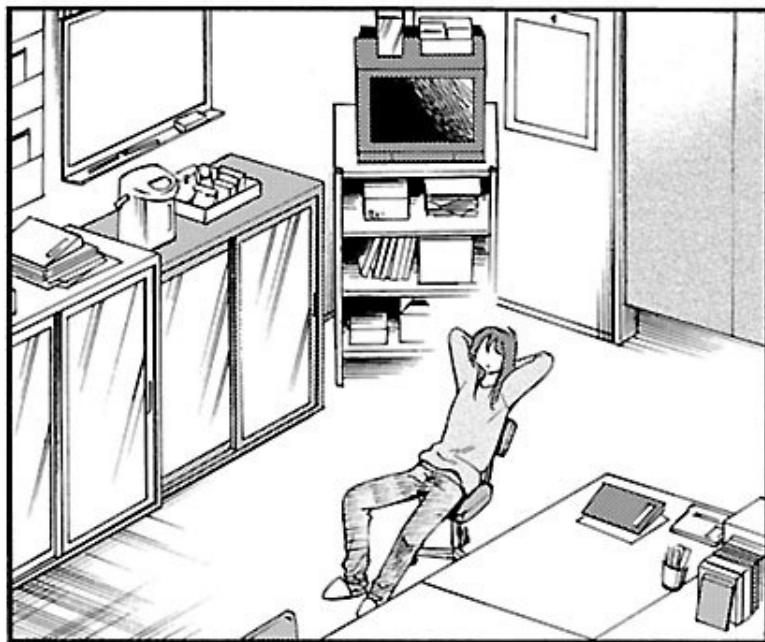
だったら
それがもう
不可能になる
時期まで…

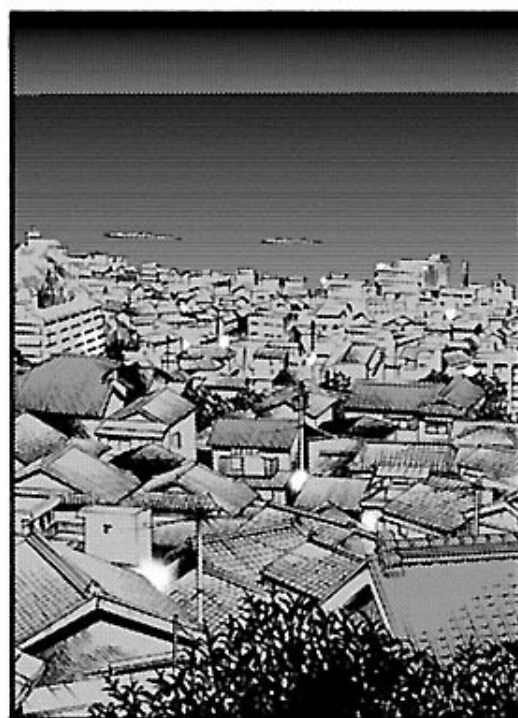
黙って
おこうかな
…って

でなきや
あとは…

全部捨てて
家出でも
するしか
ないかな…

フフ

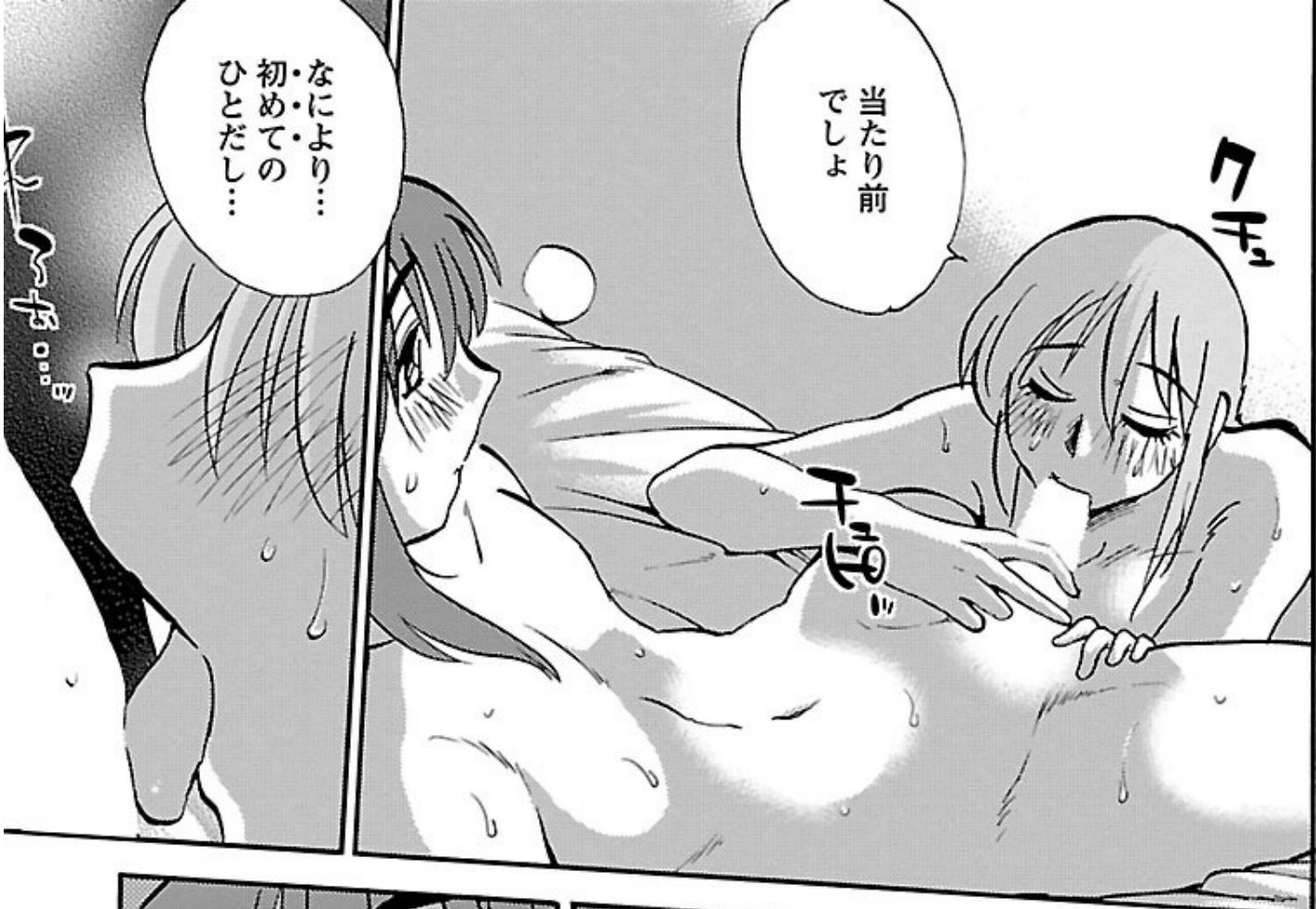






お父さんの
ことが
好きなの？





当たり前
でしょ

なにより…
初めての
ひとだし…

クチュ

チン



初めて!!

おどろいたよ…

なんていうか
包容力…?
があつて…

はる
陽くんとは
大違いね

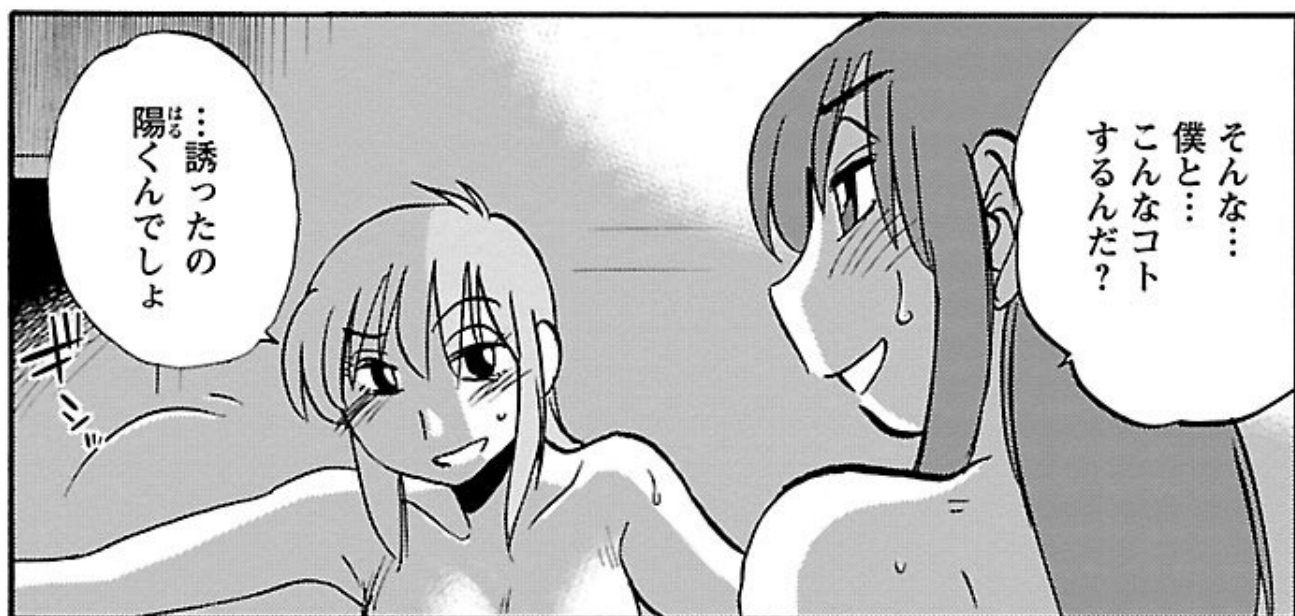


チン

んふ

クチュ

クチュ







あ…

ズ…

ク…

ん…

ク…

はっ

あんっ

ズ…



あつ

キョウキョウ

んんっ

あ



お腹...
きつくしちや...

ダメだよ
陽くん...っ

はっ



ごめん

あ...
そっか



しないと...

優しく...

ね



はっ

は

...んっ

私も...

あっ

フュッ

フュッ

クワッ

自分で
思ってたより

エッチ
なんだな……って
なんか……

わかつちや……った

あ

はっ

……どれくらいに
見積もってたのか
知らないけど

あっ

ああっ
い……くっ

結構な
もんだよ

あっ

はっ

あ

ブル

ブル

ブル

ブル

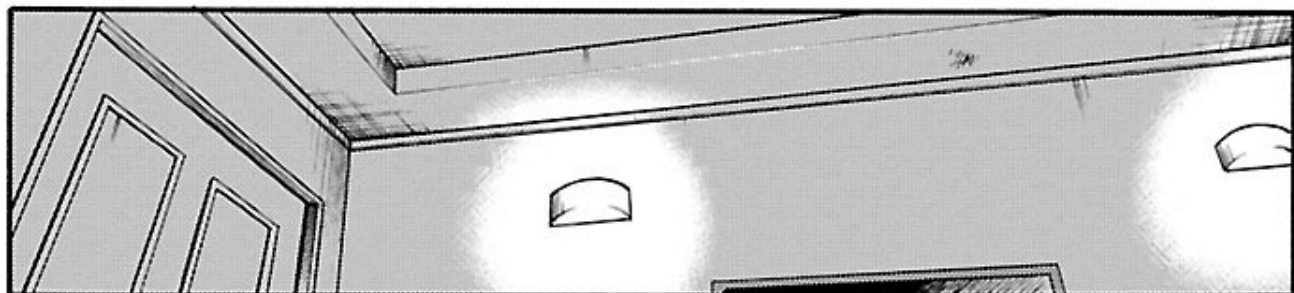
ブル

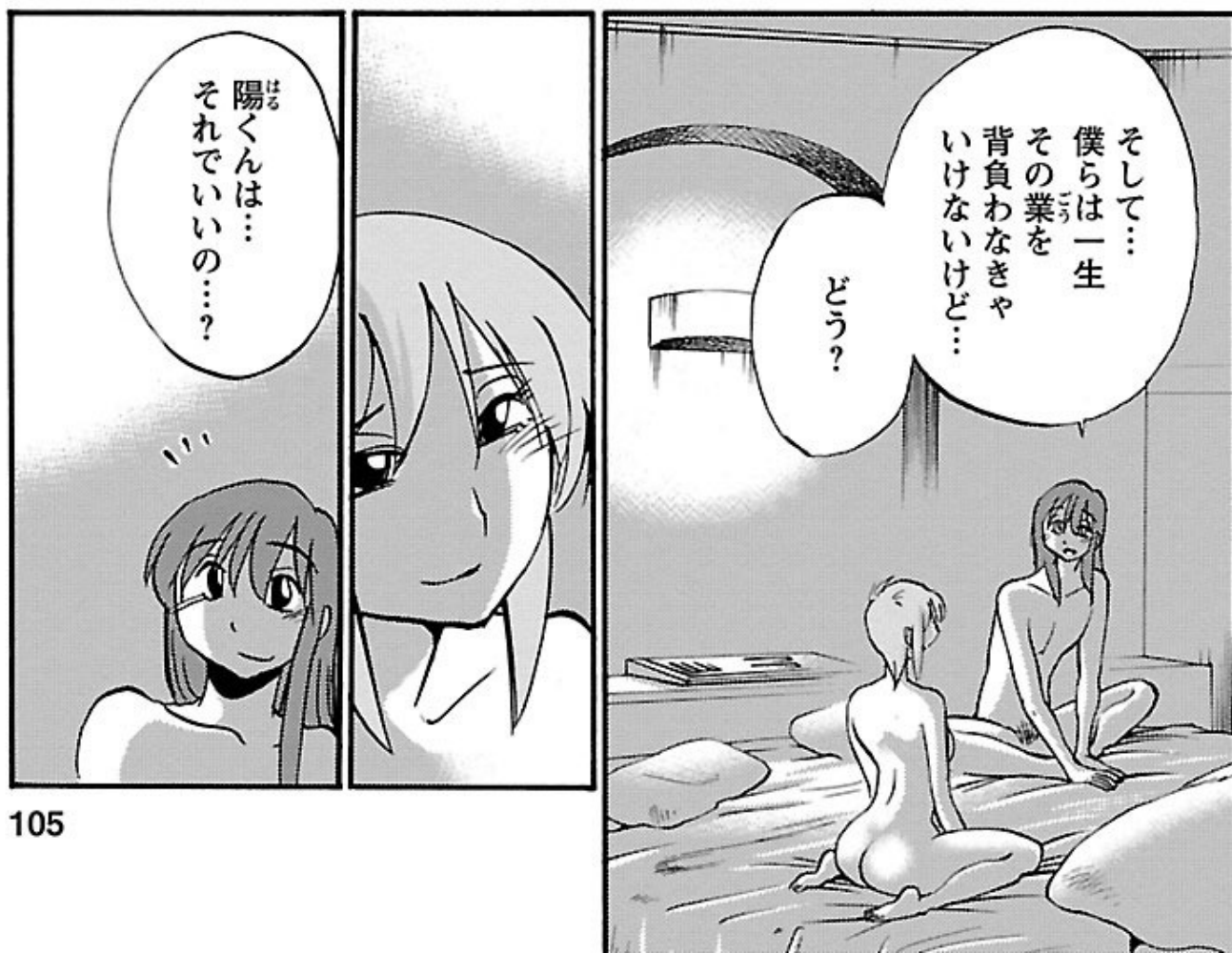
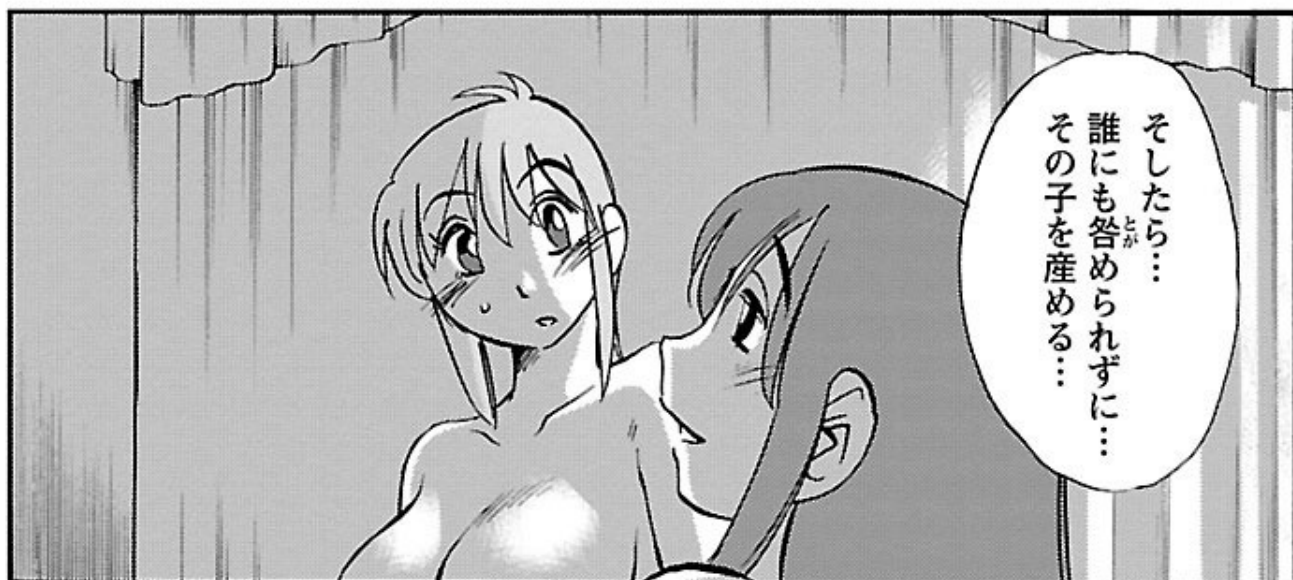
ブル

ブル

ブル

ブル







僕は…

僕と
僕の周りの
みんなが

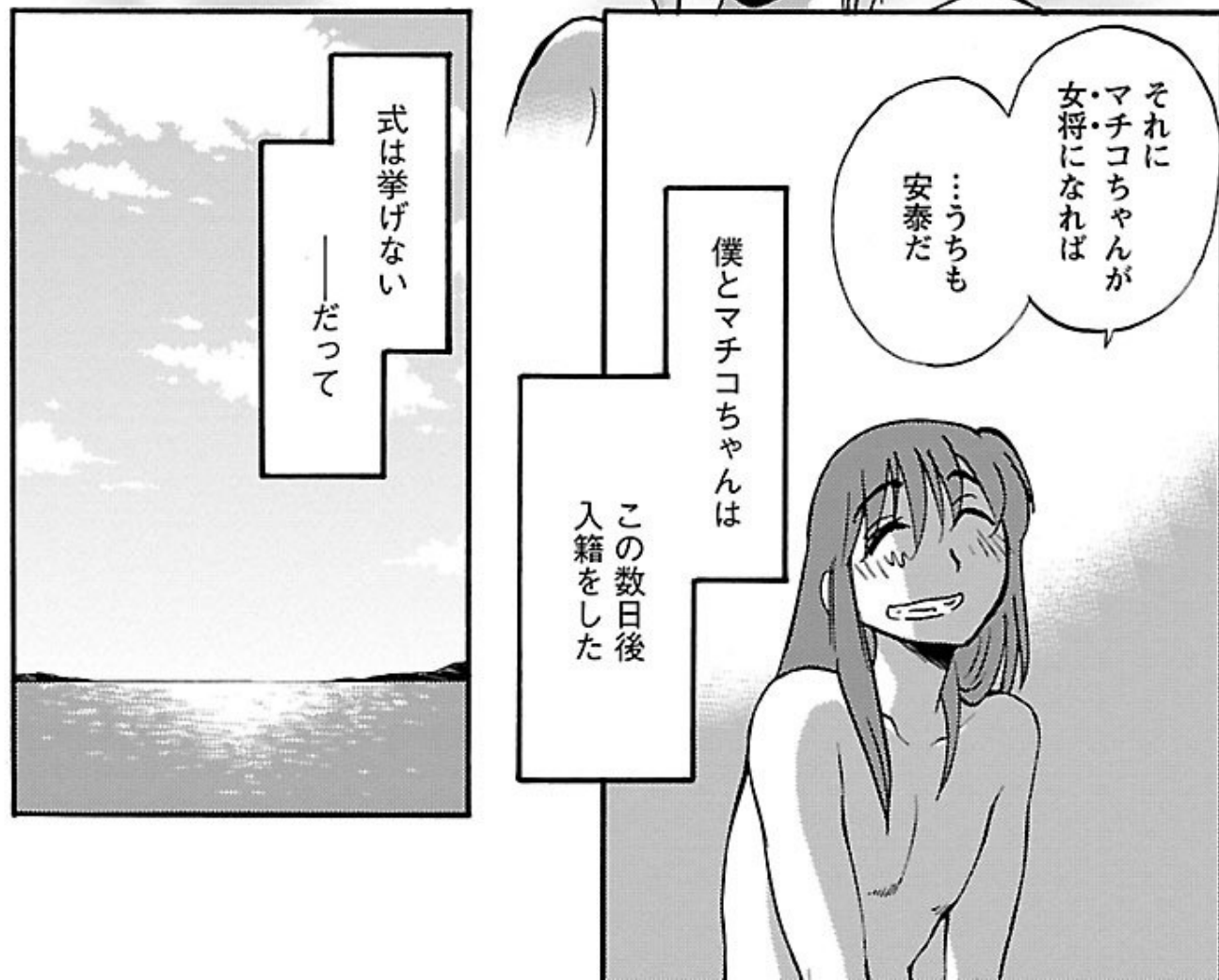
一緒に
幸せになれるのが
いいな

産まれた命が
幸せに
出てこられる
なら

その方が
——いいよね…?



…うん



それに
マチコちゃんが
女将になれば

…うちも
安泰だ

僕とマチコちゃんは

この数日後
入籍をした

式は挙げない

——だって

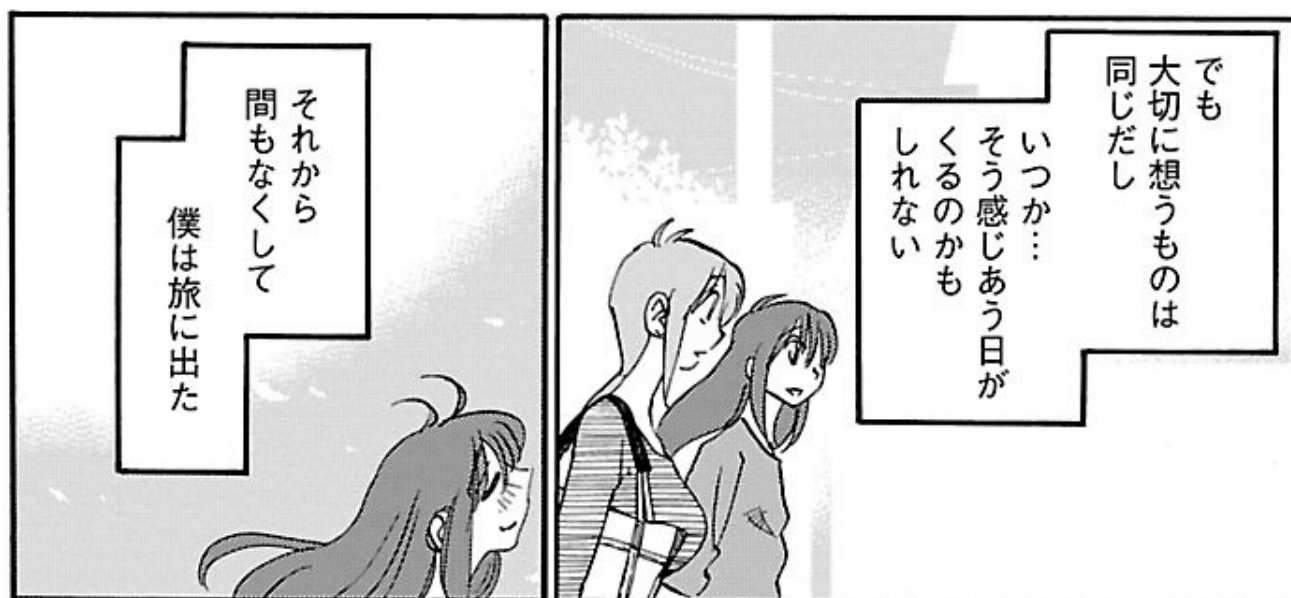




僕らは
愛し合ってる
なんていうほど

なにかを
確かめ合った
わけじゃないし

神様の前で
そんなウソは
つけないから



でも
大切に想うものは
同じだし

いつか：
そう感じあう日が
くるのかも
しれない

それから
間もなくして

僕は旅に出た

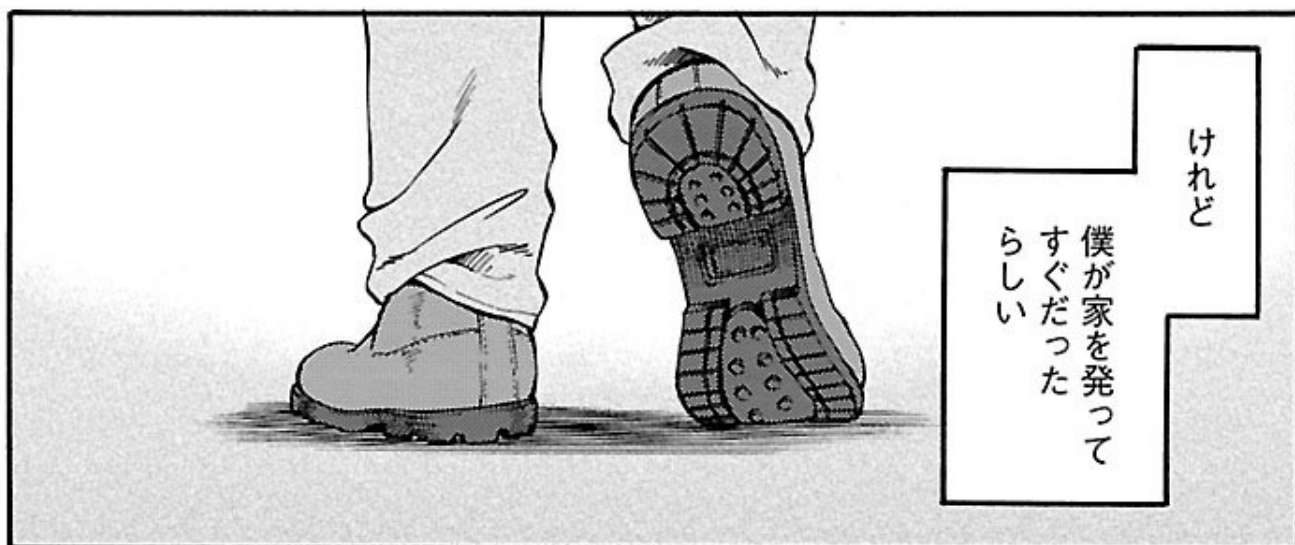


もう少し：
外にいたかったから

旅館は女達が
守ってくれる

これまでも
そうだったし
——きつと
これからも

そう：
お父さんが
そうしていたように



けれど

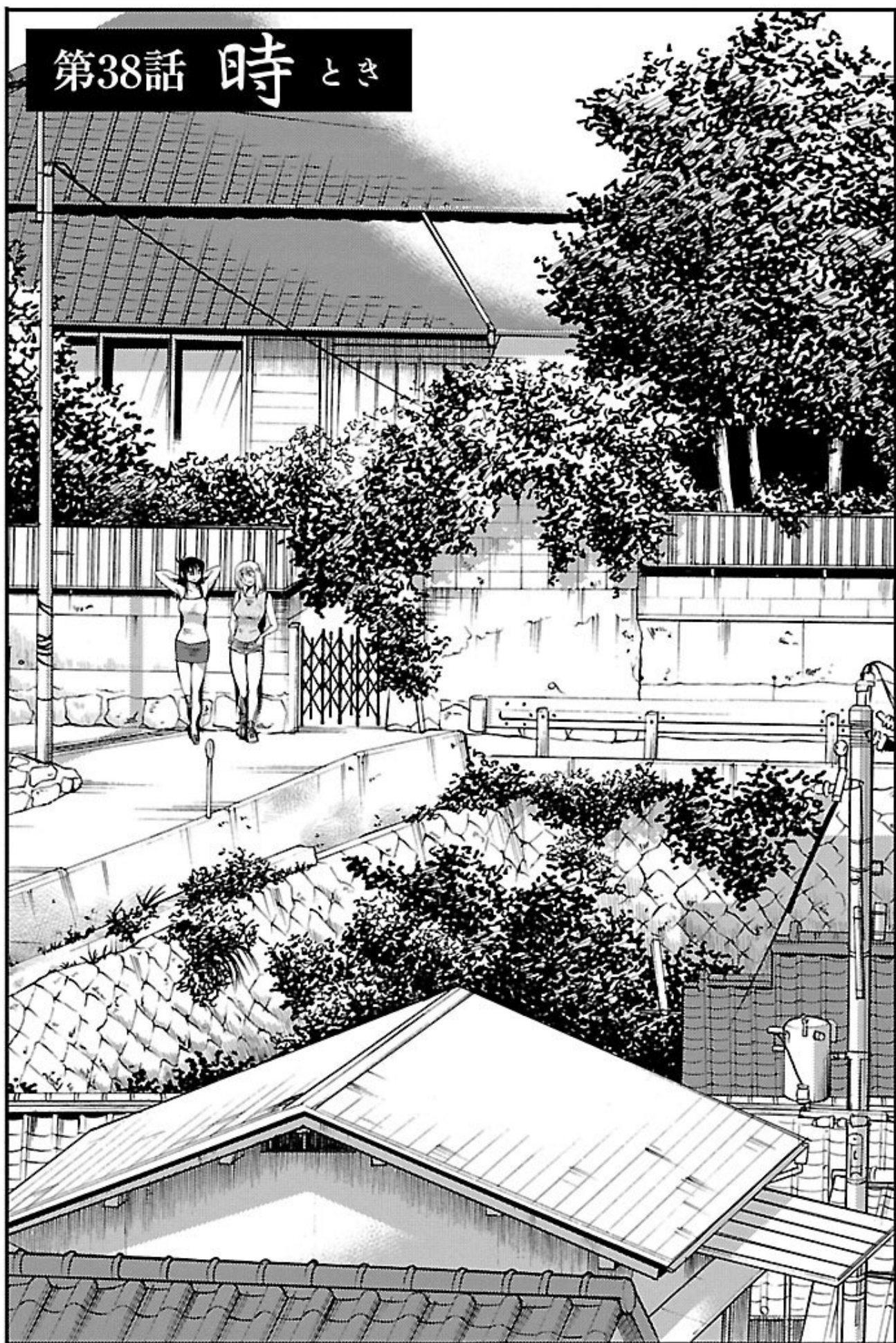
僕が家を発って
すぐだった
らしい



あやめから

お父さんが
亡くなったという
報せが
届いたのは――

第38話 時とき





あつ

や

はっ

撮っちゃ
だめえ……っ

こんな
カオ……ッ!!

ああつ

ガ
ユ
ハ

ガ
セ
ユ

ガ



あは

ギョウ

やつ

ギョ

いつもの
すましたカオじゃ
なくて

いいカオだよ

やだあつ



あ

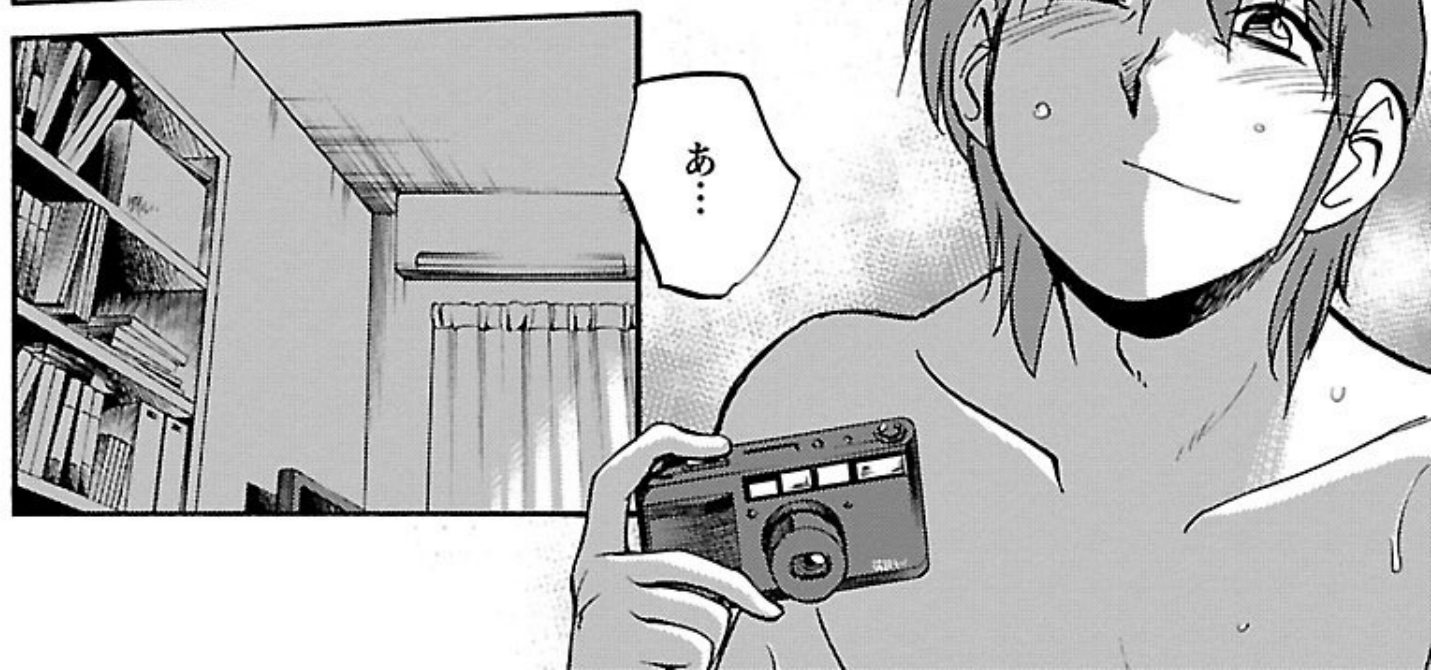
そんなこと
言って

ほら

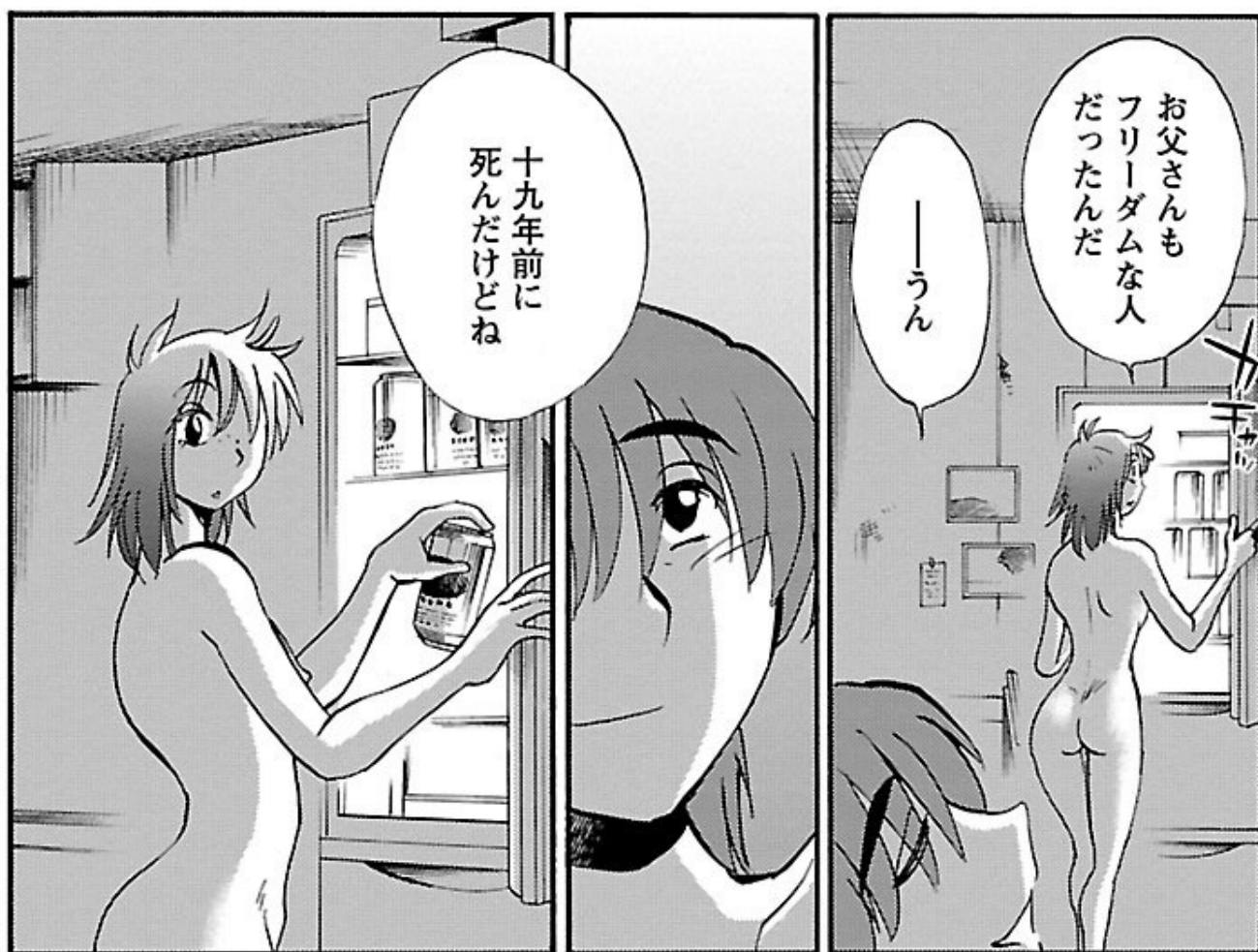
ギユウギユウ
締めつけて

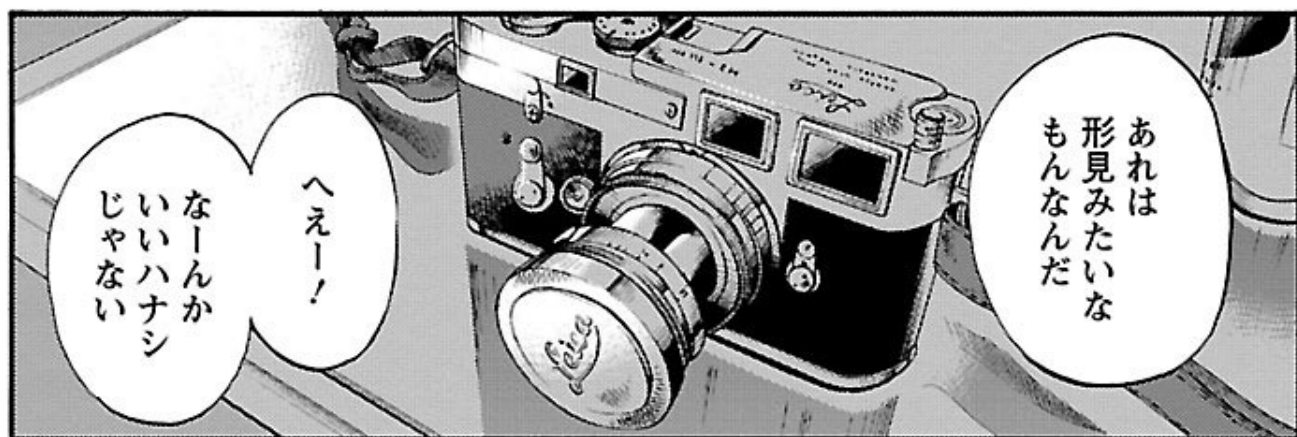
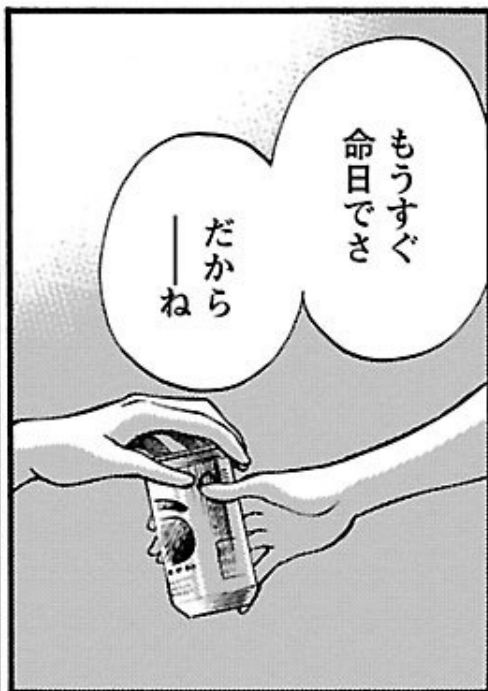
あつ

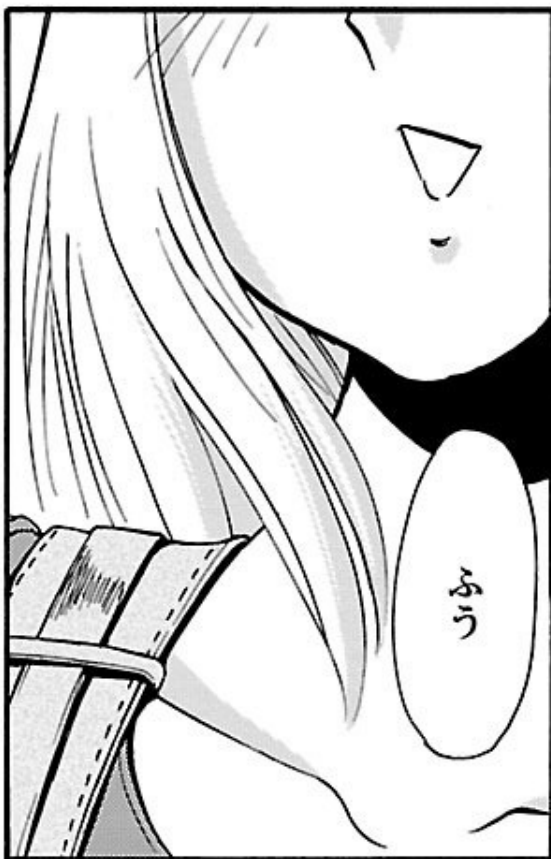
やん













やっと…
着いたナ！

ふおうー
聞いたとおり
坂の町…

さあ今度は
あの旅館
探すデ！





いちいち
口うるさいのよ!
お母さんは

おかみ
女将って
言いなさい

あー
おかみ
おかみ!

そんな言い方が
ありますかっ!

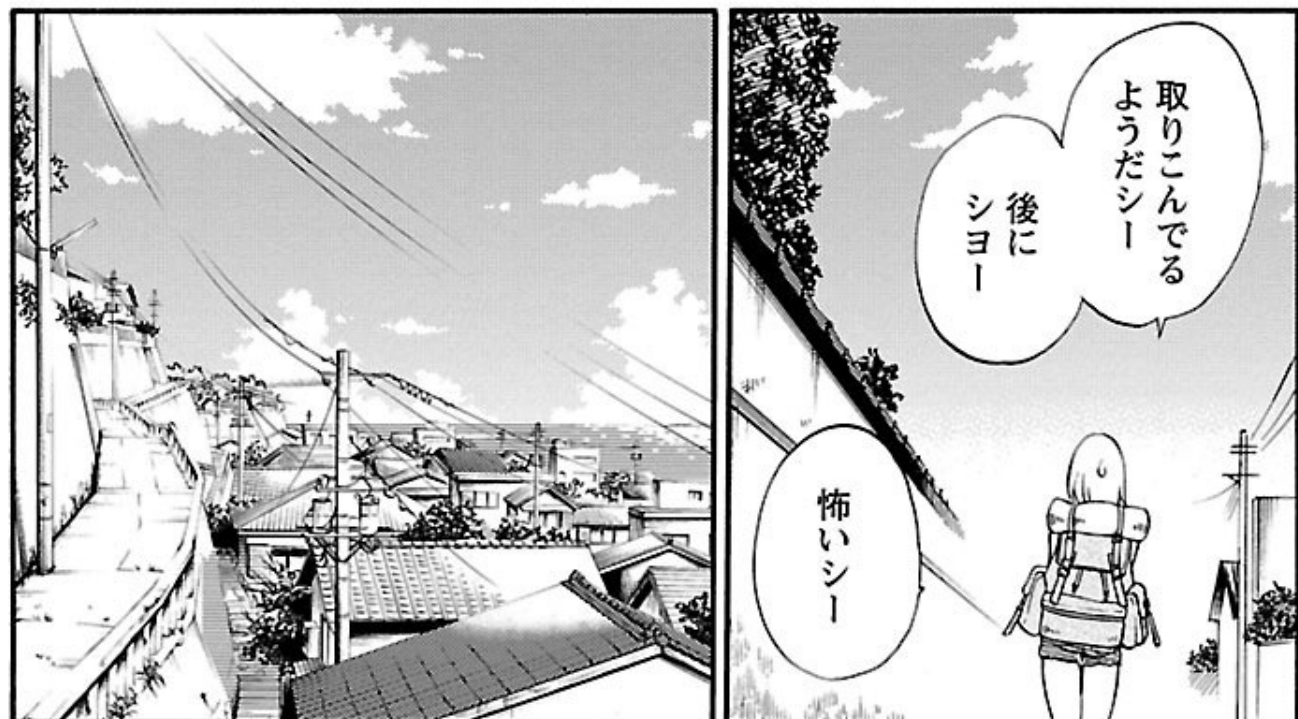


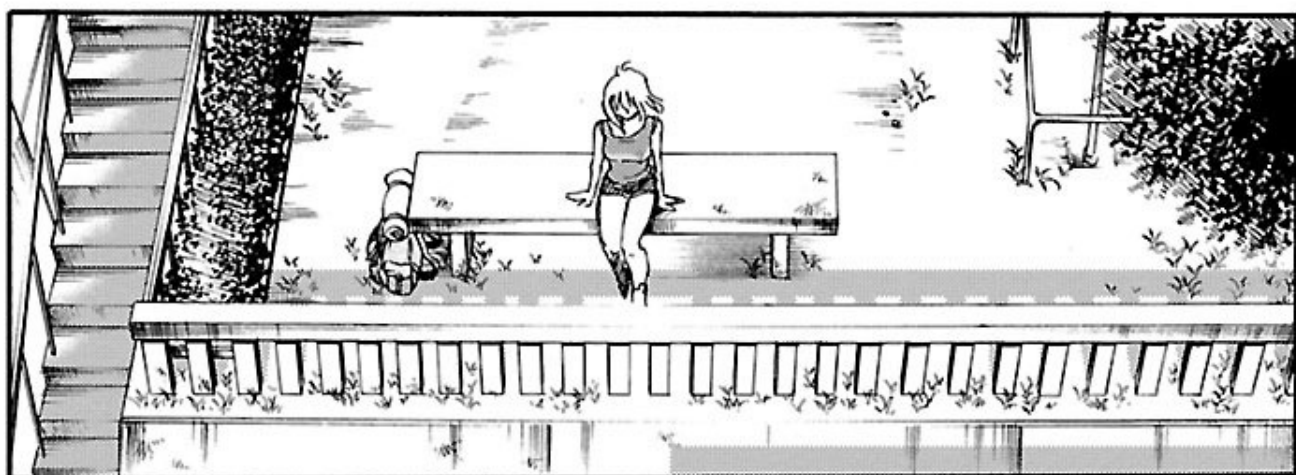
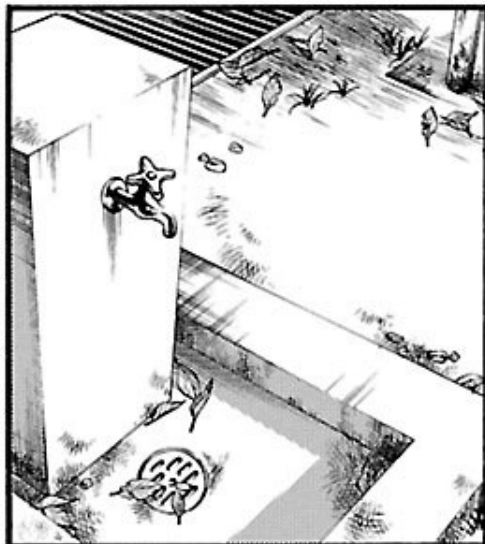
大体
家継ぐとか

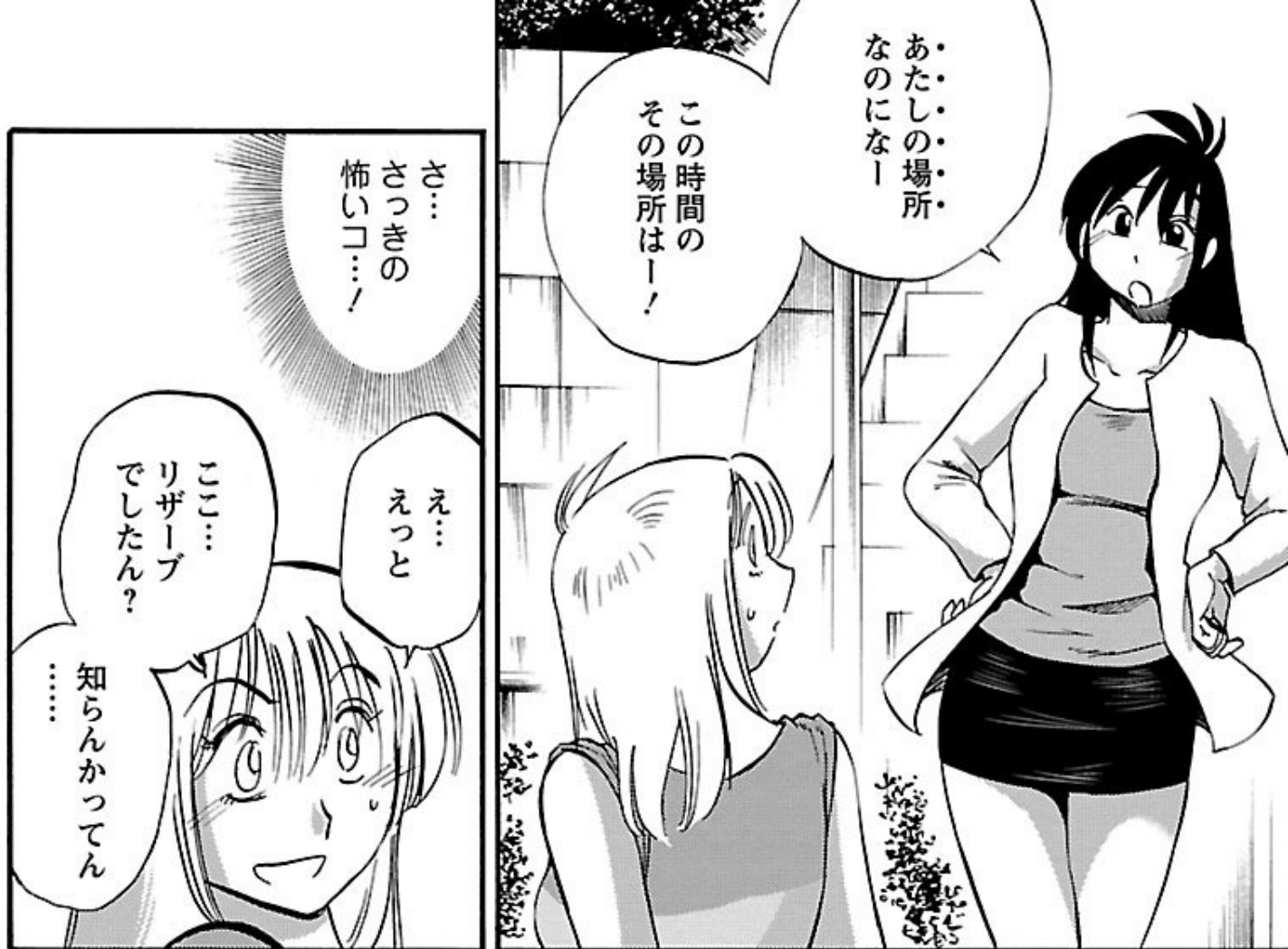
そんなコト
今から
考えてねーっ
つーの!

跡とりとか
そんなこと
おいといても

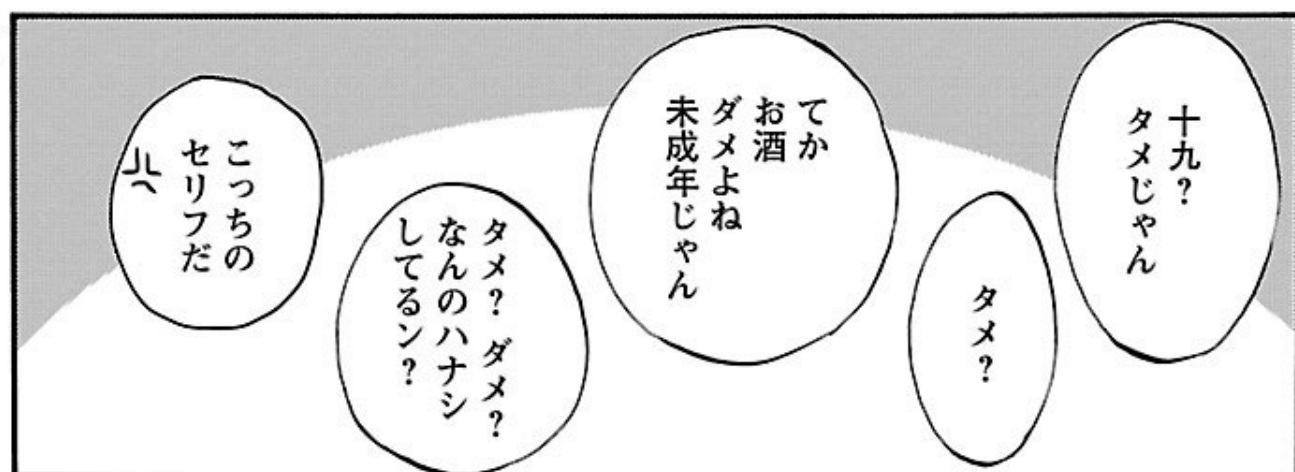
せめて
手伝うなら
しっかり
やりなさいって
ゆってんの!



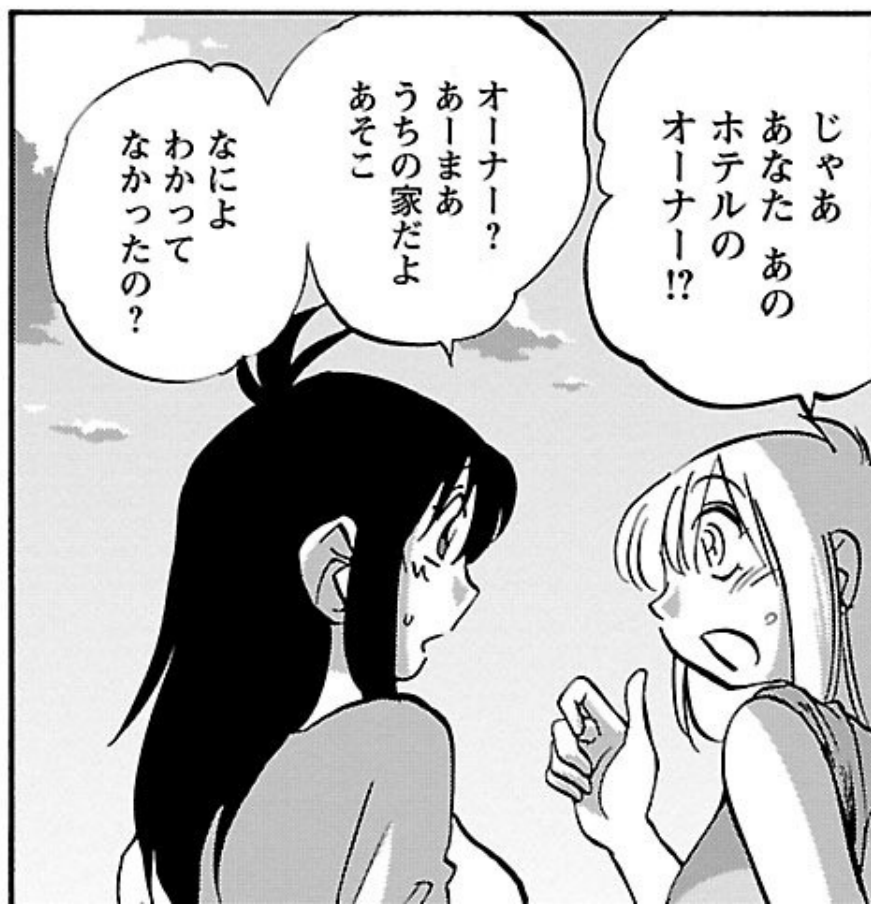
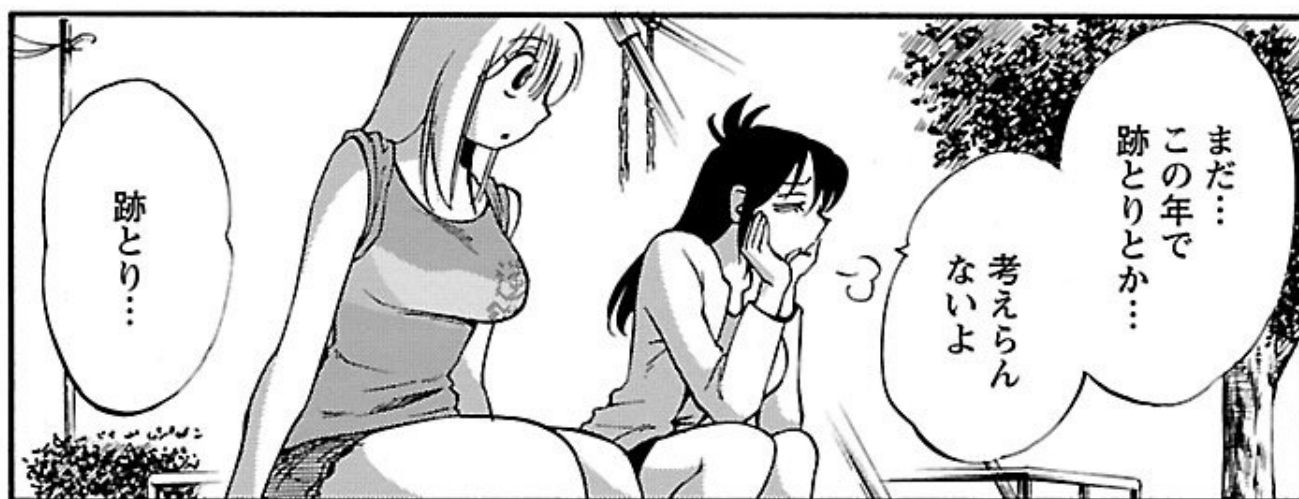
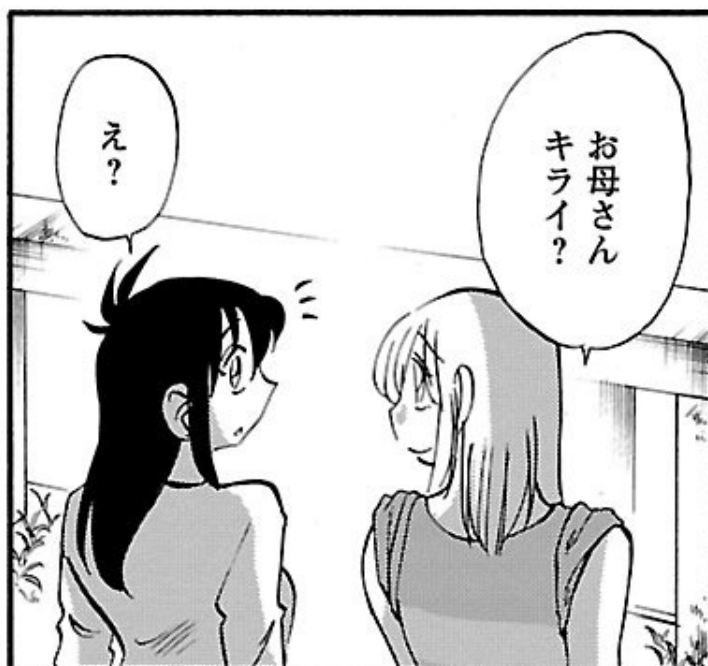




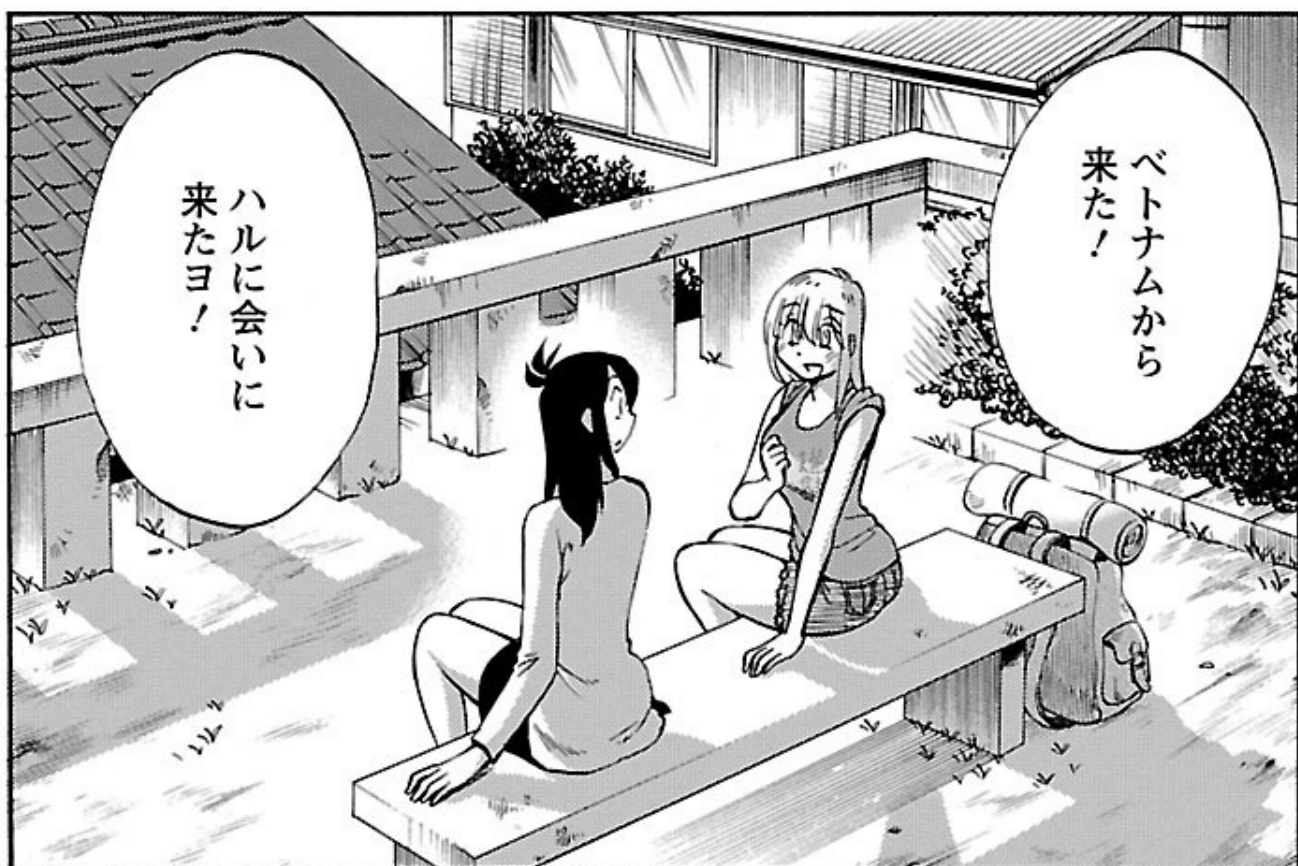
※サントリーにリザーブという
ウイスキーが有りました



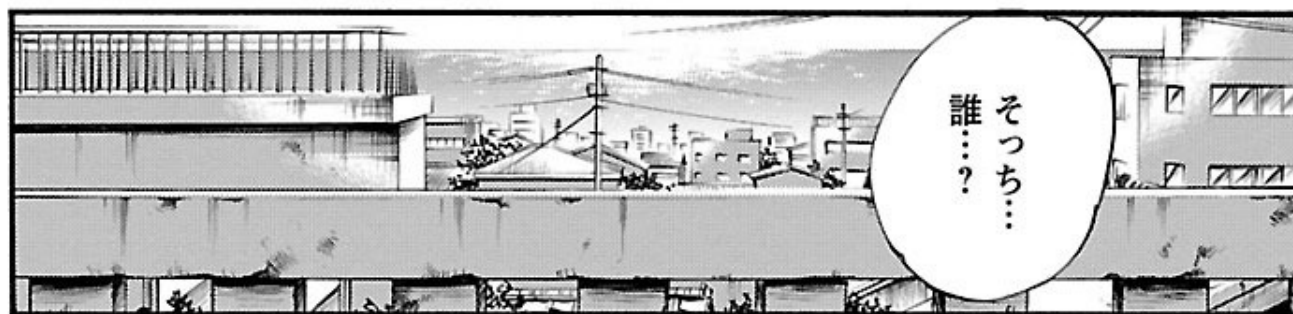












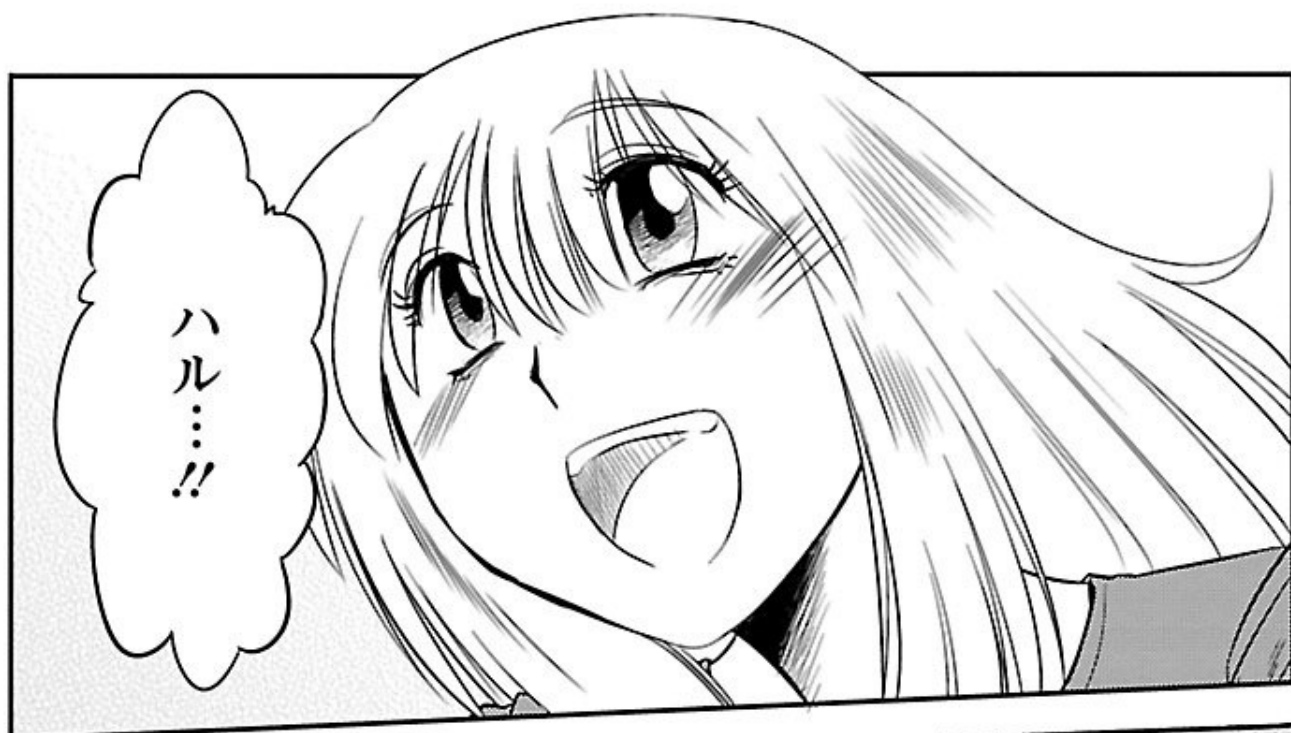
ひるがお

Presented by
TSUYATSUYA

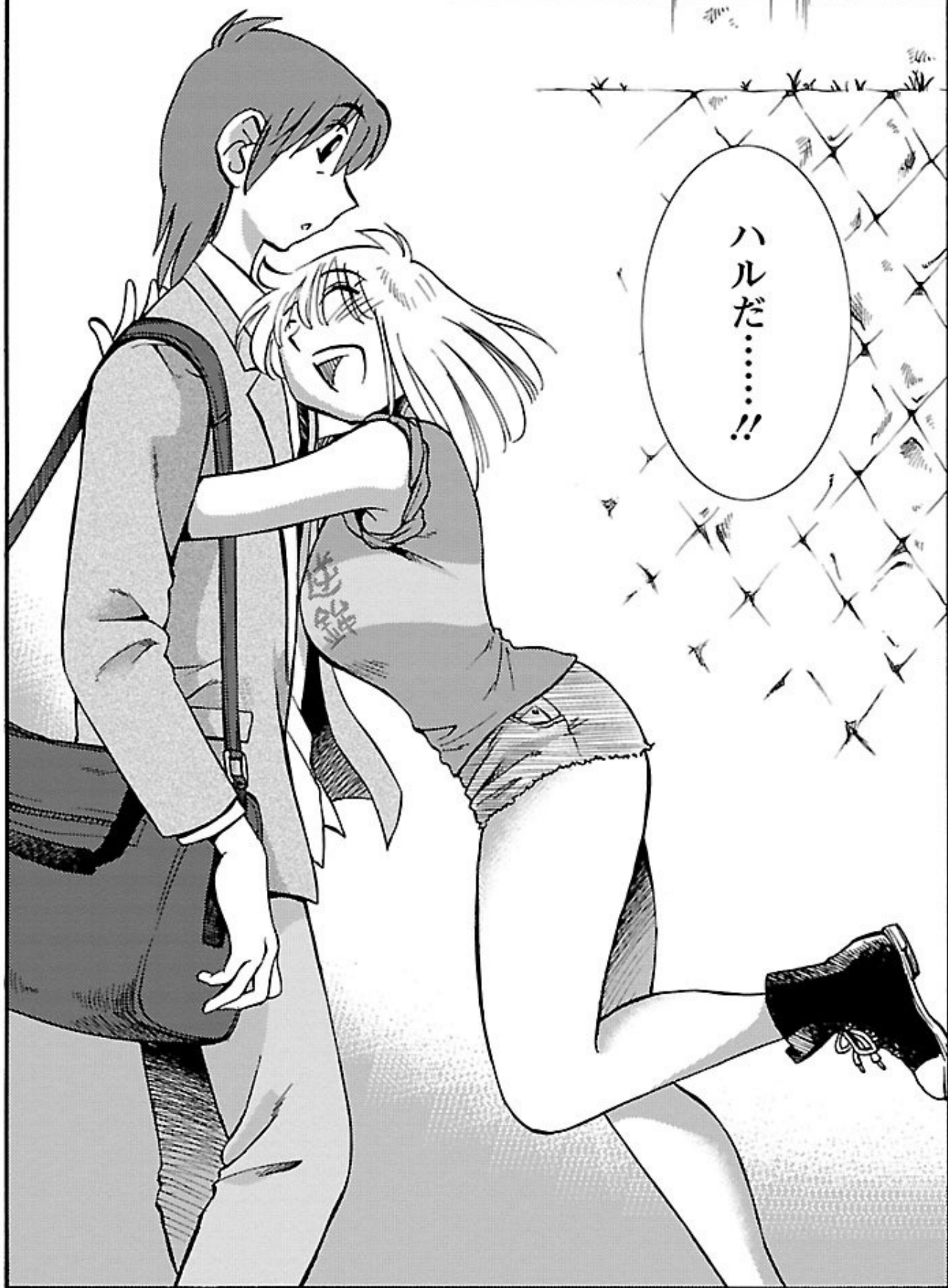
高橋フミ役
写真学生マイちゃん(20)

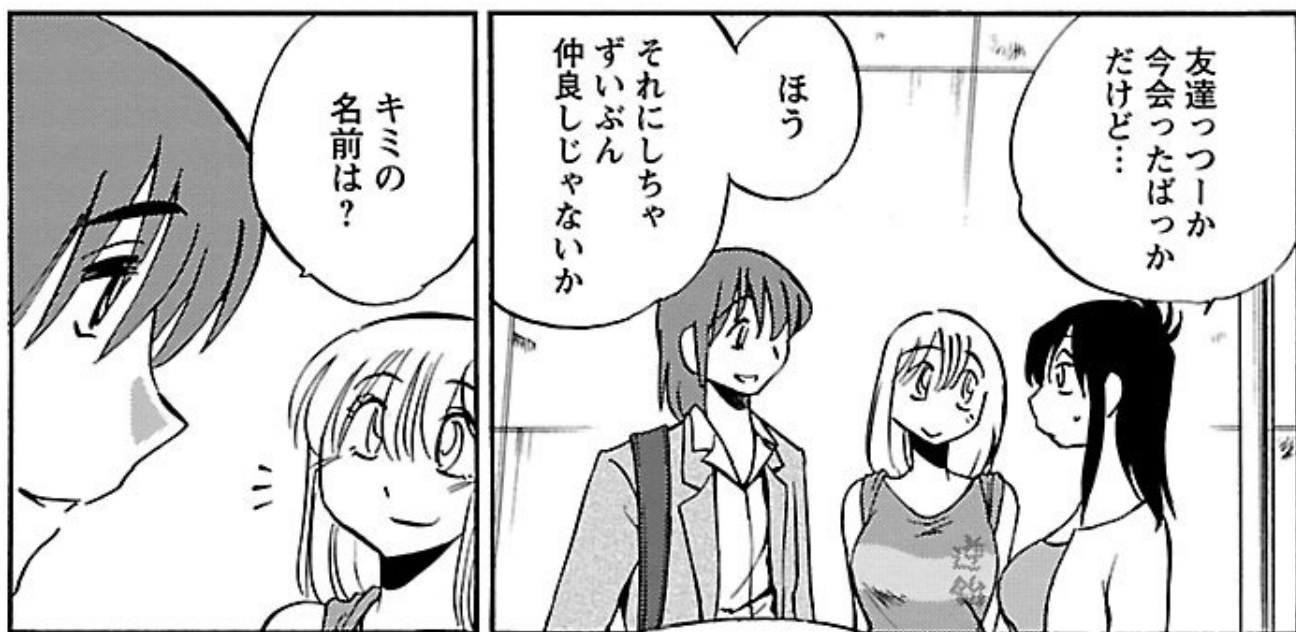
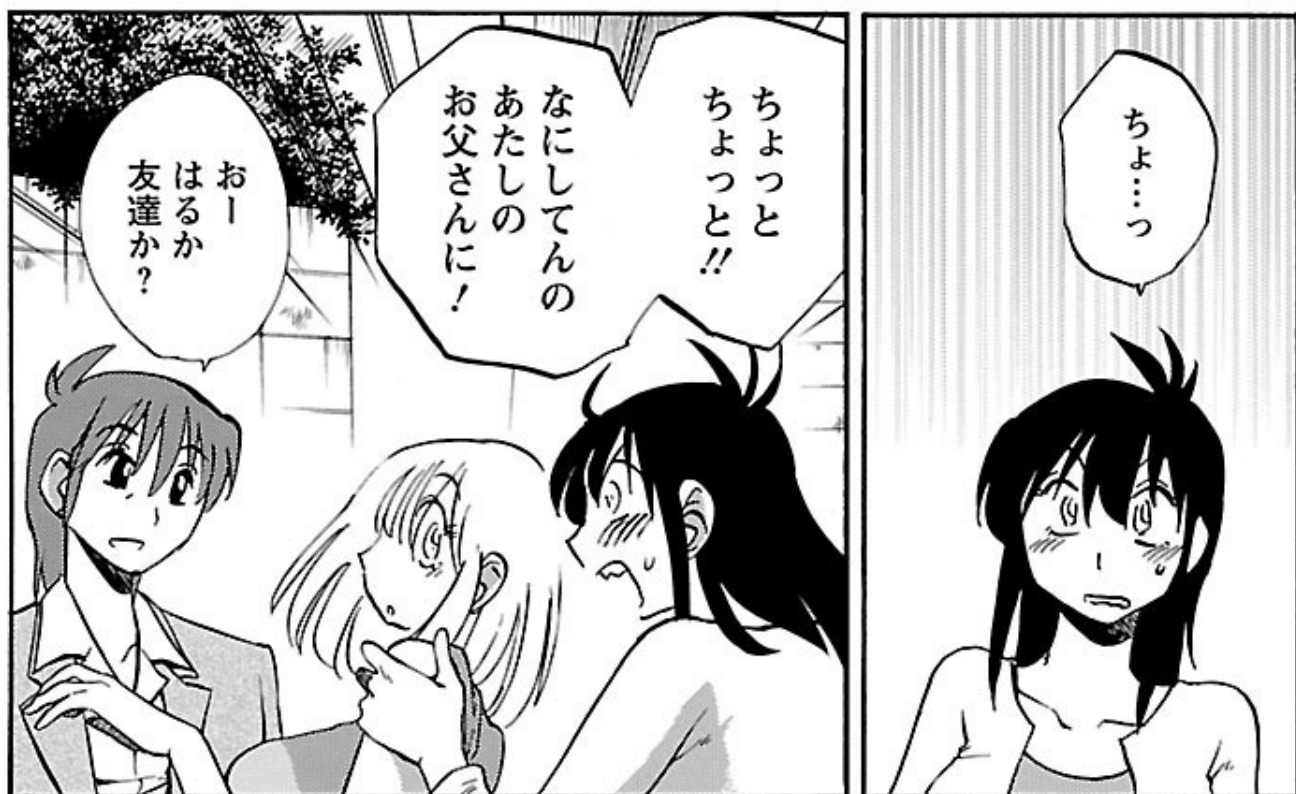
愛機は
P-ライ35

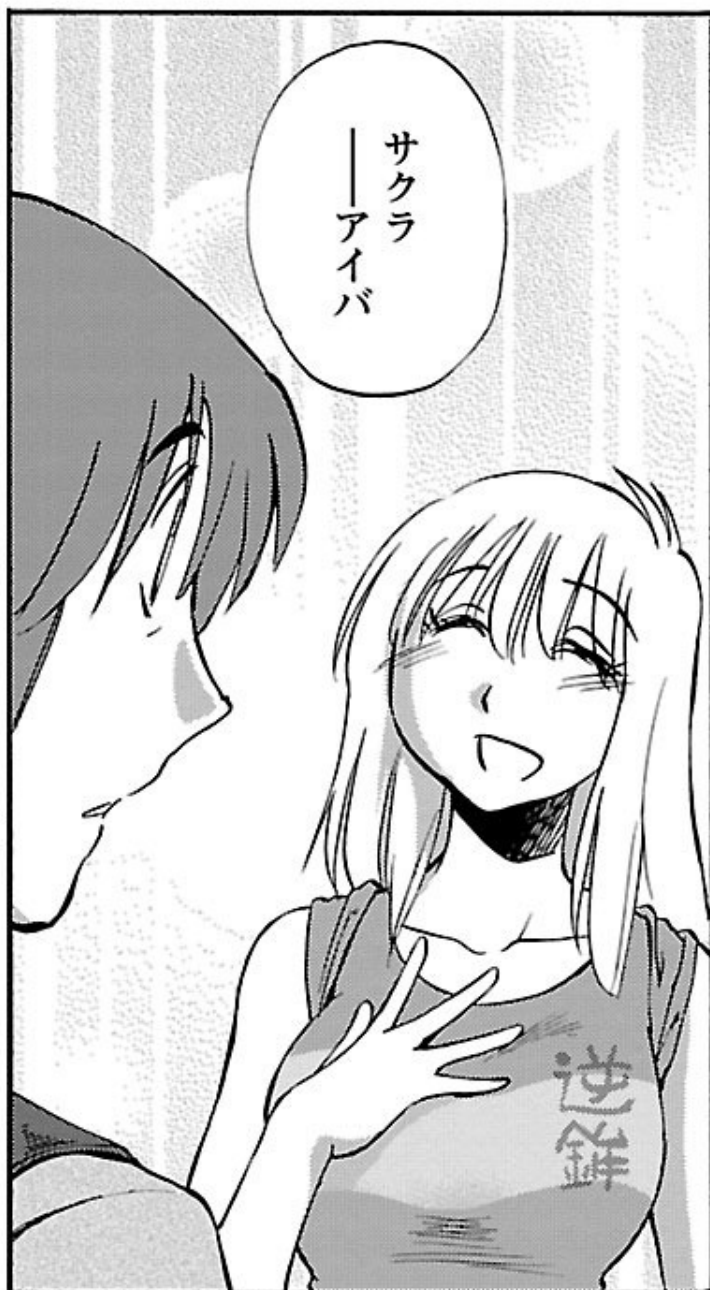




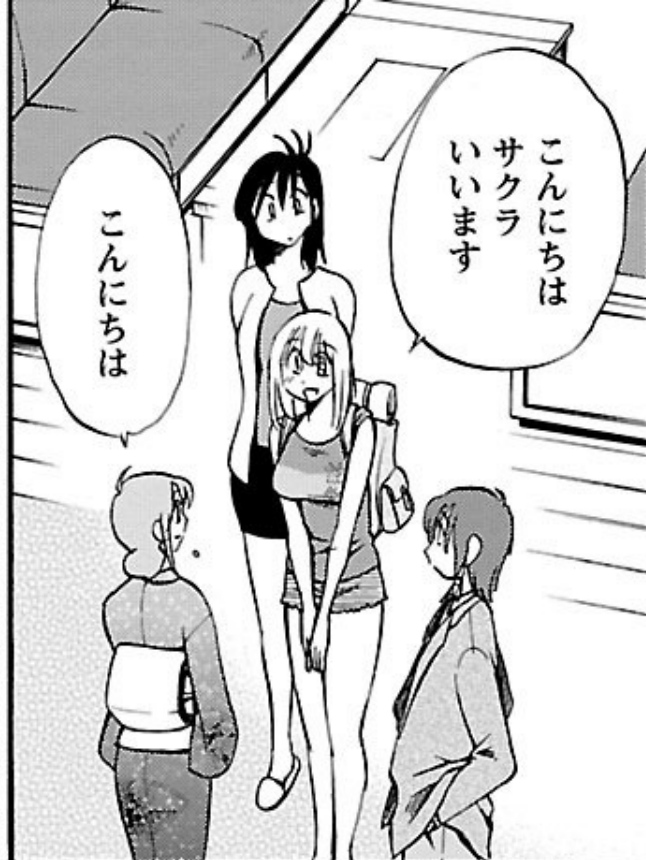
第39話 娘 むすめ















ああ

どっか
行くの？

いつもいつも
いきなりだねエ
おまえは

お母さんも
元気そうで
なにより



あいかわらずの
魔女&肉食
つぶりだね…

ちよいと
お泊まりで
デートさ



ああ

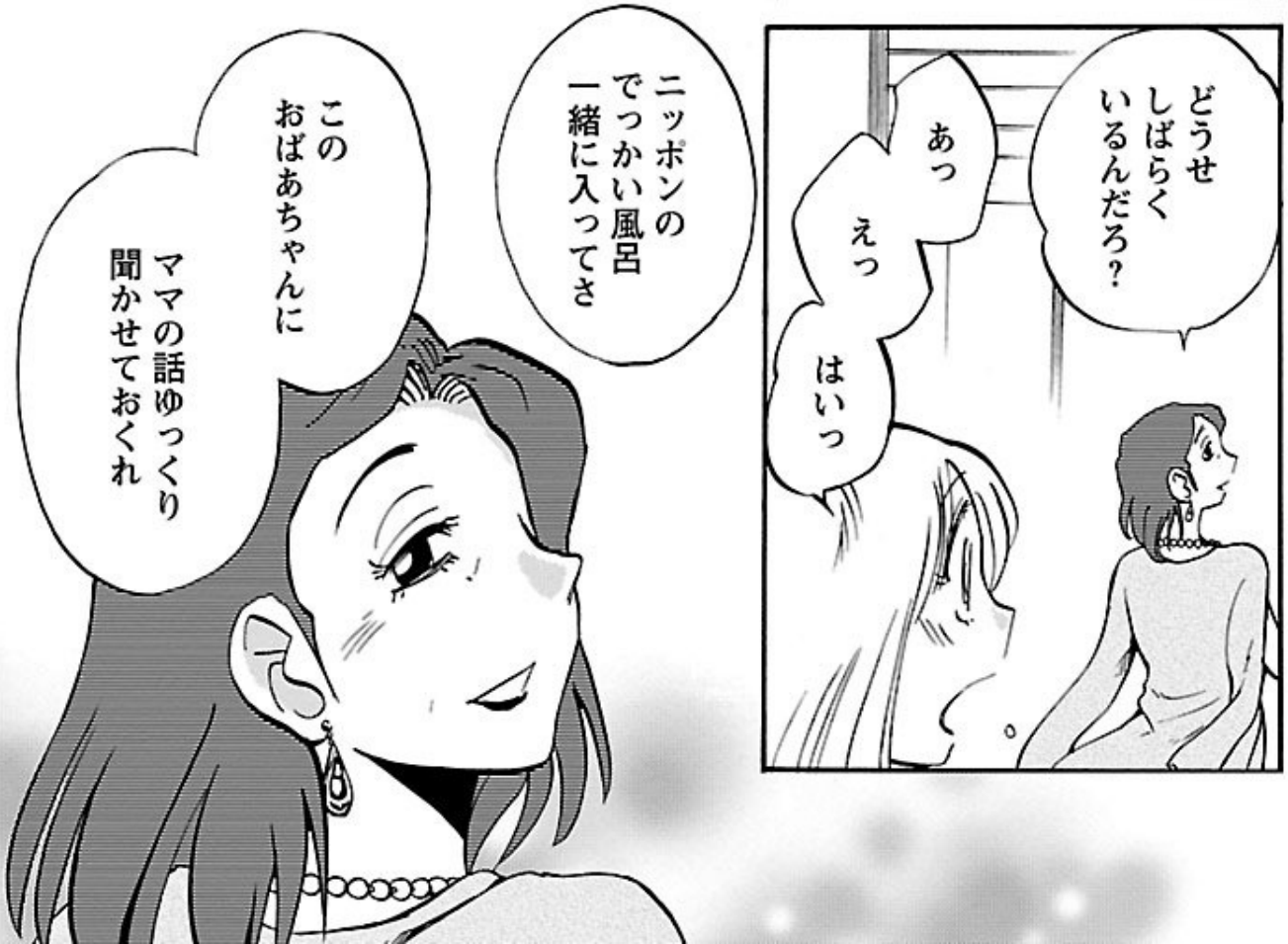
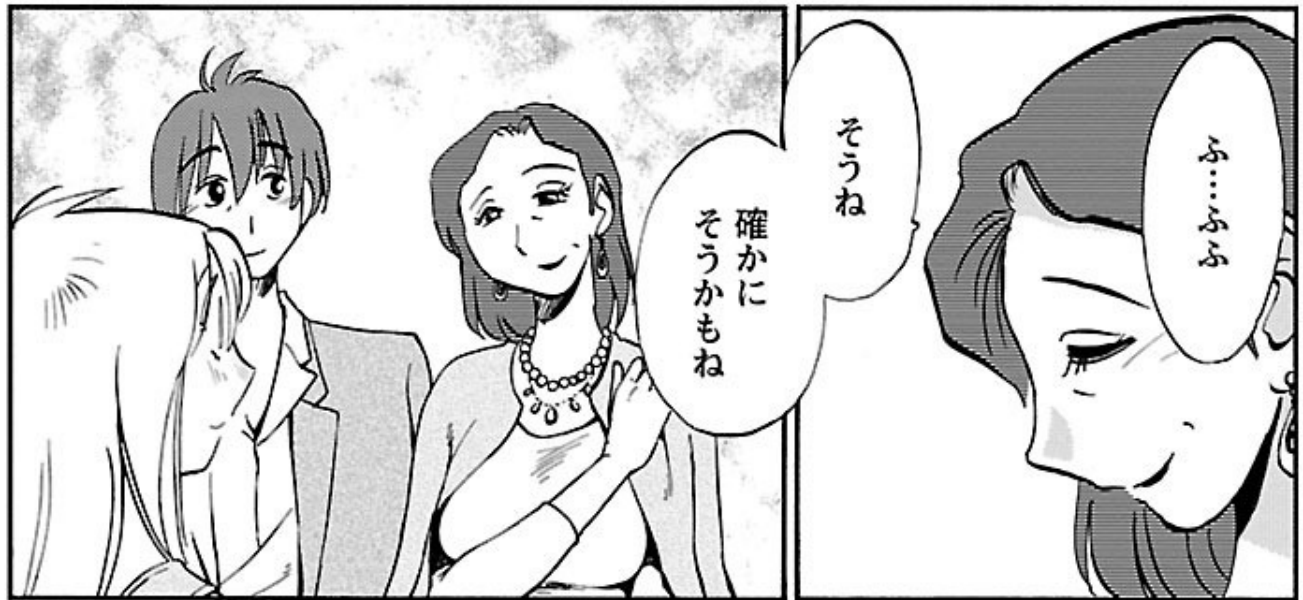
で？
そちらは？



サクラって
いうんだ

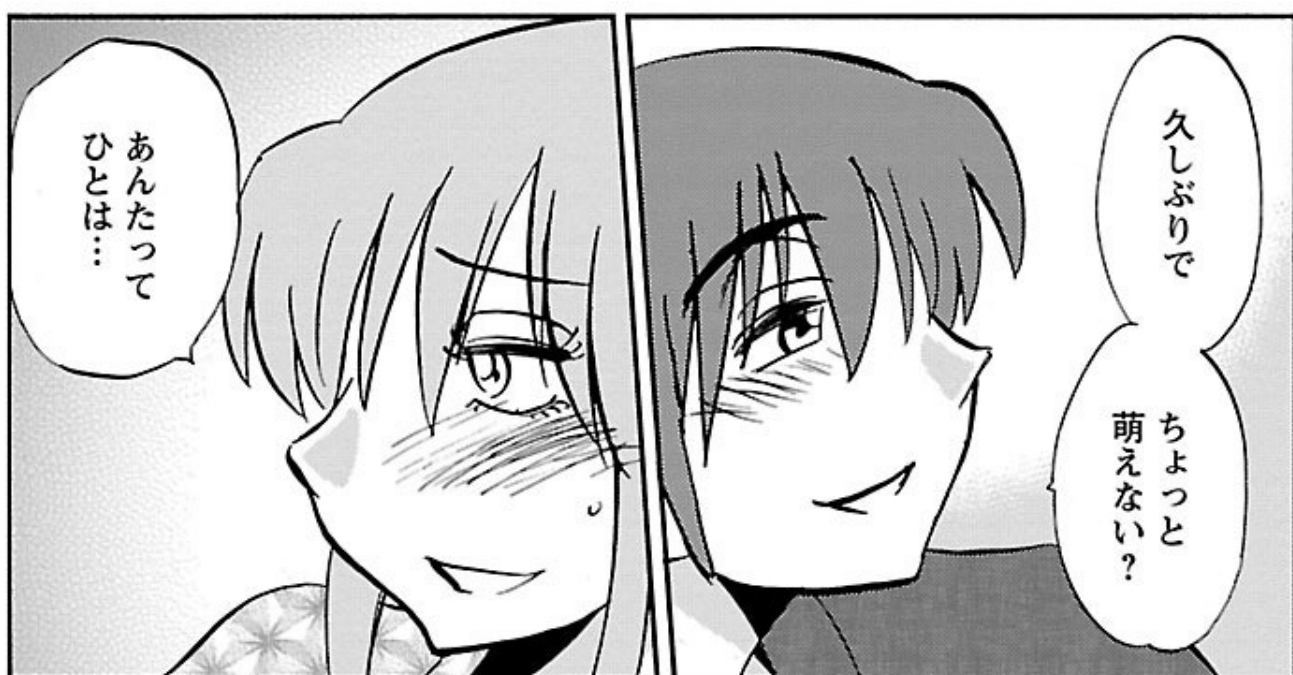
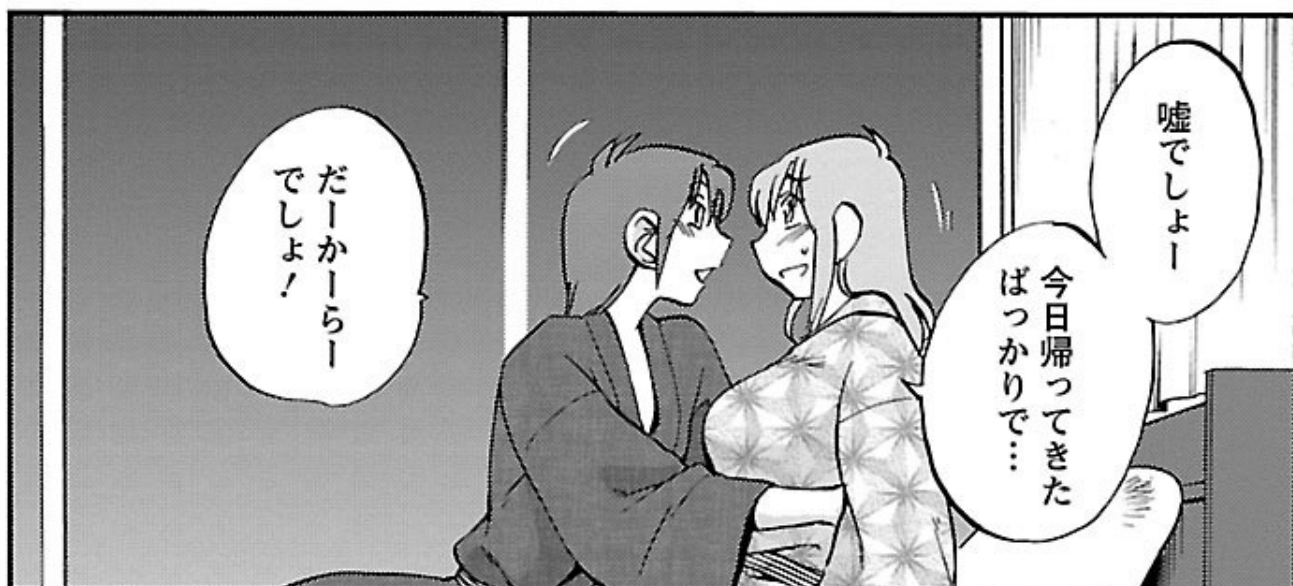
あやめの子
だよ













だって
マチコと
こうしたくて

帰ってきたんだ
ぜえー?

あじ...

チキーン...



この...っ

いい加減な
オトコ...





あ

僕がそれを
知ったのは
ずいぶん後だった

は

あつ

十九年前

お父さんが
亡くなった時

ズ

携帯電話も
まだほとんど
普及してない時代

フラフラと放浪した
あげく 実家へ
連絡をしたのは
その四カ月程あとだった

知らせを受けた
母とマチコちゃんは
すぐに二人で
ホーチミンへ飛び

あやめと共に
簡素な葬式を
済ませた後

お父さんは
現地で茶毘だひびに
付された

あやめは

そのまま
帰ってこなかった

お父さんと
共に世話になった
現地の病院で

ボランティア
スタッフとして
働くと言って…



ねえ

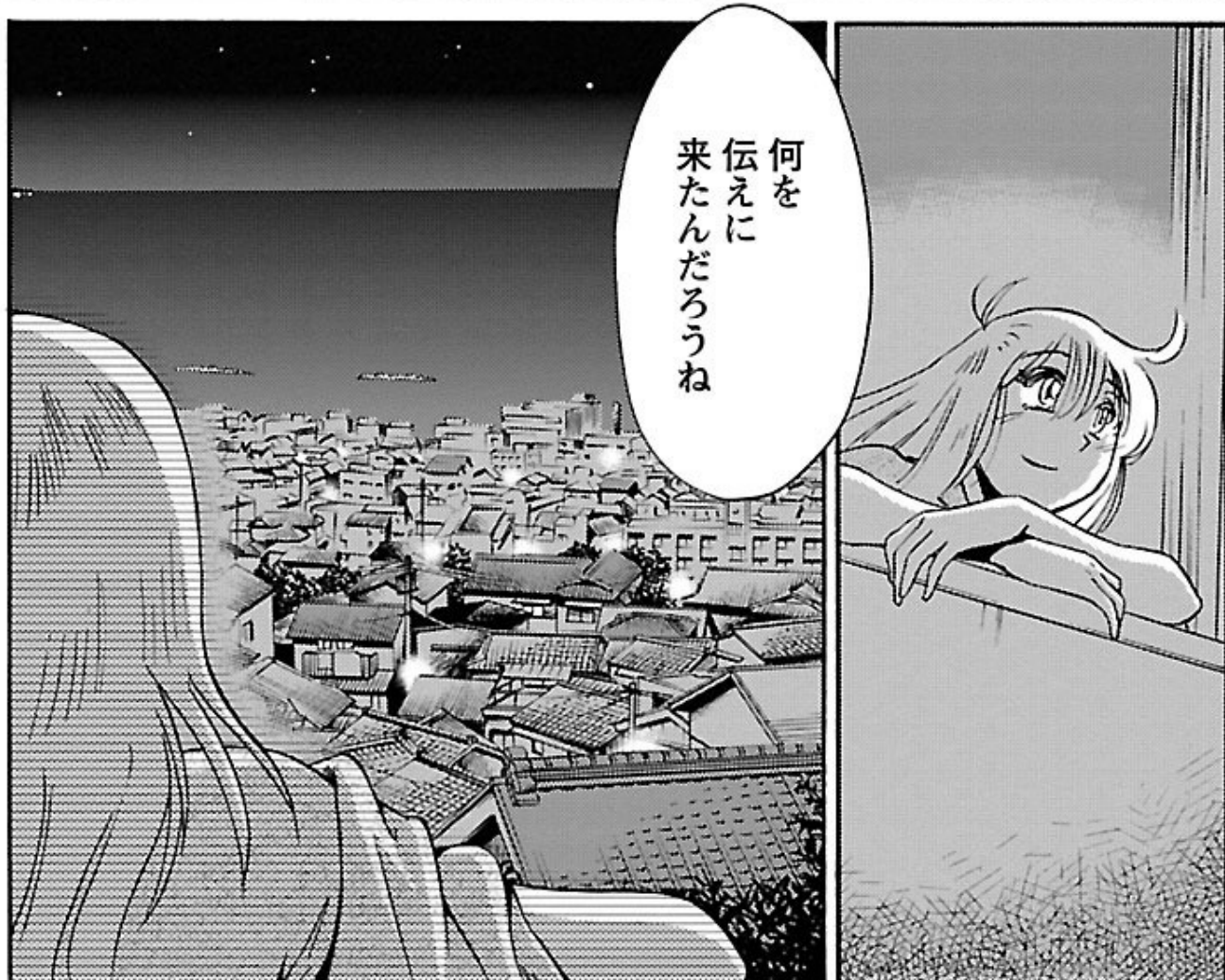
あの子は…
…サクラは

何をしに
来たんだろうね



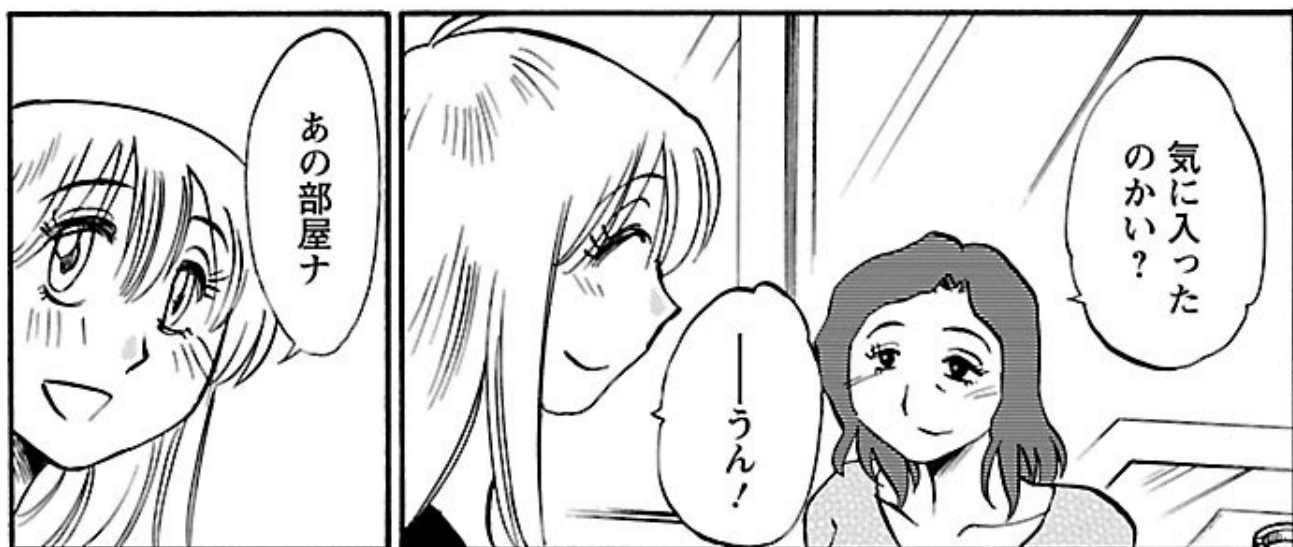


この町まで

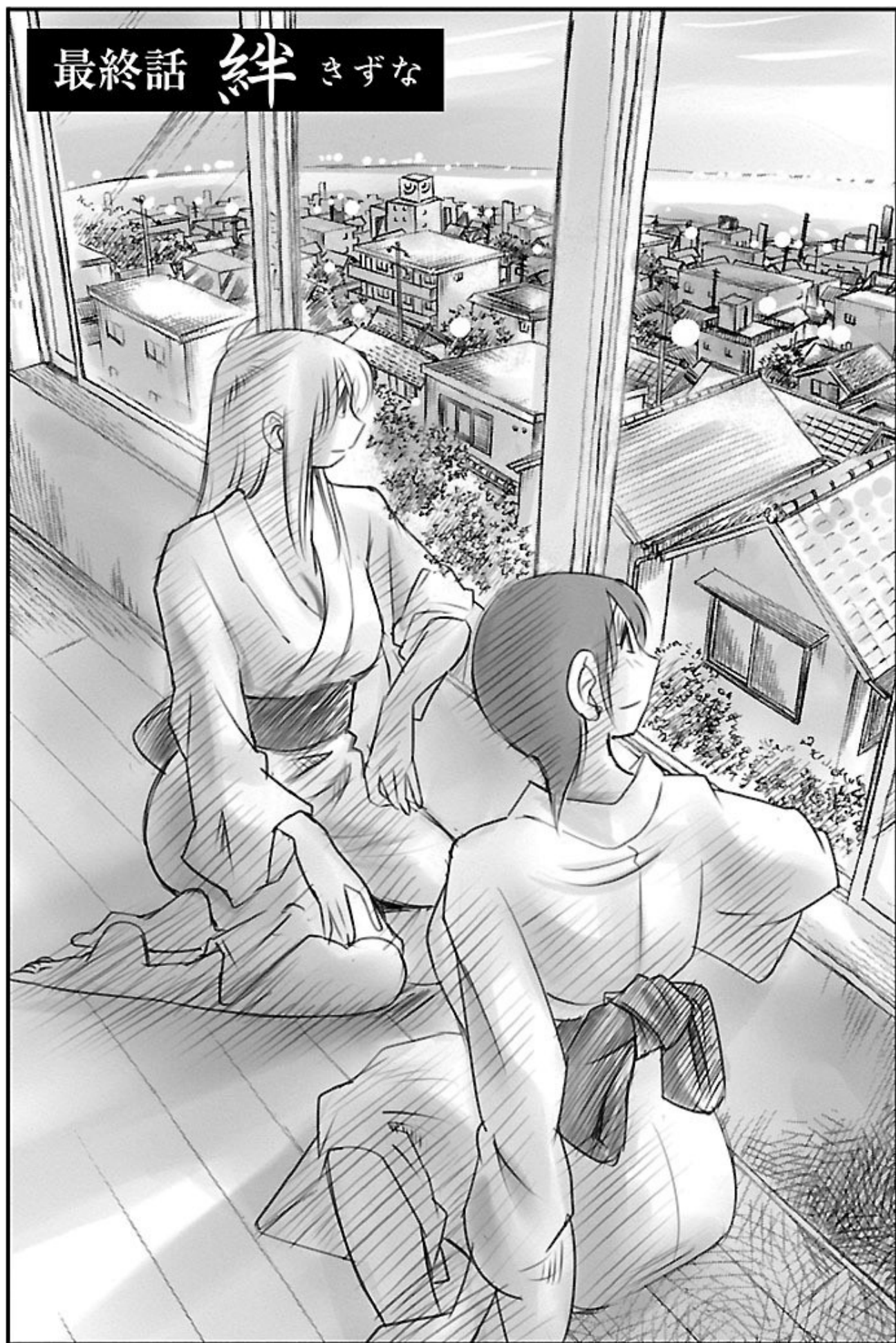


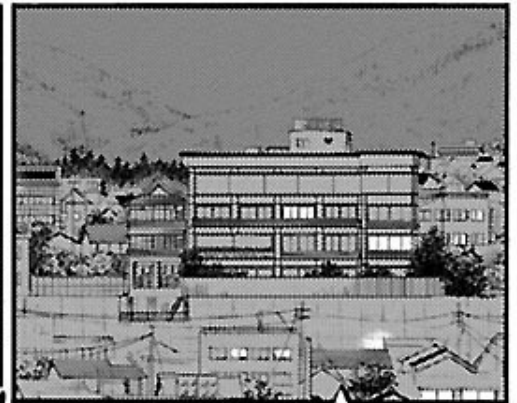
何を
伝えるに
来たんだらうね



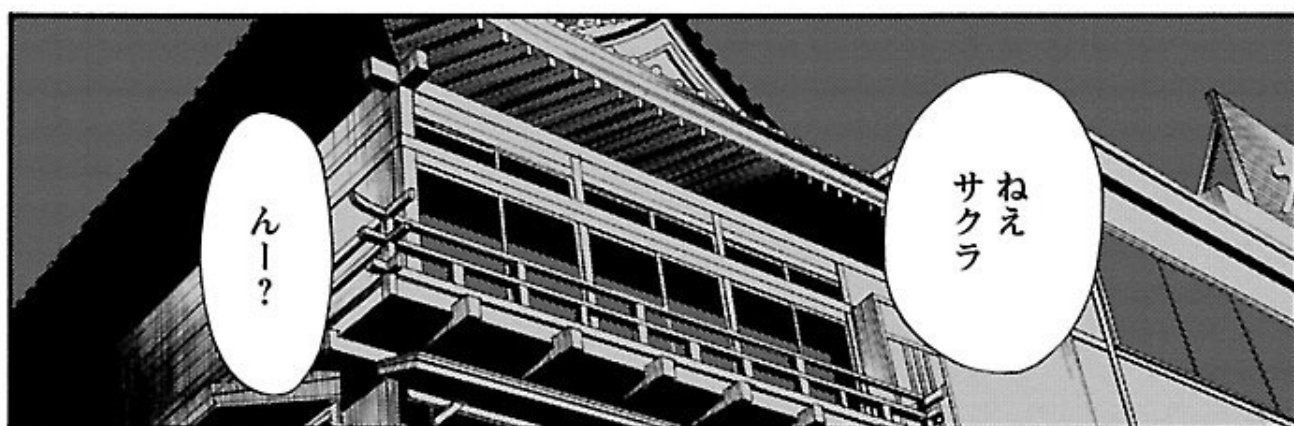


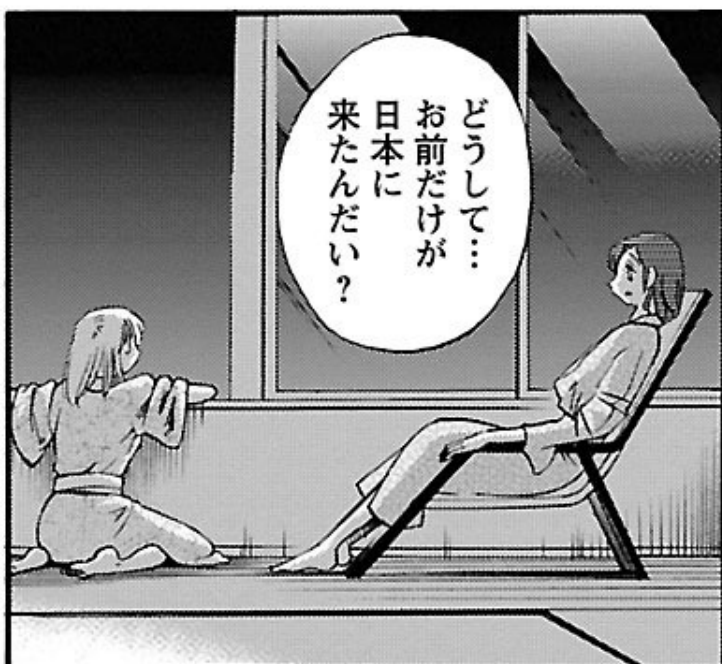
最終話 絆 きずな



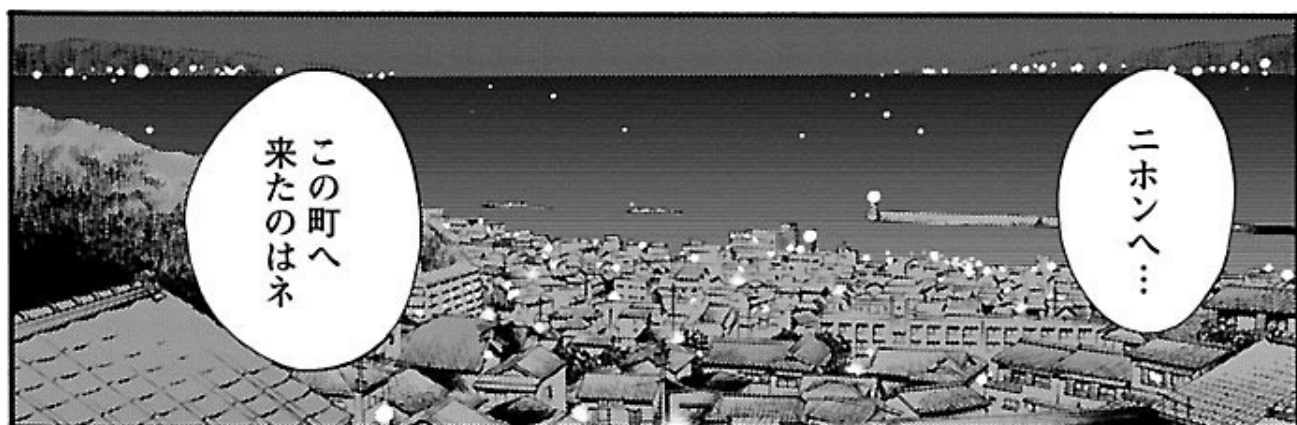
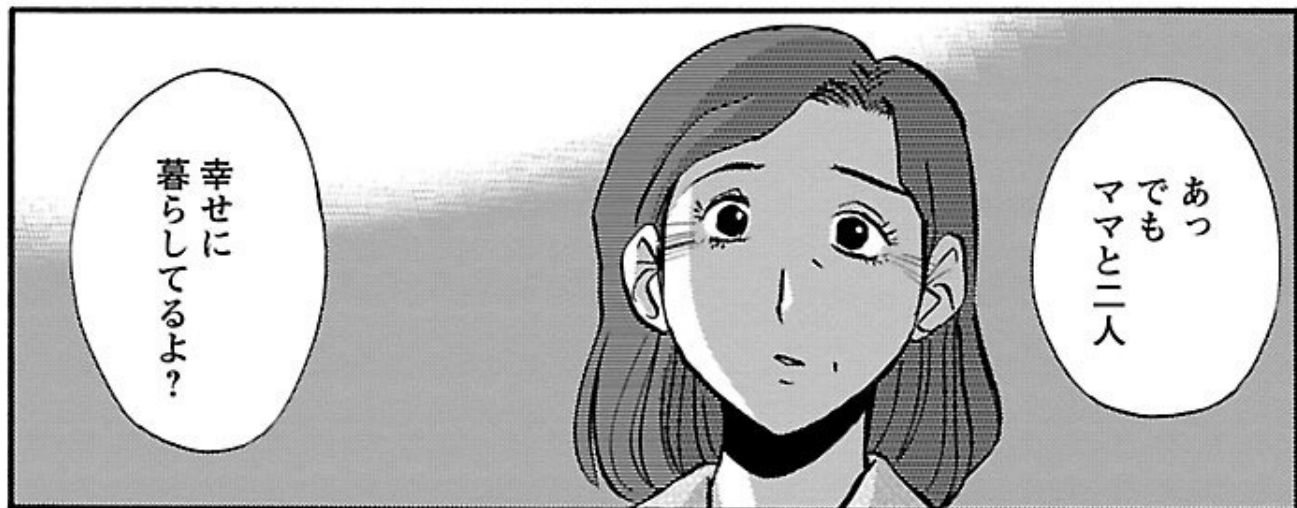










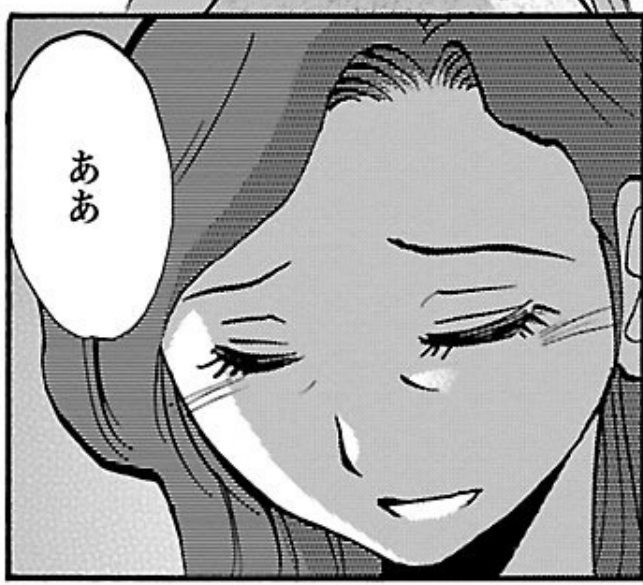




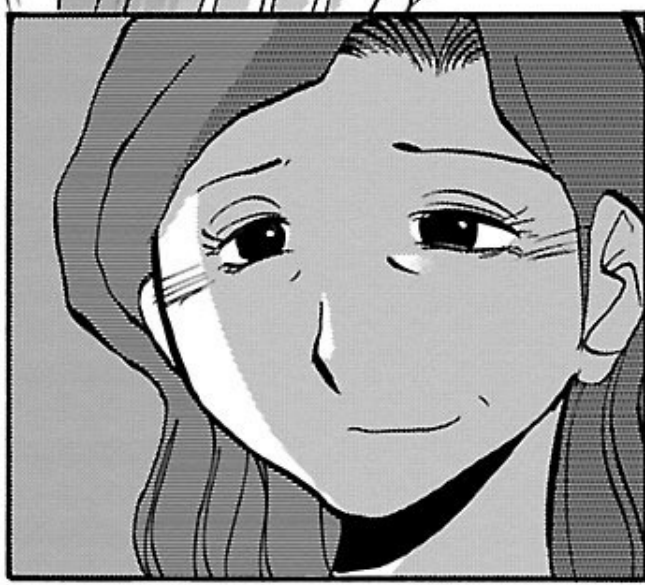
サクラもきつと
そこへ行ったら

みんなの家族に
なれるよ
——って

……
そう言うたから



ああ



ママの
言うとおりだよ
——サクラ







僕らは
もっと早く
そう思うべき
だったんだよね



そうだよね…

うん



ベトナムに残った
あやめの想いも
あったろう

え…？

そう
思ったから

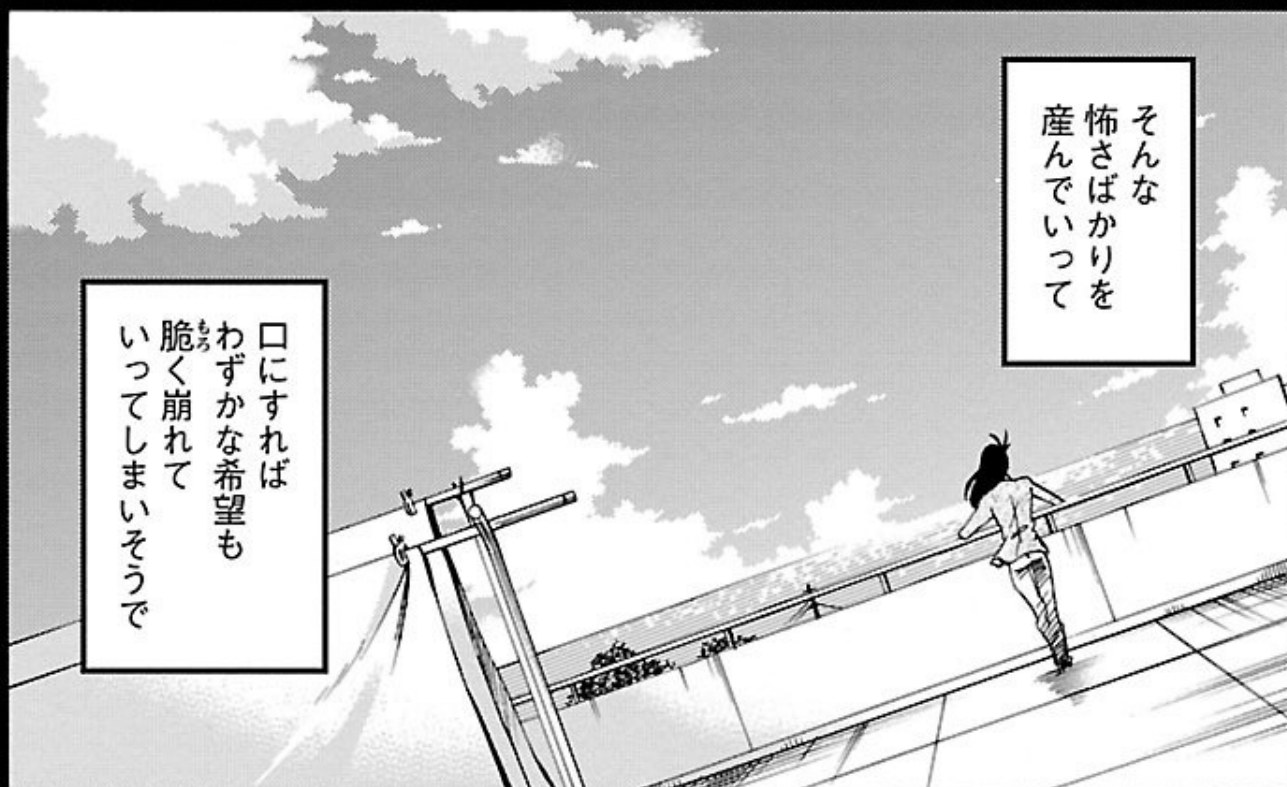
誰もなにも
言わずに
時だけが
過ぎていつて

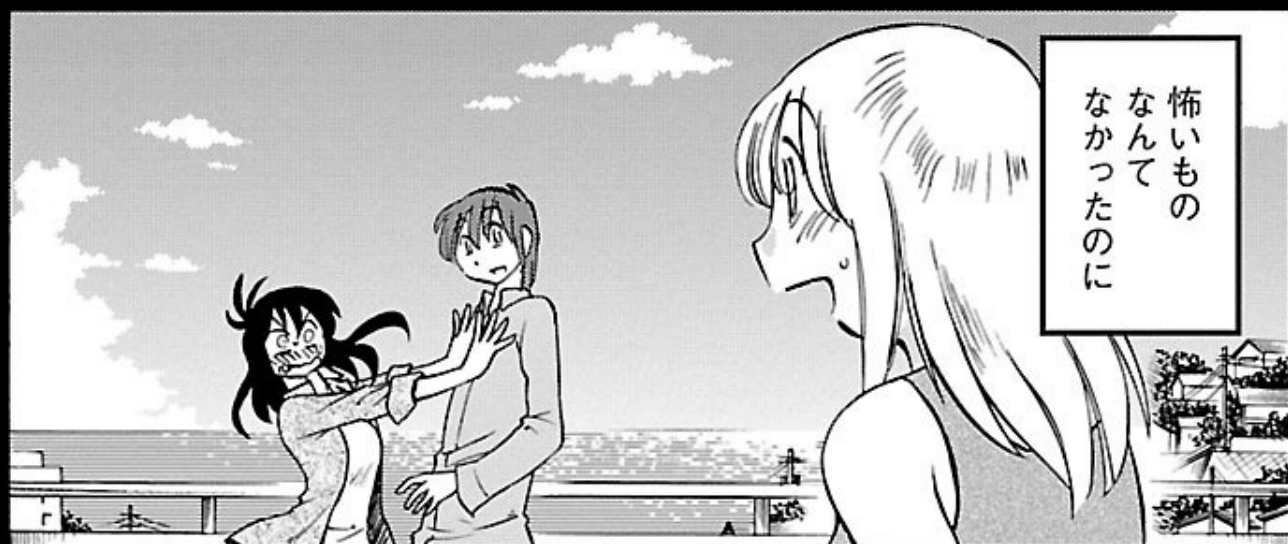


でもやがて
その時間は

あやめとは
もう二度と
会えないんだ
なんて

そんなことを
誰かが
口にするんじや
ないのかと





怖いもの
なんて
なかったのに



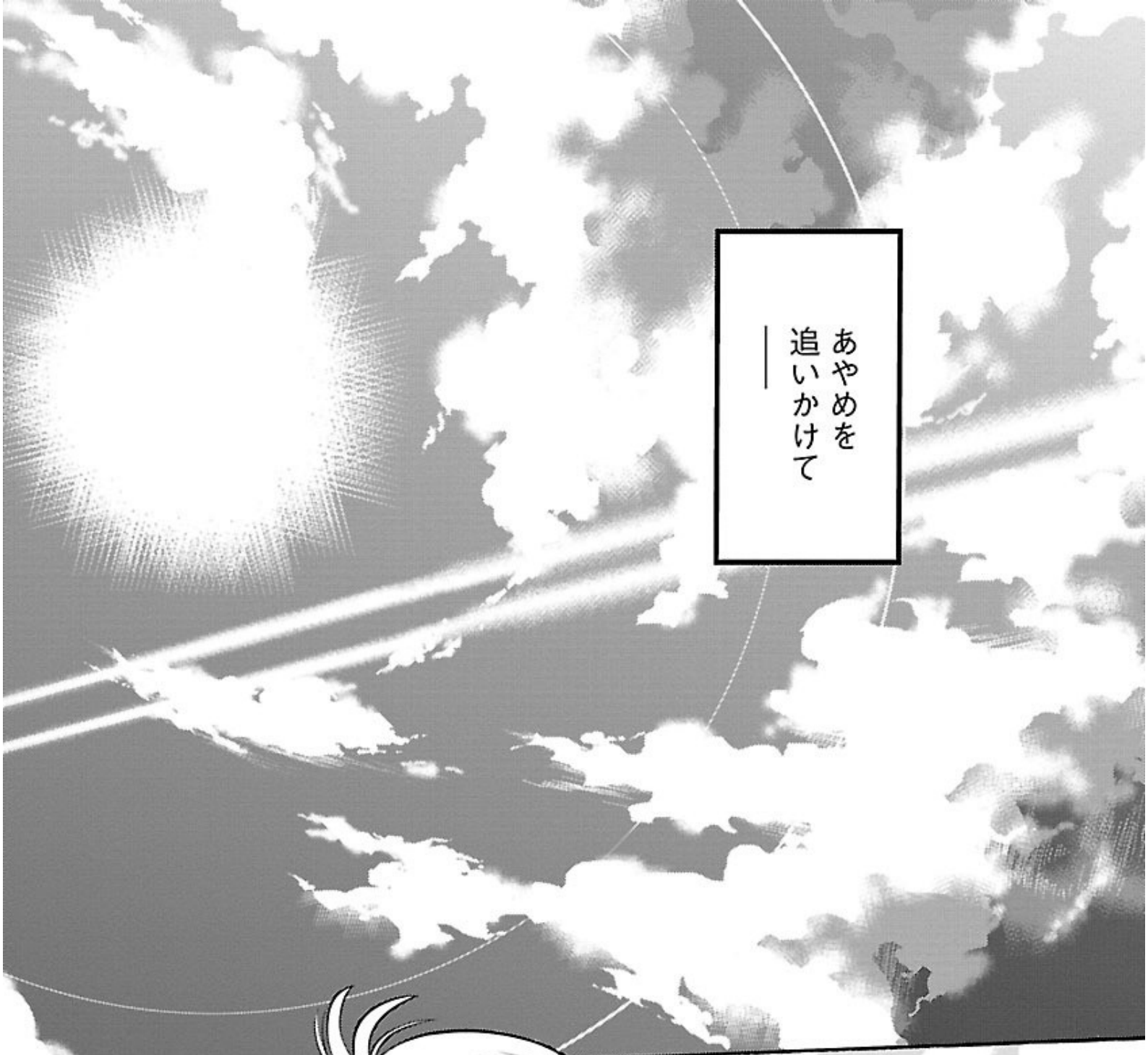
いつも
あやめに
怒られ

きと
諭され




思うまま
求めるまま

素直
だった
じゃないか



あやめを
追いかけて



——わあ



すごーい
キレイネー



この浜辺はね
今はこんな
だけど

お父さんたちの
小さい頃は
ゼーんぶ
砂浜だったん
だつて

今は
見るカゲも
ないけどさ

へエー

テトラ
がらげどお

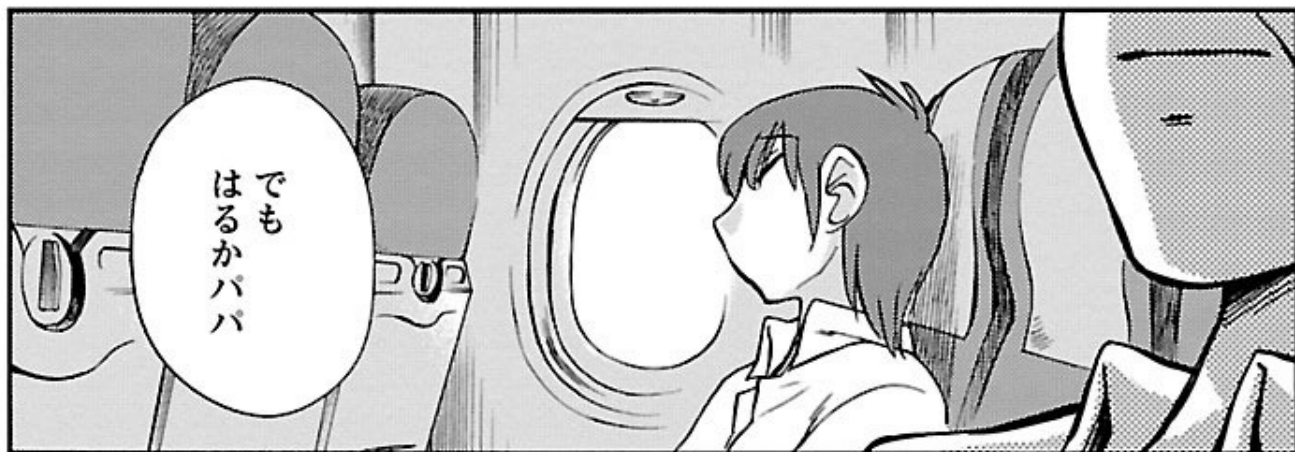
でしょー
今いっぱい
咲いてんだー

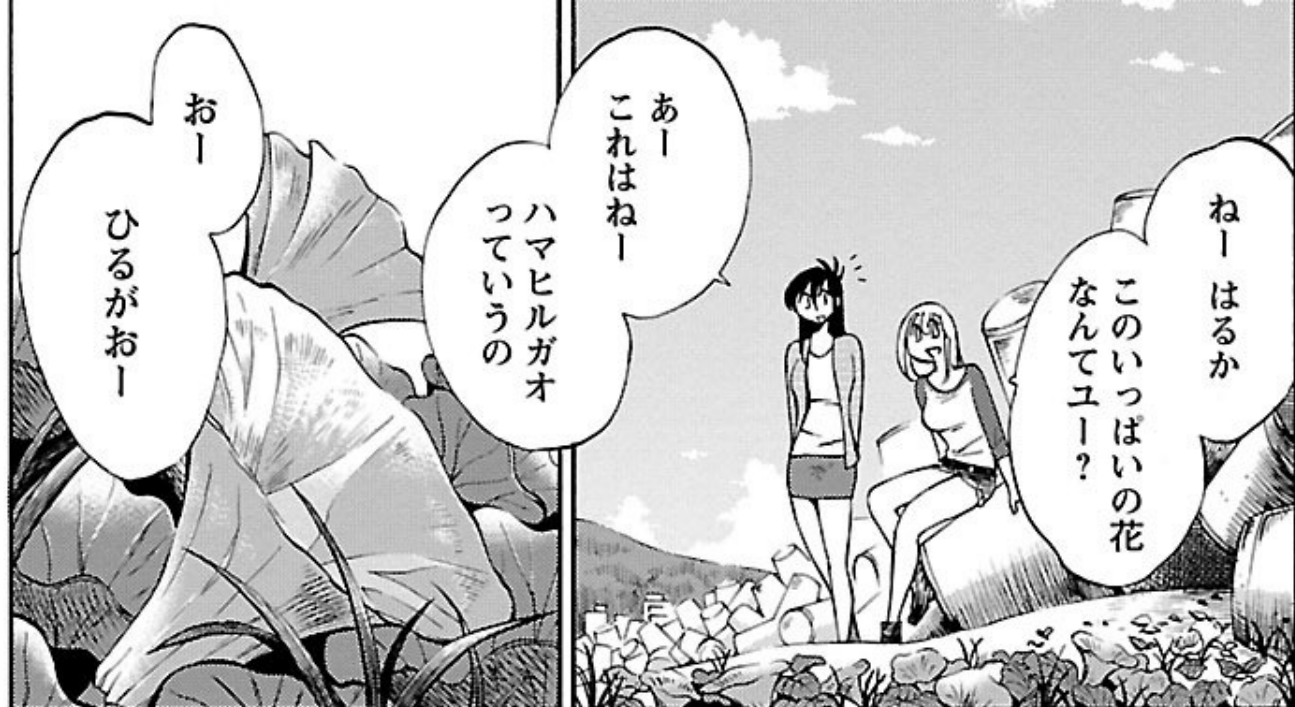
そういえば
はるかパパは
もう
着いたかナー？

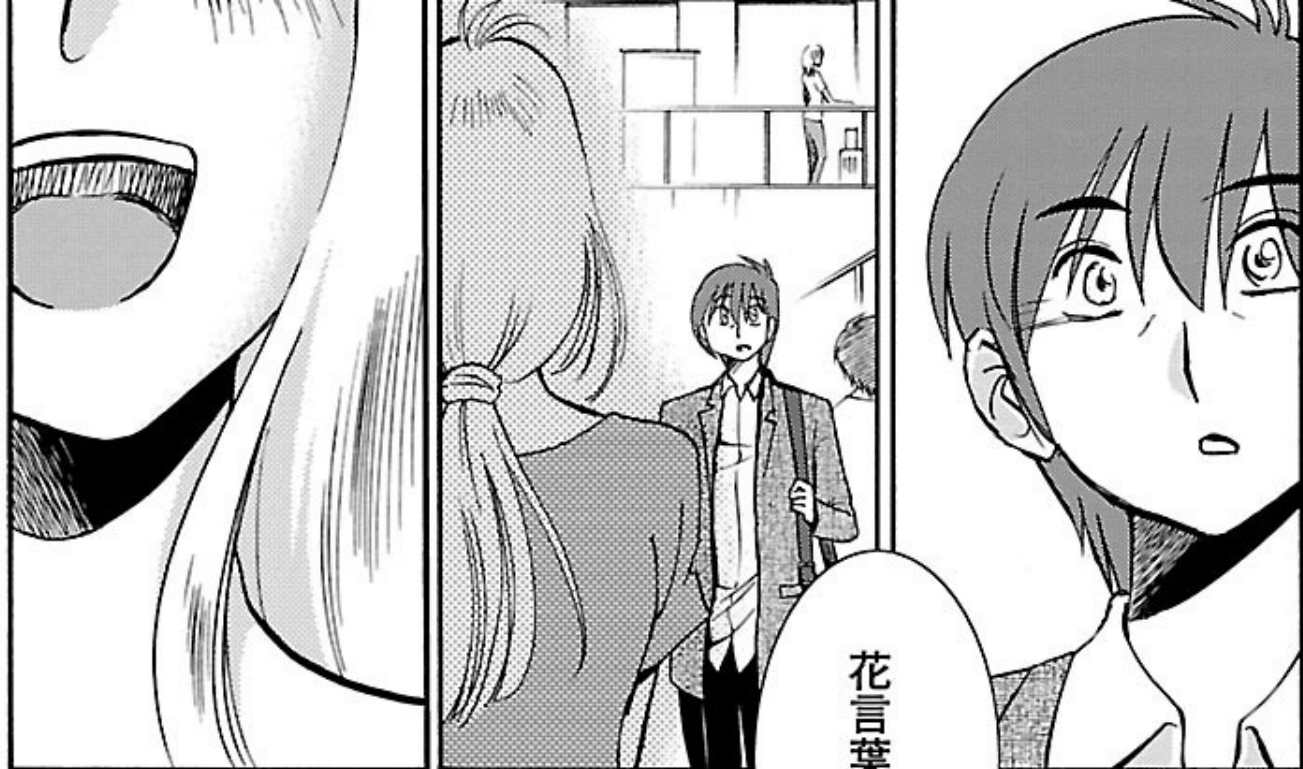
まだ
空の上
じゃない？

でも……
パパ行動力
すごいねー

ほんとにねー







花言葉はね



—
絆

『ひるがお』完

初出

アクションビザッツ 2015年2月号～9月号

あやめ

このお話のキモになる部分として
“ふたりの母親”という設定があります。

そもそも、相羽家に跡取りのための養子をとろうとしたとき、男の子が来るはずだったのに女の子のあやめがきてしまうところからこのややこしい関係ははじまっています。このくだりは“赤毛のアン”でアンが孤児院から男の子と間違っ て来てしまったエピソードから着想を得ました。もともとその後まだ少女だったあやめに父、清治が手を出すというクズっぷりは別ですが(笑)。

ちなみに、そんな父の言い訳というか、あやめの出自の設定ですがまず、あやめは孤児で、養護施設にいました。本人の希望もあり、やがて相羽家の養子に入ったものの、その家は右も左もわからぬ大きな旅館で、しかも手違いとはいえず望まれた男の子ではなかったことで跡取りとなることもできない。当然、そんな彼女は厄介者扱いをされることとなります。しかしそんな中、清治だけはなにかと優しく構ってくれました。そんな彼にやがて父性を超えて男性としての魅力を感じるようになっていったのは、ある意味自然でもあったわけです。当然、母は忸怩たる思いだったでしょうが、それでも産まれてきた陽くんへの愛情はやがて生みの母であるあやめと同じか、それ以上のものになっていったのでした。

作中でそういった話も描きたかったのですがあやめの年齢的に・・・描けなかったですね(笑)。



連載が始まってすぐの頃、北海道をぶらりと旅しました。
その終わりに洞爺駅で夜行列車を待っていたときのこと。
すぐ近くの浜まで歩いて行くと、そこには海を向いたベンチがあつて
そのまわりにはひるがおが咲き乱れてました。
最終回のシーンはこんな場所にしようとそのときに決めました。

その場面まで描くことが出来て本当によかったです。



この作品を担当してくれた岩井さん、中村さん、金光さん、そしてデザイナー様、さらにスタジオシトミのスタッフのみんな、ありがとうございました。

隔月連載から始まって最終回まで5年あまりかかってしまいましたが
なにより最後まで読んでくださった読者の皆様、本当にありがとうございました。
また次回作でお会いできればと思います。

2015.8.16 盛夏に。

「ひるがお」は第1話から携わらせていただきました。建物の造りや町の様子等たくさんものを0から作っていったというのもあって、思い入れの強い作品です。最初艶々先生から任された時は、こんなペーペーに出来る訳ないとウンウン唸りながら頭を抱えっぱなしでした。それでも、つたないながらも最後まで「ひるがお」の世界を作りあげられてよかったです。お疲れ様でした！

きっしー





ひろがおは途中から
参加だったんですが
最後まで携わらせて
もらえて、とてもありがたく
思います!

これで陽くんたちと
お別れかと思うと
とても悲しくて
最後の最後には
はっちゃんがい
ました……。

たなせ



ひろがあい

おっかれ様でした!

艶々先生
おっかれ様
でした!

スタジオシトミも

絆で

結ばれておりますよ!!

きんつぱ
てあ
ジニー

ANGEL COMICS

ひるがお ⑤

2015年10月17日第1刷発行

著者 ————— つやつや
艶々

発行者 ————— **梓沢雅治**

発行所 ————— **株式会社エンジェル出版**

〒162-0813 東京都新宿区東五軒町3番28号
電話 03-5261-4860 (営業)

装幀 ————— **古谷昌博** (神楽坂マガジン社)

印刷所 ————— **慶昌堂印刷株式会社**

製本所 ————— **株式会社若林製本工場**

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製・転載は著作権法上での
例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンや
デジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用でも著作権法違反です。

©TSUYATSUYA 2010

ISBN978-4-87306-672-1 C9979

■この物語はフィクションです。登場人物・団体等はすべて実在のものとは関係ありません。

デジタル版 2015年発行

製作所 デジタルカタパルト株式会社
<http://www.digital-catapult.com>